



大学院案内

RITSUMEIKAN
GRADUATE SCHOOL GUIDE
2021

立命館大学 大学院

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
大学院課 衣笠キャンパス 至徳館4F
Tel. 075-465-8195

立命館大学 大学院 入試情報サイト

検索

詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。<http://ritsumeikai.ac.jp/gr/>
本内容に掲載されている内容については、変更または中止される場合があります。

本誌におけるインタビュー記事(Topic1 大学院生活、Topic3 キャリアパス支援制度利用者の声、Topic5 科研費受給者の声、Interview)について、在学生の所属・回生、教育組織・プログラム、活用した奨学金・支援制度名称、役職等はインタビュー当時または在学当時のものであり、現時点において最新の情報ではない場合があります。



2020.04

立命館大学

立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。

立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類の諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

Contents

立命館大学大学院 研究科の概要	02	経済学研究科	34
特色あるキャンパス	03	スポーツ健康科学研究科	35
Topic1 大学院生活	05	理工学研究科	36
Topic2 学費	13	情報理工学研究科	37
Topic3 キャリアパス形成支援	15	生命科学研究科	38
Topic4 大学院生の進路・就職	19	薬学研究科	39
Topic5 立命館の研究力	21	経営学研究科	40
Topic6 立命館の国際性	23	政策科学研究科	41
Interview	25	テクノロジー・マネジメント研究科	42
研究科紹介		経営管理研究科[ビジネススクール]	43
法学研究科	27	人間科学研究科	44
社会学研究科	28	法務研究科[法科大学院]	45
国際関係研究科	29	教職研究科[教職大学院]	46
文学研究科	30	大学院入試 出願の流れ	47
映像研究科	31	各キャンパスへのアクセス	49
言語教育情報研究科	32	立命館大学大学院に関する情報の入手方法	50
先端総合学術研究科[5年一貫制博士課程]	33		

立命館大学大学院 研究科の概要

(2020年3月現在)

衣笠 CAMPUS



	課程	専攻	学位	入学定員
法学研究科 Graduate School of Law	博士課程前期課程	法学専攻	修士(法学)	60名
	博士課程後期課程	法学専攻	博士(法学)	10名
社会学研究科 Graduate School of Sociology	博士課程前期課程	応用社会学専攻	修士(社会学)	60名
	博士課程後期課程	応用社会学専攻	博士(社会学)	15名
国際関係研究科 Graduate School of International Relations	博士課程前期課程	国際関係学専攻	修士(国際関係学)	60名
	博士課程後期課程	国際関係学専攻	博士(国際関係学)	10名
文学研究科 Graduate School of Letters	博士課程前期課程	人文学専攻	修士(文学)	70名
		行動文化情報学専攻	修士(文学)	35名
	博士課程後期課程	人文学専攻	博士(文学)	20名
		行動文化情報学専攻	博士(文学)	15名
映像研究科 Graduate School of Image Arts	修士課程	映像専攻	修士(映像)	10名
言語教育情報研究科 Graduate School of Language Education and Information Science	修士課程	言語教育情報専攻	修士(言語教育情報学)	60名
先端総合学術研究科 Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences	一貫制博士課程	先端総合学術専攻	博士(学術)	30名

びわこ・くさつ CAMPUS



経済学研究科 Graduate School of Economics	博士課程前期課程	経済学専攻	修士(経済学)	50名
	博士課程後期課程	経済学専攻	博士(経済学)	5名
スポーツ健康科学研究科 Graduate School of Sport and Health Science	博士課程前期課程	スポーツ健康科学専攻	修士(スポーツ健康科学)	25名
	博士課程後期課程	スポーツ健康科学専攻	博士(スポーツ健康科学)	8名
理工学研究科 Graduate School of Science and Engineering	博士課程前期課程	基礎理工学専攻	修士(理学)修士(工学)	50名
		電子システム専攻	修士(工学)	140名
		機械システム専攻	修士(工学)	140名
	博士課程後期課程	環境都市専攻	修士(工学)	120名
		基礎理工学専攻	博士(理学)博士(工学)	6名
		電子システム専攻	博士(工学)	8名
情報理工学研究科 Graduate School of Information Science and Engineering	博士課程前期課程	情報理工学専攻	修士(工学)	200名
	博士課程後期課程	情報理工学専攻	博士(工学)	15名
生命科学研究科 Graduate School of Life Sciences	博士課程前期課程	生命科学専攻	修士(理学)修士(工学)	150名
	博士課程後期課程	生命科学専攻	博士(理学)博士(工学)	15名
薬学研究科 Graduate School of Pharmacy	修士課程	薬科学専攻	修士(薬科学)	20名
	博士課程	薬学専攻	博士(薬学)	3名

大阪いばらき CAMPUS



経営学研究科 Graduate School of Business Administration	博士課程前期課程	企業経営専攻	修士(経営学)	60名
	博士課程後期課程	企業経営専攻	博士(経営学)	15名
政策科学研究科 Graduate School of Policy Science	博士課程前期課程	政策科学専攻	修士(政策科学)	40名
	博士課程後期課程	政策科学専攻	博士(政策科学)	15名
テクノロジー・マネジメント研究科 Graduate School of Technology Management	博士課程前期課程	テクノロジー・マネジメント専攻	修士(技術経営)	70名
	博士課程後期課程	テクノロジー・マネジメント専攻	博士(技術経営)	5名
経営管理研究科[ビジネススクール] Graduate School of Management	専門職学位課程	経営管理専攻	経営修士(専門職)	80名
人間科学研究科 Graduate School of Human Science	博士課程前期課程	人間科学専攻	修士(人間科学)修士(心理学)	65名
	博士課程後期課程	人間科学専攻	博士(人間科学)博士(心理学)	20名

朱雀 CAMPUS



法務研究科[法科大学院] School of Law	専門職学位課程	法曹養成専攻	法務博士(専門職)	70名
教職研究科[教職大学院] Graduate School of Professional Teacher Education	専門職学位課程	実践教育専攻	教職修士(専門職)	35名

・*: 夜間にも講義を行っています。詳細は各研究科のウェブサイトをご覧ください。各研究科事務室までお問い合わせください。

・E 授業を英語で行う科目のみで学位取得に必要な単位を取得できる研究科および課程

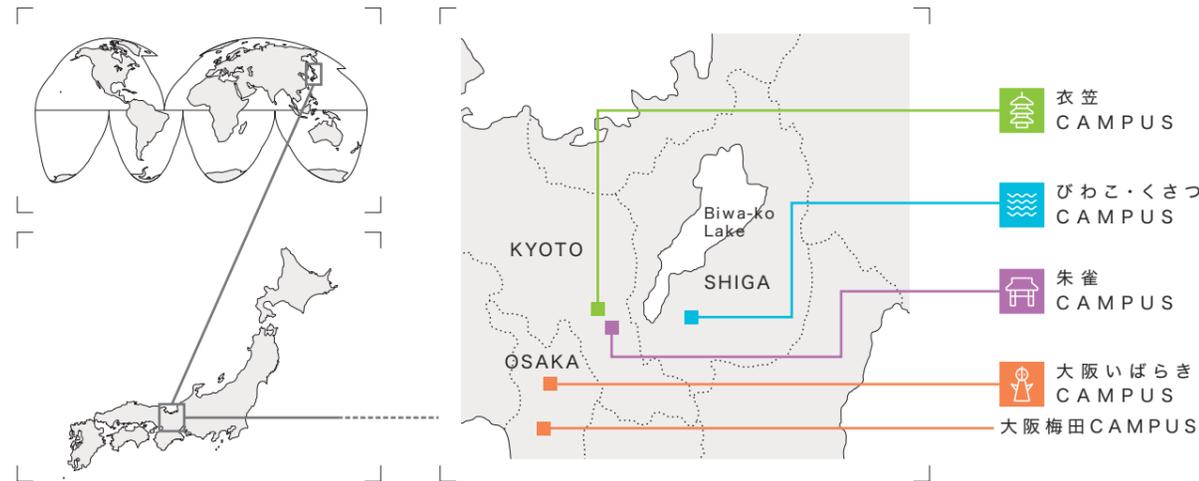
地域に根ざし、世界と協働する 教育・研究を支える4つのキャンパス

日本の文化、政治、経済の中心地として長らく栄えてきた関西。

日本の歴史を受け継ぐ世界遺産や国宝を数多く有するだけでなく、古都京都、自然豊かな滋賀、ビジネスの街大阪、と象徴されるように、さまざまな個性と魅力をあわせもち、世界を代表する国際都市として日々発展を続けています。

それぞれ特色あるエリアに配置した4つのキャンパスで相互連携し、

人類・自然・地域社会の発展に貢献する最先端の取り組みに挑戦しています。

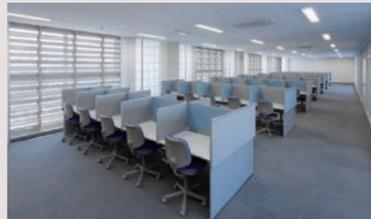


■大学院生の学修・研究環境

立命館大学では、大学院生の多様な研究スタイルに対応できる環境の整備を進めています。

個人で学修・研究を集中して行える 「研究スペース」

静寂性に配慮したクローズな空間として大学院共同研究室を整備。パーティションで仕切られたキャレラデスクで論文執筆や発表資料などを落着いて進めることができます。



大学院共同研究室 (OIC)

グループでの作業やミーティングで活用できる 「打ち合わせスペース」

共同研究などでグループ作業を行う際や簡単なミーティングをすることができるスペースを整備。パソコンやプリンターもあります。



究論館打ち合わせスペース (衣笠)

研究成果を発信して研究科を越えた交流を促進する 「コミュニケーションスペース」

オープンな形式でのセミナーやプレゼンテーション、ポスターセッションを開催するなど、研究科を越えてコミュニケーションが図れるスペース。キッチンやカウンターも完備し、一息つけるラウンジとしての空間もあります。



究論館パフォーマンススペース (衣笠)

日本国内有数の蔵書冊数を誇る 「図書館・資料室」

蔵書冊数は私立大学トップクラス(約330万冊)、各資料室には専門性の高い研究資料を多く所蔵。大学院生は100冊を100日間借りることができます。



平井嘉一郎記念図書館 (衣笠)

■キャンパス紹介



京都 / 衣笠 CAMPUS

古都・京都の歴史と文化が息づく、
多様な人文社系研究科が集まるキャンパス

古くから日本の中心として、長く厚みのある歴史をもち、多くの文化遺産に囲まれた地、京都。その中でも、古都の名刺に囲まれた閑静なエリアに位置し、日本の伝統や文化に触れながら先端の研究を世界へ発信する、伝統と創生のキャンパス。

- 法学研究科 ● 社会学研究科 ● 国際関係研究科 ● 文学研究科 ● 映像研究科
- 言語教育情報研究科 ● 先端総合学術研究科



滋賀 / びわこ・くさつ CAMPUS

豊かな自然を活かし、国際水準の教育・
研究環境を備えたキャンパス

私立大学最大級の理系教育・研究施設を備えるびわこ・くさつキャンパス (BKC) は、琵琶湖を含む大自然や、企業の研究施設が近くに位置する立地を活かした研究活動を実施しています。世界標準の教育研究、知見、技術を創出し、世界・地域へ発信するイノベティブ・キャンパス。

- 経済学研究科 ● スポーツ健康科学研究科 ● 理工学研究科
- 情報理工学研究科 ● 生命科学研究科 ● 薬学研究科



大阪 / 大阪いばらき CAMPUS

商都・大阪で教育・研究のフィールドを
アジアへと広げるキャンパス

大阪いばらきキャンパス (OIC) は、「アジアのゲートウェイ」として国際的な学びの拠点として位置づけています。また、「商都・大阪」という地域性を活かして、地域・社会と連携した教育・研究を進化させている最新のキャンパス。

- 経営学研究科 ● 政策科学研究科 ● テクノロジー・マネジメント研究科
- 経営管理研究科 [ビジネススクール] ● 人間科学研究科

■サテライトキャンパス 大阪梅田 CAMPUS 大阪・梅田駅前に位置する、アクセス至便のキャンパス

社会的ネットワークの強化や就職支援に加え、
学び・研究の拠点として大学院の授業を展開。
多目的に利用できる最新設備を備えています。

- 言語教育情報研究科
- テクノロジー・マネジメント研究科
- 経営管理研究科 [ビジネススクール]



京都 / 朱雀 CAMPUS

京都の歴史・文化と、都市の利便性・
充実の研究設備をあわせもつキャンパス

専門職大学院を抱え、多様な研究スタイルに応える充実した研究設備や自習環境を備えています。古都・京都の中心部に位置し、京都の歴史・文化に触れながら、都市型キャンパスの利便性をあわせもつキャンパス。

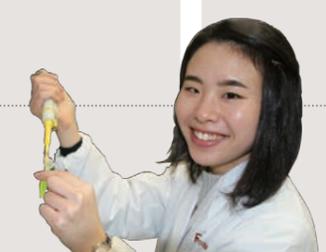
- 法務研究科 [法科大学院]
- 教職研究科 [教職大学院]

大学院における研究活動の流れ

大学院生がどのように研究や就職活動を行っているかご存知ですか。各課程の例をご紹介します。

※以下は過ごし方の例であり、研究科や個人により異なります。

		博士課程前期(修士)課程	博士課程後期課程	専門職学位課程(MBA) [マネジメントプログラムの例]	専門職学位課程(教職)	専門職学位課程(法務) [法律未修者の例]	4年制博士課程	一貫制博士課程		
1年目	春学期	<ul style="list-style-type: none"> 授業選択 修士論文のテーマを見つける 		<ul style="list-style-type: none"> 基礎科目を中心に履修(春1クォーター・春2クォーター) 「フィールドワーク」を受講(夏集中科目) 	<ul style="list-style-type: none"> 実習校・コースの決定 教員採用試験の受験準備 教職専門研修(実習)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 講義科目で徹底して各法の基礎を学ぶ 実務家教員による「法曹倫理」を受講 エクステンションセンター講座を受講(司法試験合格まで) 	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの設定、課題絞り込み 研究計画書提出 研究の具体化 	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題の絞り込み 研究指導計画書提出 論文作成基礎力養成 調査、資料収集、文献研究等 		
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> 就職活動の準備、情報収集 修士論文のテーマを絞る 勉強会への参加 就職活動準備 	<p>CHECK!</p> <p>博士課程後期課程に進学する場合は2年目の秋学期に入学試験を受験する場合があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 展開科目を中心に履修(秋1クォーター・秋2クォーター) 	<ul style="list-style-type: none"> 教職専門研修報告会 コース科目の履修 2年目の長期実習に向けた振り返りと計画作成 		<ul style="list-style-type: none"> 研究中間発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題の具体化 論文作成基礎力養成 調査、資料収集、文献研究等 		
2年目	春学期	<ul style="list-style-type: none"> 学会参加、発表 就職活動 修士論文の研究計画書の立案 			<ul style="list-style-type: none"> 課題研究レポートのテーマを設定し、執筆開始(春1クォーター) 課題研究と展開科目を中心に履修(春1クォーター・春2クォーター) 	<ul style="list-style-type: none"> 教員採用試験の受験準備 教職専門研修の実施と報告会 	<ul style="list-style-type: none"> 演習科目で応用力を身につける 基礎法学・隣接科目で視野を広げる 夏期短期海外プログラムなどで国際性を磨く 	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画の進捗確認・見直し 学会参加、発表 	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導計画書提出 紀要・学会誌等の論文執筆 調査、資料収集、文献研究等 博士予備論文執筆 	
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> 中間報告会準備・発表 修士論文の提出 口頭試問、公聴会 修士号取得 			<ul style="list-style-type: none"> 課題研究レポートを提出(秋1クォーター) 口頭試問(秋2クォーター) 	<ul style="list-style-type: none"> 実習の振り返りと理論化を行い、「理論と実践の往還」による学びの成果を教育実践探究論文にまとめる 		<ul style="list-style-type: none"> 研究中間報告会 投稿論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> 博士予備論文提出、口頭試問 修士課程相当30単位を取得 調査、資料収集、文献研究等 ※修士号取得退学可 	
3年目	春学期	<p>国際関係研究科 / 2017年度修了 片岡 由里さん ▶ P.07</p>		<ul style="list-style-type: none"> 博士論文テーマの絞り込み 研究会参加 ゼミでの研究報告 			<p>CHECK!</p> <p>法学未修者コース：3年 法学既修者コース：2年の2つのコースがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 臨床科目で法実務の現場(法律相談)を体験 選択科目を受講しながら将来の専門分野を検討 司法試験に出願(修了後に受験*) <p><small>*司法試験の受験時期は関連法案の改正により変更になる場合があります</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画の見直し、精緻化 	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導計画書提出 学会参加、発表 紀要・学会誌等の論文執筆 調査、資料収集、文献研究等
	秋学期	<p>政策科学研究科 / 2008年度修了 別所 弘茂さん ▶ P.09</p>		<ul style="list-style-type: none"> 海外リサーチ リサーチ資料の整理・分析 論文投稿 				<ul style="list-style-type: none"> 研究中間報告会 学会参加、発表 	<ul style="list-style-type: none"> 学会参加、発表 調査、資料収集、文献研究等 	
4年目	春学期	<p>法学研究科 / 在学生 笹谷 珠希さん ▶ P.10</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料収集・資料整理・分析 学会参加、発表 2本目の論文投稿テーマ設定 					<ul style="list-style-type: none"> 博士論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導計画書提出 調査、資料収集、文献研究等 学会参加、発表 紀要・学会誌等の論文執筆 	
	秋学期	<p>情報理工学研究科 / 2016年度修了 生藤 大典さん ▶ P.08</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料分析 投稿論文執筆 博士論文執筆 					<ul style="list-style-type: none"> 博士論文提出 口頭試問 公聴会(一般公開) 博士号取得 	<ul style="list-style-type: none"> 調査、資料収集、文献研究等 学会参加、発表 博士論文執筆 	
5年目	春学期	<p>生命科学研究科 / 在学生 藤原 彩乃さん ▶ P.11</p>	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文構想発表会 博士論文執筆 学会参加、発表 						<ul style="list-style-type: none"> 研究指導計画書提出 博士論文構想発表会 調査、資料収集、文献研究等 紀要・学会誌等の論文執筆 	
	秋学期	<p>経営学研究科 / 在学生 小倉 優海さん ▶ P.12</p>	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文提出 口頭試問、公聴会 博士号取得 				<ul style="list-style-type: none"> 調査、資料収集、文献研究等 博士論文提出 口頭試問、公聴会(一般公開) 博士号取得 	<ul style="list-style-type: none"> 調査、資料収集、文献研究等 博士論文提出 口頭試問、公聴会(一般公開) 博士号取得 		



P.07~12のインタビュー記事は、個人の当時の経験や感想を通して、大学院での生活や雰囲気をご紹介することを主旨としており、当該研究科の現在のカリキュラム、プログラム、状況等とは異なる場合があります。

修了生からのアドバイス

国際関係研究科 博士課程前期課程 2017年度修了

片岡 由里さん 国家公務員



学部時代に立命館アジア太平洋大学の国際的な環境で学んだ私は、国際関係学をより専門的に学ぶために国際関係研究科への進学を決めました。また、日本が世界からどのように見られているかを知りたいと思い、GJP(日本人学生と留学生が共に英語で学ぶプログラム)を選択いたしました。国連や外務省での勤務経験がある先生方の授業は、知的好奇心がくすぐられ、「楽しい!」「もっと知りたい!」と感じるものばかりでした。また授業では、専門知識を得るとともに、かけがえのない仲間にも出会えました。国家公務員として、この経験を活かしながら、日本と世界の平和と安定に寄与できるように一生懸命頑張りたいと思っています。



大学院での2年の過ごし方

1回生		2回生	
前期	後期	前期	後期
・研究科の授業 ・公務員講座	・研究課題の決定 ・公務員講座	・公務員試験	・修士論文執筆

大学院生活でのエピソード

幅広いバックグラウンドを持った学生たちとの、深く濃い人間関係

授業中や休み時間にクラスメイトと各国の現状について話し合う機会が多くありました。その際、メディアでは伝えられないことも含め、学生たちが自分の言葉で自国の実情を語ってくれました。また、日本が世界からどう見られているのか、何を求められているのかを直接聞くことができました。期待した通りの環境が大学院にあり、とても満足いたしました。研究科にいた殆どの国際学生が、それぞれの国の公務員でした。彼らの母国に対する熱い想いを聞くにつれ、私も国のために働きたいという気持ちが強まりました。



キャンパスイメージ▶

エクステンションセンターを活用し、公務員試験に向けて勉強

国家公務員を志望することにした私は、日本の現状を調べ、世界における日本の立場について自分なりの考えを持つようにすると共に、学内のエクステンションセンターを利用して公務員試験の勉強に取り組みました。ほぼ毎日公務員講座があったので、平日は研究科の課題をメインにこなし、土日に図書館や自習室で公務員試験の勉強に取り組むよう努めました。ゼミの先生が応援してくださったおかげもあって、無事に合格することができました。

立命館大学には、エクステンションセンターがあります。

資格取得や難関試験合格を目指す皆さんへ、学習サポートやその後のキャリアを見据えた進路・就職支援を行う機関です。立命館大学では、公務員試験(主に国家公務員総合職採用試験)・公認会計士試験・司法試験を難関試験として位置づけ様々な支援を行っています。



大学院進学の魅力、強みと考えていること

問題や課題への対応力につながる、「研究のしかた」が学べる

国際関係研究科では、国際学生と議論する場面が多くあります。日本に軸足を置きつつも、国際学生の目を通した世界から日本を見て、「日本がどうするべきか、何を期待されているのか」を考えられることは、海外留学とも違う研究科独自の価値だと思います。

国際的という観点においては、私が卒業した大学と大学院の環境は似ています。しかし、大学院に進学して良かったと感じることは、専門的な知識を得ることはもちろん、「研究のしかた」を学ぶことができたことです。例えば問題が発生した際、それが起こった原因・背景は何か、どのようなアプローチが適切か、その方法をとることによって何が起こりうるか、多角的に物事を分析する練習ができました。



大学院進学を検討する人へ

大学院に進学しようか迷っていらっしゃる方は、ぜひ様々な情報を集めてみてください。実際に大学院の関係者とお話しされると、より明確にイメージができるかと思えます。ご自分が納得できる進路を選択されますように、応援しております。

修了生からのアドバイス

情報理工学研究科 博士課程後期課程/2016年度修了

生藤 大典さん NEC



私は、「超音波スピーカを利用した音空間の構築」を研究してきました。超音波スピーカはビーム状の狭い範囲のみに音を再生できるスピーカで、例えば同じ室内にいる複数人に対して、まったく異なる音楽や音声を届けることが可能です。ただ、超音波スピーカは一般的なスピーカと比較して音質が悪く、制御が難しいという課題があります。そこで、私は超音波スピーカに特化した再生方式、制御方式を研究し、音空間を構築するための音響システムを開発しました。この時の研究は、現在私が取り組んでいる信号処理技術の開発、特に衛星レーダの信号処理の研究開発に大いに役立っています。



大学院での5年の過ごし方

前期1回生	前期	・国内学会(島根)
	後期	・国際学会(ハワイ)、学術論文採録
前期2回生	前期	・国際学会(香港)
	後期	・修士論文執筆、国内学会(兵庫)、学術論文採録
後期1回生	前期	・日本学術振興会特別研究員(DC1)として採用、国際会議(バンクーバー)
	後期	・国内学会(山口)、電気通信普及財団第28回テレコムシステム技術学生賞佳作
後期2回生	前期	・学術論文採録、国内学会(三重)
	後期	・国際学会(カンボジア、メルボルン)
後期3回生	前期	・就職活動、国際会議(サンフランシスコ)
	後期	・国際学会(香港)、博士論文執筆・公聴会

大学院生活でのエピソード

国際学会

博士前期課程1回生から博士後期課程3回生までの5年間、年に少なくとも2回は国際学会で発表できるように研究に取り組んできました。研究成果をより社会に活かすものにするためには、国内外問わず様々な視点の意見が必要だと考え、必死に苦手な英語を駆使して原稿を執筆し、発表に取り組みました。また、研究者として社会に進出するための力を磨くためにも国外での活動を重要視しました。ちなみにある国際学会でNECのベテラン研究者の方からインターンのお話をいただいたお陰で、現在私はNECの研究者として活動しています。



広報活動支援

博士後期課程では、所属研究室の研究内容がテレビや新聞などで紹介される機会も増え、その都度、広報活動をサポートすることも多々ありました。中には私の研究テーマ以外が取り上げられることもありましたが、将来民間企業の研究者を目指す私にとって研究成果が社会でどのように見られるのか、または見せることができるのかを知る貴重なチャンスでした。これらの経験は、良く世の中のニーズに合う研究成果を産み出していきたい!という私の今の仕事の切っ掛けにもなっていると感じています。



大学院進学の魅力、強みと考えていること

圧倒的な知識量と経験値

大学院に進学するということは、学術的な研究を深く追究することと、そのための知識やノウハウは学部卒とは比になりません。特に研究を進めるためのノウハウを会得することは社会で活躍するために重要です。社会に出て分かったことですが、大学の研究と会社での技術的な仕事の進め方の根本は同じです。大学院では少なくとも2年間、この能力を養うことに専念できます。

対外的な研究活動

学部での研究と大学院での研究の大きな違いは対外的な成果発表の場が増えるという点だと思います。国内外問わず発表する経験も得られ、将来、研究者としての道を考えている人はもちろん、企業の技術職を目指す人にとっても、自らの成果に価値を持たせるための発表スキルを養える絶好の機会になります。これらの基礎を自分の得意分野で習得できるのは大学院生ならではの特権だと思います。

大学院進学を検討する人へ

自分の興味のある研究分野で活動しながら社会で求められる能力を養えるのはおそらく大学院の間だけになると思います。特に理系においては大学院卒というステータスは大きな意味を持ちます。将来の可能性を大きく広げるためにも大学院への進学を強くお勧めします。

修了生からのアドバイス

政策科学研究科 博士課程前期課程 2008年度修了

別所 弘茂さん 京都市中京区役所 地域力推進室企画担当



京都市中京区の南東部に位置する木屋町地区において、地域の更なる魅力向上のために、関係者間で合意形成を図りながら、地域の景観を向上させるまちづくりに関する研究を行いました。地域の過去の歴史などを調査したうえで、CGによる「景観シミュレーション」を作成し、これらを基に関係者へのヒアリングや全戸アンケートなども実施しながら、合意形成型の景観まちづくりの可能性に関する研究を行いました。研究を通して、地域に深く関わり、課題解決に結びつけていくことの魅力を学んだことで、その後の職業選択に大きな影響を与えるきっかけになりました。



大学院での2年の過ごし方

1回生		2回生	
前期	後期	前期	後期
・先行事例の研究、地域住民の方との学習会の開催	・景観シミュレーション手法の調査	・関係者ヒアリング、全戸アンケート調査の実施	・リサーチペーパー作成 ・地域共創プロデューサー育成プログラムによるヨーロッパ派遣

大学院生活でのエピソード

地域のまちづくり委員会への参画

大学院のプログラムとして、地域の環境改善を図ることを目的に設立され、地元住民や事業者、行政、警察などによって構成される「まちづくり委員会」に地域の一員として参画させていただきました。

まちづくり委員会では、まちづくりの進め方や方向性について議論を深めると同時に、まちが抱える課題や先行事例に関する調査、活動を紹介するニュースの発行、文化イベントの企画運営など、多岐にわたるまちづくり活動に携わらせていただきました。

研究対象地域の中に常時拠点を置き、地域に入り込んで行う研究は、学部ではなく大学院だからこそできた経験であると思います。この経験により、自分がどういった仕事に携わりたいのかが、より明確になりました。



▲木屋町巡回の様子

▲まちづくり委員会

地域共創プロデューサー育成プログラムによるヨーロッパ派遣

ヨーロッパのまちづくりは日本より進んでいる部分があります。地域共創プロデューサー育成プログラムという大学院のプログラムで、EUのURBACT(ヨーロッパ都市再生ネットワーク)の事例研究のため、ヨーロッパに約1ヶ月派遣されました。

現地の大学教授や自治体の関係者の方からも直接話を聞きながら、工場跡地の再開発や住宅団地のリニューアル、交通政策や環境問題への対応、移民との融合など、EU諸国で行われているまちづくりの最前線の現場に直に触れながら学ぶことができる貴重な経験でした。

京都市は自転車政策に力を入れています。数年前にこの政策を担当することになりました。ヨーロッパは自転車を利用したまちづくりにおいて先進的な事例がありましたので、大学院で研究してきたことを、直接活かすことができました。



大学院進学の魅力、強みと考えていること

自分が取り組みたいこと、やりたいことに没頭できること

大学院は特定のテーマに絞った研究活動ができる場所です。学部と比較して少人数であるからこそ、研究科や先生のバックアップが手厚く、場所・時間といったリソースを多く使える点が、魅力であると考えます。少人数で教授との距離が近いことや、より実践的な研究に結びつく講義やカリキュラム、充実した支援体制を上手に活用することで、自分が取り組みたい研究に集中して取り組むことができました。

自分の進路について、もう一度真剣に見つめ直すことができたこと

学部生の時は、将来自分がやりたいことの芽がいくつか出ていましたが、どの芽を伸ばすべきかまだ決められず、もう少し研究活動を続けたいと思い、大学院に進学することに決めました。そして、大学院での研究活動を通して、まちづくりの現場で多くの人と接する中で、自分の進むべき進路を見つけることができる機会となりました。この機会があったからこそ、今、自分のやりたいことを仕事にできていると思っています。

大学院進学を検討する人へ

大学院で過ごした2年間は、社会人となった現在においても、決して欠かすことのできない期間だったと感じています。自分らしい人生を送るために、大学院という選択肢も大いに考えられると思います。

現役院生からのアドバイス

法学研究科 法学専攻/法政リサーチコース 博士課程前期課程1回生

笹谷 珠希さん



研究テーマ 刑事訴訟法—再審請求審における検察官抗告のあり方とその限界について
研究テーマを決めるにあたっては、現代社会において課題のあることを意識し、現在の指導教員にも相談しながら掘り下げていきました。

将来の夢 法学部、法学研究科と6年間にわたって、学び、研究してきたことを活かせる仕事に就きたいと考えています。

大学院での過ごし方

大学院での2年間

	春セメスター	秋セメスター
1回生	・第14回平井嘉一郎研究奨励賞受賞 ・授業選択、修士論文の研究計画立案 ・まなぶ一スタッフ	・同済大学との研究交流会での報告 ・修士論文の研究 ・日本弁護士連合会のシンポジウムに参加 ・TAとまなぶ一スタッフ
2回生	・就職活動開始 ・修士論文執筆開始	・修士論文執筆→提出 ・口頭試問

ある1日のスケジュール

6:30	起床 通学	
10:40	授業	
12:10	昼食	
13:00	TA業務	特別演習の準備
16:20	特別演習	修士論文執筆に向けた研究成果を報告
19:20	資料収集	修学館・平井嘉一郎記念図書館へ
20:30	通学	
23:00	夕食・お風呂	翌日の授業内容の再確認
24:00		

1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土/日
第1時限						
第2時限	自宅で研究	自宅で研究	行政法II	民法II		
第3時限			TA	家族法		
第4時限	刑法II	研究報告	TA	ゼミ	他大学で資料収集等	基本的には自宅・研究、資料収集・友人とご飯・京都巡り
第5時限	図書館で資料収集	準備	特別演習	ゼミ		
第6時限			特別演習			
第7時限			図書館			

大学院生活でのエピソード

学部とは違い少人数(教授と1対1の授業もあります)の授業になり、基本的には「講義形式」ではなく「演習形式」で授業が進みます。高度で専門的な知識を求められるので、しっかりとした授業の準備が必要になります。「異論はないのか」「なぜそれが言えるのか」について、様々な文献を収集して演習に臨む過程で、情報収集能力や論理を構築する力が身についていくことを感じています。



一方で、自分の専門とは違う法分野の方の意見を聴けるため、新たな知見を得ることも出来ます。民事法系の授業中に、教授から「刑事法だと、それはどうなの?」といった形で逆質問に遭うことも、大学院ならではの面白さかもしれません。

実務家教員が担当される授業が多いため、理論を専門的に深く学びつつ、実務での動向等も併せて学ぶことができます。私は、まさに自分自身の専門の「刑事訴訟法」を現役の弁護士である先生に学びました。この先生の授業をきっかけに、日弁連の人権擁護大会に参加しましたが、実務家の弁護士の方や、私の研究テーマを研究されている他大学の先生方とも交流を持つことが出来ました。

大学院では、挑戦する力がついたと感じています。1回生のとき、中国の同済大学との研究交流会があり、研究科長の先生と事務室の職員さんから声をかけて頂き、英語での研究報告に挑戦することにしました。実は、私は英語がとても苦手だったので、最初は「とんでもないことを引き受けたな…」と思っていました。しかし、「この英語で意味が伝わるかな?」と試行錯誤しながら最後には原稿を完成させることができ、研究報告も無事成功しました。苦手なことであっても、「頑張ろう!」という意欲を与えてくれるサポートがあります。



「究論館」という大学院生用施設を使うようになりました。研究に必要な資料や教科書などを置けるロッカーや共同研究室があったりと、至れり尽くせりです。



家で一人黙々と研究をすることも出来ますが、究論館では共に頑張る仲間とともに研究できるため、モチベーションを維持することが出来ます。



大学院進学を検討する人へ

皆さんの中で、大学院はどのようなイメージですか?「大変そう…」、「難しそう…」といったイメージかと思いますが、これらのイメージは、半分正解で半分間違いです。大学院は、「大変だけど、一緒に頑張れる仲間がいる」、「難しいけれど、沢山の専門知識が得られる」場です。つきつめるほどに知識がつながり、理解が深まる研究の面白さは、ご飯を噛みしめる感じに似ています。大学院は、意欲的に取り組み、取り組むほど何ものにも代えがたい経験を沢山することができます。そして、その経験をする応援・サポートをしてくれる場です。

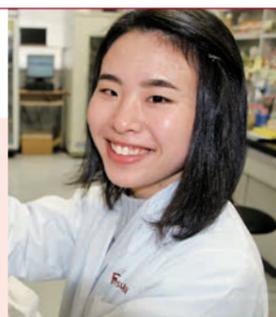
現役院生からのアドバイス

生命科学専攻/生物工学コース 博士課程前期課程1回生

藤原 彩乃さん

研究テーマ 毒性ポリペプチドによる相分離シャペロン阻害
ALSなどに代表される神経性疾患の発症メカニズムについて研究しています。

将来の夢 学会にて様々な研究発表に出会い、異なるバックグラウンドを持つ方ともモノ作りをしたいと思うようになりました。そのため、研究開発職や、研究開発職を支えたりつなげたりするための経営戦略を立てる部門に興味を持っています。



大学院での過ごし方

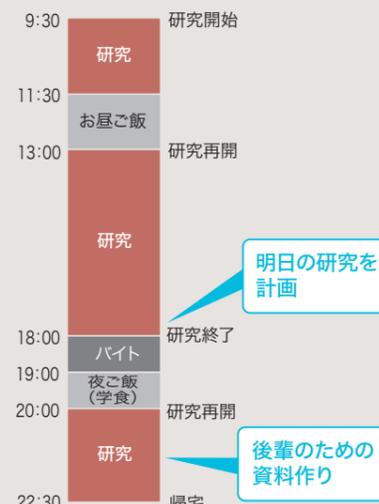
大学院での2年間

	春semester	秋semester
1回生	・大学院の授業 ・学会参加/発表 ・研究計画立案	・大学院の授業 ・学会参加/発表 ・インターンシップ参加
2回生	・就職活動 ・論文検索/精読	・学会参加/発表 ・修士論文執筆/発表

1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土/日
第1時限	研究室	研究室	ゼミ	研究室	授業	
第2時限	研究室	研究室	研究室	研究室	ゼミ	
第3時限	TA	研究室	研究室	研究室	授業	舞台鑑賞、映画鑑賞、友達とご飯、御朱印巡り、旅行
第4時限	TA	研究室	研究室	研究室	研究室	
第5時限	TA	研究室	研究室	研究室	研究室	
第6時限	TA	アルバイト	研究室	研究室	研究室	
第7時限	研究室	研究室	研究室	研究室	アルバイト	

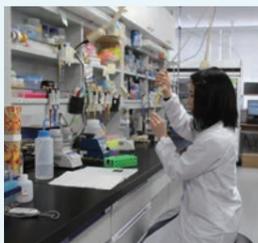
ある1日のスケジュール



大学院生活でのエピソード

他大学との共同研究など、チームの一員として研究に取り組む中では、目標や研究の進め方を自ら提案しなければなりません。学部生時代は受け身な姿勢で研究がちでしたが、現在は論文等を参考に自分で考え、自発的に知識を習得しながら研究に取り組んでいます。試行錯誤しながら、自分の手で結果を出せるため、研究はとても楽しいです。

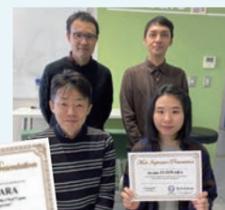
大学院に進学したことで、「何が問題で、どう解決するか。どのような方法があるのかを、どのように調べるか」といった論理的に考える力や、先輩がついたことで指導スキルも身につけることができました。



冬からは積極的にインターンシップに参加しています。色々な大学から参加される異なる専攻の方と交流し、研究の話や職種の説明を受けることで視野が広がったように感じます。

1回生の10月頃に、国際学会の運営補助をしました。来日した研究者の皆さんやノーベル賞を受賞した方の発表、意見交換の様子に刺激を受け、「いつか自分も」と、学会発表を意識し始めました。

初めての学会は英語の口頭発表でしたので緊張や不安もありましたが、研究室のメンバーが練習に協力してくださり、乗り越えることができました。「研究者の皆さんと交流する」という目標も達成でき、実験に対するアドバイスもいただきました。研究チームの代表として賞を頂くこともでき、嬉しかったです。



滋賀県内で下宿していますが、時間がある時は京都に行きます。休日は、研究室配属で離ればなれになってしまった友人や就職した友人とご飯を食べに行ったり、御朱印巡り、舞台を観劇することでリフレッシュしています。近況を報告し合うことで、私も頑張ろうと思えます。



大学院進学を検討する人へ

時間はあっという間に過ぎてしまいますので、目的意識をもって大学院に進学してください。自発的に研究に取り組む過程で、専門知識だけでなく、社会人としての基礎的な力も学べるかと思えます(研究分野外の業界・職種に就職する可能性もあるため、知識だけでなく、そういった基礎的な力も必要だと考えています)。また、大学院では一日の大半を研究室で過ごす場合がありますので、研究室の雰囲気や研究のスピード感(自分のペースで進められるかなど)も研究室選びの基準にしてみてください。

現役院生からのアドバイス

経営学専攻 企業経営専攻 博士課程前期課程1回生

小倉 優海さん

研究テーマ 広告エンドーサーが消費者評価に及ぼす影響
広告に登場する有名人やキャラクターがどのような人物(キャラクター)だったら、消費者に「良い」と思われるか、購買につながるのかといった研究をしています。学部のテーマを継続しています。

将来の夢 まだまだわからないこと、知りたいことがあり、修士だけでは時間が足りないと感じています。博士課程後期課程への進学を検討しています。



大学院での過ごし方

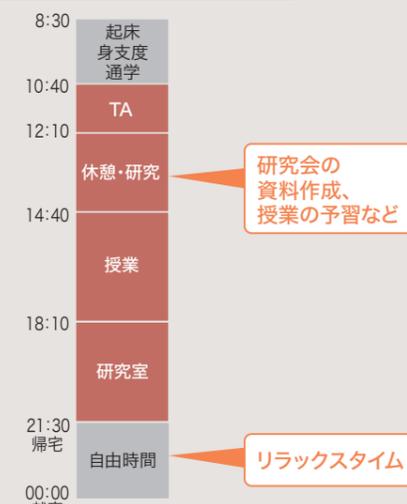
大学院での2年間

	春semester	秋semester
1回生	・入学 ・授業選択、予習 ・研究報告会	・学会報告(国内) ・学会報告(海外) ・論文投稿 ・授業
2回生	・学会報告(国内) ・調査 ・分析	・修士論文執筆→提出(1月末) ・口頭試問 ・修了

1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土/日
第1時限						
第2時限	TA	研究室	研究室	授業	授業	
第3時限	研究室	研究室	研究室	授業	研究室	友達とご飯 平日にできなかった研究活動 ・アルバイト(8:30-17:00)
第4時限	授業	研究室	授業	研究室	研究室	
第5時限	授業	TA	研究室	研究室	TA	
第6時限	研究室	TA	研究室	研究室	TA	
第7時限	研究室		研究室	研究室		

ある1日のスケジュール



大学院生活でのエピソード

大学院生でも参加できる学会を先生がいくつか提案して下さるので、その中から選択して参加しています。1回生では、国内の学会と海外の学会でそれぞれ1回ずつ報告しました。自分の研究をいかに分かりやすく伝えることができるかということに注意して、発表用資料を工夫します。

学会に参加すると、他の研究者から多くの意見をもらえます。それが研究のブラッシュアップにつながったり、新たな研究のアイデアになることがあります。(写真は国際学会のときのものです。)



大学院では、学部生のときは異なり、授業が中心ではなく、自分の研究が中心になります。一人で研究に向き合う時間が増えるので、自分の興味があることに集中して取り組める環境であると思います。その分、自律的に自分の時間を管理することが求められると思います。主に、学内の共同研究室にこもって研究しています。



研究は一人で取り組んでいますが、学校に来れば、専攻の異なる友達にも会えます。共同研究室の隣には、コミュニケーションがとれるスペースである「コモンズ」があるので、そこで研究に関する意見をもらったり、読んでいた本の情報交換や面白かった学会の話をしたり、お昼ご飯を食べたりします。たまには友達と飲みに行って、息抜きすることもあります。



この研究、面白い!という研究に出会うことがあります。文系では既存研究をたくさん読むことからスタートすることが多いと思いますが、その中で、まったく新しい切り口や視点での研究を発見するのはとても楽しいです。また、自分の直感と、既存研究の知見をつなげることに面白さを感じています。専攻しているのはマーケティングの、特に消費者行動ですので、消費者と自分を重ねたりして、新たな研究のアイデアにすることもできます。自分の肌感覚と理論が合致したとき、研究の点と点がつながった瞬間は、パズルのピースがはまったような、アドレナリンが出るような爽快な感覚になります!

研究は、限られた時間の中で、頭を使った膨大な作業が求められるもので、決して楽なものではありませんが、この面白さがあるので続けられています。

大学院進学を検討する人へ

学部生と比較すると、研究活動が中心になり、ものすごいスピードで時間が過ぎていくように感じます。そのため、自分をきちんと管理する能力が求められます。一方で、自分の好きなこと、興味があることにとことん向き合える貴重な時間でもあり、充実した日々が過ごせると思います。

学費について(2020年度入学者適用)

2021年度の入学者に適用する学費および諸会費は、2020年6月頃に決定する予定です。以下は2020年度の入学者に適用する学費を参考として掲載しています。なお、本学の学費は、入学金と授業料で構成されています。

■ 入学金

(単位:円)

区分	名称	金額
入学、転入学	入学金	200,000

※1 以下に該当する本学園出身者からは、入学金を徴収しません。
 (1) 本学または立命館アジア太平洋大学の学部を卒業した者が、本大学院に入学する場合
 (2) 本学または立命館アジア太平洋大学の学部から引き続き本大学院に入学する場合
 (3) 本学または立命館アジア太平洋大学の大学院を修了した者または博士課程に標準修業年限以上在学し、博士論文以外の修了要件を満たし退学した者が、本大学院に入学する場合
 ※2 入学金は入学年度のみ納入していただきます。



■ 2020年度入学者に適用する大学院授業料

注意：・ 社会的な情勢の急激な変化等、やむを得ない状況への対処として授業料の変更を行うことがあります。
 ・ 学費とあわせて、入学年度に諸会費の納入をお願いします。詳細については、入学試験要項を参照してください。

(4月入学) 春学期授業料：4月1日から9月25日の授業料
 (9月入学) 秋学期授業料：9月26日から3月31日の授業料
 秋学期授業料：9月26日から3月31日の授業料
 春学期授業料：4月1日から9月25日の授業料
 ※9月入学者が入学手続時に納入する授業料は、1年次秋学期授業料のみとなります。

1) 修士課程・区分制博士課程

(1) 修士課程・博士課程前期課程 (単位:円)

所属	名称	1年次			2年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
法学研究科、経営学研究科、社会学研究科、政策科学研究科	授業料	380,300	380,300	760,600	380,300	380,300	760,600
経済学研究科 (MPEDコースを除く)	授業料	380,300	380,300	760,600	380,300	380,300	760,600
MPEDコース	授業料	456,300	456,300	912,600	456,300	456,300	912,600
文学研究科 人文学専攻	授業料	380,300	380,300	760,600	380,300	380,300	760,600
文学研究科 行動文化情報学専攻	授業料	391,000	391,000	782,000	391,000	391,000	782,000
国際関係研究科 (GCPを除く)	授業料	380,300	380,300	760,600	380,300	380,300	760,600
GCP	授業料	456,300	456,300	912,600	456,300	456,300	912,600
人間科学研究科、スポーツ健康科学研究科	授業料	431,000	431,000	862,000	431,000	431,000	862,000
言語教育情報研究科	授業料	405,600	405,600	811,200	405,600	405,600	811,200
理工学研究科 (数理科学コースを除く)	授業料	583,100	583,100	1,166,200	583,100	583,100	1,166,200
数理科学コース	授業料	545,000	545,000	1,090,000	545,000	545,000	1,090,000
情報理工学研究科、生命科学研究科	授業料	576,600	576,600	1,153,200	576,600	576,600	1,153,200
テクノロジー・マネジメント研究科	授業料	591,200	591,200	1,182,400	591,200	591,200	1,182,400
映像研究科	授業料	610,800	610,800	1,221,600	610,800	610,800	1,221,600
薬学研究科	授業料	576,600	576,600	1,153,200	576,600	576,600	1,153,200

※年次に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。

(2) 博士課程後期課程 (単位:円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
全研究科	授業料	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000

※年次に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、標準修業年限を超えた者で各研究科の修了要件のうち博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期あたり100,000円となります。

2) 一貫制博士課程

(単位:円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次		
		春学期	秋学期	(年次計)												
先端総合学術研究科	授業料	405,600	405,600	811,200	405,600	405,600	811,200	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000

※年次に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、標準修業年限を超えた者で修了要件のうち博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期あたり100,000円となります。

3) 4年制博士課程

(単位:円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次			4年次		
		春学期	秋学期	(年次計)									
薬学研究科	授業料	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000

※年次に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、標準修業年限を超えた者で修了要件のうち博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期あたり100,000円となります。

4) 専門職学位課程

(単位:円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
法務研究科	授業料	662,900	662,900	1,325,800	662,900	662,900	1,325,800	662,900	662,900	1,325,800

※年次に関わらず、標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、在学期間(2年修了課程においては2年、3年修了課程においては3年)を満たす者に限ります。

(単位:円)

所属	名称	1年次		2年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
経営管理研究科	固定授業料	80,400	80,400	80,400	80,400
	(単位授業料)	48,000(1単位につき)			

※年次に関わらず、標準修業年限を超えた者の固定授業料は上記の2分の1となります。ただし、在学期間(2年)を満たす者に限ります。
 ※2021年度より単位授業料制度から固定授業料制度へ移行することを予定しています。

(単位:円)

所属	名称	1年次			2年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
教職研究科	授業料	456,300	456,300	912,600	456,300	456,300	912,600

※年次に関わらず、標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、在学期間(2年)を満たす者に限ります。

CHECK IT 奨学金・支援制度の利用例(法学研究科の例)

本学では、授業料に関する奨学金に加えて研究活動に対する給付型の助成制度を多数取り揃えており、多くの大学院生が利用しています。以下は2020年度の法学研究科の例です。

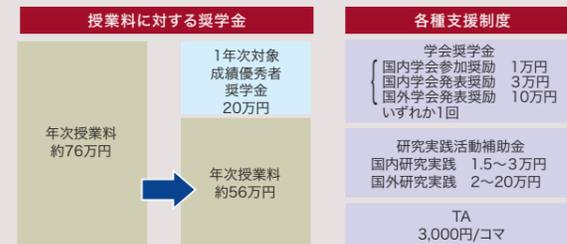
博士課程前期課程1回生

■「1年次対象成績優秀者奨学金」を受給した場合

入学試験成績上位者に支給される「1年次対象成績優秀者奨学金」(20万円給付の場合)を受給した場合、授業料は約56万円となります。あわせて各種支援制度を利用することで、さらに経済的負担は軽減されます。

(外国人留学生の場合)

在留資格が「留学」でかつ私費外国人留学生であれば、「外国人留学生授業料減免(院生II種)」を申請することで、授業料がさらに20%減免されます。



博士課程後期課程1回生

■「研究奨励奨学金A」を受給した場合

優秀な研究業績に応じて給付される「研究奨励奨学金」はA給付に該当すれば授業料相当額の奨学金が給付されるため、授業料は実質免除されます。また、各種支援制度も利用することができます。



■ 学外の奨学金・研究助成制度・教育ローン

■ 日本学生支援機構大学院奨学金

対象	本学大学院に在学する者。ただし、留学生・標準修業年限を超えて在学する者を除く。	
金額	《貸与》 ● 博士課程前期課程、修士課程、専門職学位課程、一貫制博士課程1・2回生 第一種(無利子)：月額5万円、8万8千円より選択 第二種(有利子)：月額5、8、10、13、15万円より選択 ※法務研究科のみ19、22万円も選択可	● 博士課程後期課程、一貫制博士課程3~5回生、4年制博士課程 第一種(無利子)：月額8万円、12万2千円より選択 第二種(有利子)：月額5、8、10、13、15万円より選択 ※第一種貸与者のみ「特に優れた業績による返還免除」の制度あり(申請受付は2月)。

■ 企業、民間財団、地方公共団体等の奨学金事業〈学校推薦群〉〈一般公募群〉

対象	本学大学院に入学予定の者、在学する者。
金額	● 学校推薦群：給付型 / ● 一般公募群：給付型および貸与型 金額や条件は財団によって異なる。
募集時期	● 学校推薦群：2月下旬 / ● 一般公募群：随時(詳細は全て本学奨学金ウェブサイト参照)

■ 各種教育ローン

低金利で利用できる教育ローンです。対象、金額、募集時期等については各金融機関のウェブサイトをご参照いただくか、直接お問合わせください(いずれもweb申込可)。

● 国の教育ローン	0570-008656
● セディナ学費ローン	0120-686-909
● オリコ学費サポートプラン	0120-517-325
● 滋賀銀行ジャストサポート	0120-889-201

立命館のキャリアパス支援について

立命館大学の大学院キャリアパス推進室は、
大学院生の学びに対して**2つの側面**から支援をしています。



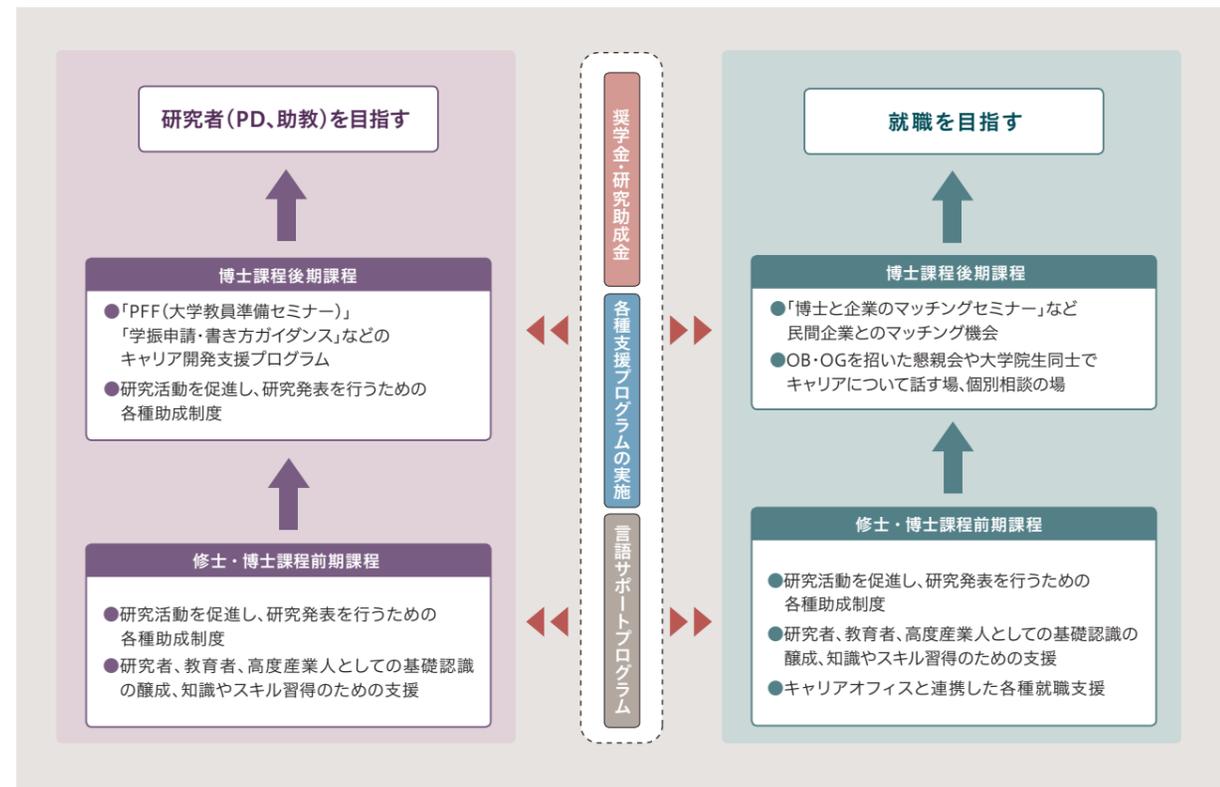
立命館大学では、博士課程後期課程院生のキャリアパス形成を支援し、国内外で広く活躍する人材を育成することを目的として、2010年4月に博士キャリアパス推進室を設置しました。

さらに、2013年度からは博士課程後期課程だけではなく、大学院全体として

入試、教学、キャリア・奨学金支援制度の有機的連携を行いながら大学院生のキャリアパスを支援するために

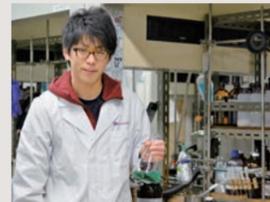
「博士キャリアパス推進室」を「大学院キャリアパス推進室」に改組しました。

大学院生が生き生きと研究に取り組める環境構築、また、研究者ライフコースの視点による若手研究者の人材育成支援を行うために、大学院生へのキャリアパス支援についてさらなる拡充を目指していきます。



キャリアパス支援制度利用者の声

日本学術振興会
特別研究員



生命科学研究所
博士課程後期課程2回生
研究分野：
有機化学、光化学、超分子化学
松原 翔吾さん

学内セミナーの活用、早めの準備、そして自身の研究を楽しむこと
これが、採択のためのキーワードです。

「日本学術振興会の特別研究員(以下、学振)」に採択されることは、自身のキャリア形成においてかなり有利になります。簡単には採択されないとは聞いていましたが、チャレンジしてみようと思い、博士課程前期課程1回生の冬頃から申請書作成の準備を始めました。学振の申請書は、かなりの分量があるだけでなく、内容に一貫性をもってまとめることが大切になります。文書をまとめているうちに考え方が整理されることもあれば、新たに関心が湧き、一から書き直す羽目になることもあり、書き上げてからも何度も読み直してブラッシュアップしました。

私は将来、アカデミアでの就職を考えています。研究は、研究対象や自分自身と黙々と向きあうことが多く、なんらかの成果が出たとしても「誰かに認められる」ことが少ないものです。その中で「学振に採択をされた」ということは大きな自信となり、アカデミアへの想いをさらに後押ししてくれることになりました。

大学院キャリアパス推進室では、学振申請のための様々なサポートを行っています。これらのセミナーをうまく活用すること、そして早めに準備を始めること、そしてなにより研究を楽しむこと、それが学振採択のためのキーになると思います。

セミナー



文学研究科
博士課程後期課程3回生
研究分野：
文化心理学・キャリア心理学
土元 哲平さん

セミナーの醍醐味は専門が異なる大学院生と交流できること。
積極的に活用して知識と研究を磨いてください。

私は、「日本学術振興会特別研究員(以下、学振)」の申請書の書き方を学ぶセミナーに参加したことをきっかけに、大学院キャリアパス推進室が開催しているセミナーを利用し始めました。立命館大学では、「研究倫理セミナー」「英語論文個別指導」「大学教員準備セミナー」など、研究者になるうえで必要となるスキルを身につける機会が充実しており、すべて無料で受講できます。ただ、「自分の研究と異なる領域を研究している大学院生と交流できる」ことも、セミナーの良さだと思っています。例えば、私自身、学振のピアレビュー会や各種成果発表会を通して、専門とは異なるフィールドにおいて多くの友人が出来ました。また、自分の研究やアイデアの面白さを専門外の人に伝えたり(「伝わらない!」と感じたり)、他者の話を聴く機会があり、研究を進める上で大きな刺激になりました。大学院に進学すると、隣接領域を研究している学生同士であっても交流することは難しいのですが、セミナーに参加することで、スキルが身につくだけでなく、広い視野と研究仲間を手に入れることができました。皆さんも是非セミナーを有効活用し、仲間と共に自分の研究を磨いていって下さい!

奨学金



スポーツ健康科学研究科
博士課程前期課程2回生
研究分野：
スポーツ健康科学、女性スポーツ
競技者における貧血・鉄欠乏
林 七虹さん

奨学金を活用して国際学会発表に初挑戦。
研究者への第一歩として大きな自信になりました。

立命館大学では各種奨学金・支援制度が充実しており、これらを上手く活用することで自分自身の学びの場を広げることができます。

大学院では、学部生に比べて、学会など国内外において研究成果を発表する機会が多くなります。私は、博士課程後期課程への進学を予定していますが、国際学会への参加は研究者としての経験を積む意味でとても大切である一方、学生である私たちにとっては経済面での心配は避けられません。私自身も不安な気持ちがありましたが「学会奨学金」を活用して、国際学会へ積極的に参加することができました。国際学会では、海外の研究者と交流する機会に恵まれ、大きな自信となりました。

また、自分自身の学びにつながったと思う制度は「学生研究会活動支援」です。大学院生による自主的な研究会を支援してもらえる制度ですが、その中で良かったと感じるのが「報告会」があったことです。大学院キャリアパス推進室が所管する各種制度においては、「報告会」としてアウトプットする機会が設けられているものが多く、他者へ伝えるという経験を積むことで、研究者としてのスキルを磨くことができたように感じます。

■大学院キャリアパス支援プログラム(課外)

目標とするキャリアを実現するためには、大学院での専門分野の研究を追究し、その過程で習得した知識や能力を多様な分野で活用できることが大切です。このプログラムでは、キャリアパス形成に必要な基礎知識やスキルの習得、研究科を越えたネットワーク構築のための多様な企画を実施しています。本学の大学院生であれば、どなたでも無料で参加できます。

開講セミナー(2020年度に実施予定のセミナーです)

※開講セミナーのテーマ・内容は年度により変更する場合があります。

スキル・知識を身につけたい

キャリアマネジメントセミナー／心をつかむ話し方講座

大学院生の就職活動や就職後の活動を支援するためのセミナーです。社会情勢の理解や企業分析、リーダーシップ論、発想法、効果的なプレゼンテーション法や相手の心に響く話し方などについて学びます。

英語論文個別指導&ブルーフリーディングセッション

英語論文やレポート等について、文法や語彙の弱点、校正方法に関して個別指導を受け助言が得られます。

研究倫理共通セミナー／研究倫理プレセミナー

行動規範、成果発表の方法など研究倫理の基礎知識の習得を目指すセミナーです。

民間企業に就職したい

大学院生のための成功する!就活セミナー

対象:修士・博士課程前期課程1回生
大学院での学びの振り返りを行い、修士論文作成、就職活動、キャリア形成を見据えた大学院での学びに関して、新たな知見や気づきの獲得を目指すセミナーです。

研究者・大学教員を目指したい

学振申請・書き方ガイダンス

日本学術振興会特別研究員申請書作成のポイント等について学べるセミナーです。

PFF(大学教員準備セミナー)

大学で授業を行うにあたり必要となる基礎的なスキルを習得するプログラムです。教育開発推進機構の実践的FDプログラムと連携して実施します。

リサーチプロポーザルコンテスト

自身の研究のアイデアを、いかに魅力的に研究計画書上で表現できるのかを競うコンテストです。

Pick Up! **民間就職を目指している方向けのセミナー**

キャリアセンターによる進路・就職ガイダンスをはじめ【自己理解系企画】、【業界・企業理解系企画】、【OBOG企画】など様々な企画に参加可能です。さらに、キャリアセンターと連携しながら、大学院生に特化した「大学院生のための成功する!就活セミナー」も開催しています。

大学院生のための成功する!就活セミナー(2019年度の概要)

- 第1部 大学院生のためのエントリーシートの書き方講座
- 第2部 企業人事担当者によるパネルディスカッション
- 第3部 内定者パネルディスカッション～就職活動のリアル～



■ティーチング・アシスタント(TA)／キャリアパス支援スタッフ(CPS)

2019年度実績 約1,380名

ティーチング・アシスタント(TA)

対象:本学大学院正規課程在籍者
TAとは本学の授業や教学活動について教員をサポートする大学院生。本学の教育の質向上および大学院生自身のキャリア形成の一助とすることを目的とします。
給与:3,000円(1授業時間90分)

キャリアパス支援スタッフ(CPS)

対象:本学大学院正規課程在学者
大学院キャリアパス推進室が開催する各種セミナー・イベント等の企画・運営に参画するスタッフ。企画力・実行力などを養い、参加者との交流を通じて学年・研究科を越えたネットワーク構築ができます。
給与:1,500円(1時間 源泉徴収含む)

■奨学金・支援制度の概要

※下記は本学独自の奨学金・支援制度であり、返還義務のない奨学金・支援制度です。

※専門職学位課程は、一部対象とならない奨学金・助成制度がありますので、詳細は募集要項をご確認ください。

※内容は2020年度の概要であり、2021年度に内容が変更となる場合もありますので、詳細については、本学ウェブサイト、各制度の募集要項等を参照してください。

	M1	M2	D1	D2	D3
成績優秀者の入学・学修・研究を奨励	1年次対象 成績優秀者奨学金 10～60万円 (研究科ごとに異なる)	2年次対象 成績優秀者奨学金 10～60万円 (研究科ごとに異なる)	研究奨励奨学金 S給付:年間の授業料相当額 A給付:年間の授業料相当額 B給付:年間の授業料の1/2相当額		
学会に参加したい 学会で研究成果を発表したい	学生会奨学金 国内学会参加奨励:一律1万円 国内学会発表奨励:一律3万円 国外学会発表奨励:一律10万円		学生会奨学金 国内学会参加奨励:一律1万円 国内学会発表奨励:一律3万円 国外学会発表奨励:一律10万円		
研究活動したい	研究実践活動補助金 国内研究実践:1.5～3万円 国外研究実践:2～20万円		国際的・国内研究活動促進研究費 国内:5～10万円(研究活動期間に応じて給付) 国際的:研究助成金10～30万円・海外渡航に要する交通費		
研究科を越えて研究会活動したい	学生研究会活動支援 経費支援(1研究会あたり年額10万円上限)・施設支援				
英語論文を投稿したい	英語論文投稿支援補助金(院生) 英語論文校正費:上限3万円 英語論文投稿費:上限5万円				
英語で学会発表したい TOEIC®・TOEFL®等を受験したい	ベーススキル向上支援補助金 上限2万円				
海外留学したい	英語団体受験補助制度 学内で行うTOEFL ITP®テストとTOEIC®L&Rテスト(IP)の団体受験料を補助する制度				
インターンシップに参加したい	留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金 派遣期間中に派遣先に納付する学費または本学に納付する入学金を除く学費の1/2相当額				
博士論文を出版したい	インターンシップ奨学金 10～20万円(活動日数に応じて給付)				
	国外共同研究奨学金 10～80万円(地域・日数に応じて給付)				
	博士論文出版助成金 (人文社系の研究科のみ)				

※TOEIC®, TOEFL®はEducational Testing Service(ETS)の登録商標です。
※TOEIC®L&Rテストの「L&R」は、LISTENING AND READINGの短縮形です。

大学院生の進路・就職

大学院修了後のキャリアは、大学教員をはじめとする研究者だけでなく、民間企業を中心に様々な業界へと広がっています。

CHECK IT

◇大学院修了生の進路実現に向けて

本学では、大学院生の皆さんの希望する進路・就職の実現に向けた総合的な支援を行っています。研究活動と修了後の進路を並行して考えるために必須のガイダンスでは、就職活動の流れや、企業が大学院生に期待することをはじめ、キャリアセンターの支援内容などをお伝えします。

また、インターンシップや就職活動に向けた自己理解系・企業理解系の各種選考対策も行っています。他にも、留学生に特化したガイダンスや各種支援企画のほか、マスコミ・商社・公務員を目指す方に向けた支援企画も実施しています。

■大学院生就職決定率 **98.6%** (2018年度 修士・博士課程前期課程修了者実績)

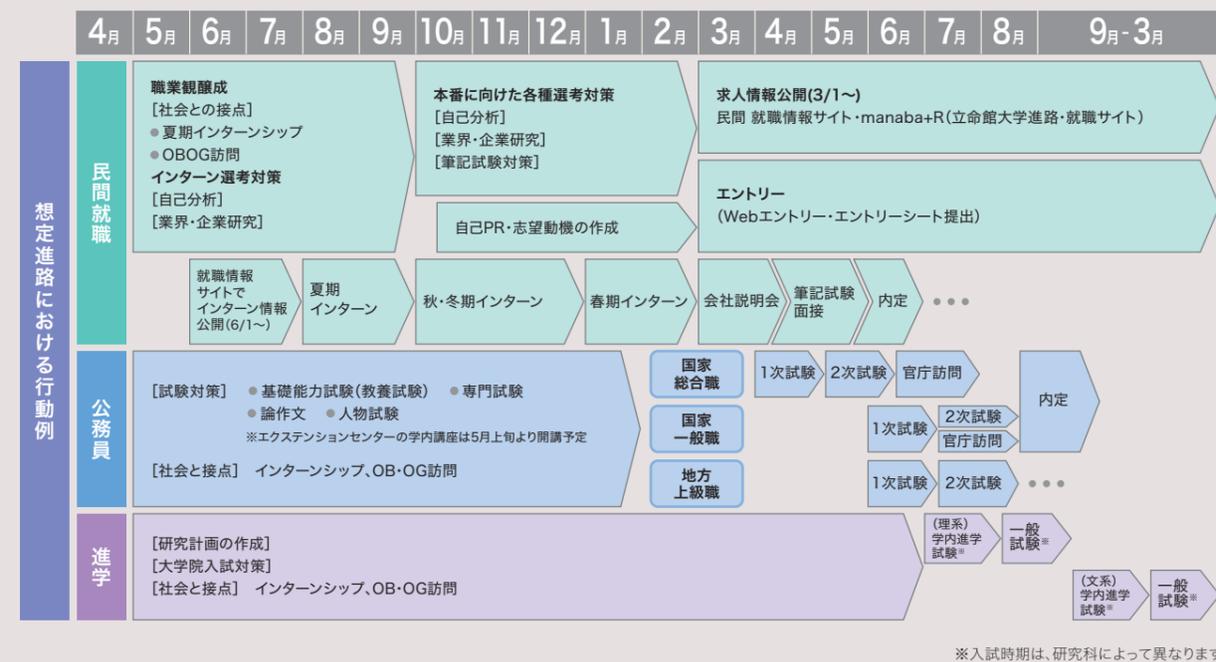
文系	全体		理系	全体		テクノロジー・マネジメント研究科 (文理融合)	全体	
	男子	97.2%		男子	99.3%		男子	100.0%
	女子	96.6%		女子	99.4%		男子	100.0%
		97.7%		98.4%			女子	100.0%

◇進路に応じた支援を受けることができます

※下記は2020年度の内容です。

個別相談 (キャリアセンター)	PFF (大学教員準備セミナー)	公務員、資格取得	博士と企業の マッチングセミナー
修士・博士課程前期課程の民間就職や公務員志望の方に向けて、就職活動や公務員試験に関する様々な相談に応じています。	大学で授業を行うにあたり必要となる基礎的なスキルを習得するプログラムです。教育開発推進機構の実践的FDプログラムと連携して実施します。	エクステンションセンターでは、公務員試験や資格取得に向けた各種講座の開講や学生の学習支援を行っています。 *キャリアセンター内にあります。	博士課程後期課程大学院生と企業が直接交流し、懇談する中で、自身の研究力や持てる力をアピールします。

◇修士・博士課程前期課程における進路別就職活動スケジュール(例)



修了生の主な就職先

法学研究科

国内外の大学教員、民間企業や金融機関の法務部や財務部、公務員、司法書士・税理士・公認会計士・弁理士など、法学・政治学に関する高度な専門知識を必須とする職業分野において活躍しています。

進路・就職先/研究職: 私立大学・国公立大学、海外大学など **民間:** メーカー、金融機関の法務部門や税理士法人など **公務員:** 国家公務員、国税専門官、法務省専門職員など

社会学研究科

社会的に要請される実践的課題にこたえる研究者や高度専門職業人として幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/社会福祉協議会・地方公務員・教員 **民間:** サービス・流通商事など **研究職:** 私立大学・国公立大学など

国際関係研究科

企業の総合職(主に国際部門)、マスコミ各社(新聞、放送、出版)、シンクタンク、国際機関職員、各国政府系機関へ修了者を輩出しています。

進路・就職先/国家公務員・国際協力機構・日本貿易振興機構など **民間:** サービス・製造・マスコミなど **研究職:** 私立大学・国公立大学など

文学研究科

中学・高等学校教員、高度専門職職員、公務員、民間企業社員など、各専修の独自性を活かしたさまざまな職に就き活躍しています。

進路・就職先/教員・地方公務員など **民間:** サービス・流通商事・マスコミなど **研究職:** 私立大学・国公立大学など

映像研究科

映像に関わる高い専門性を修得し、広い視野から自らの課題を捉え、多様化する映像関連分野に柔軟に取り組んでいくことの出来る力を身につけます。

進路・就職先/民間: マスコミ、サービスなど **進路・就職先詳細**は31ページに記載しています。

言語教育情報研究科

言語に関わる専門的知識を活かして、教育関連を中心に幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/国内外の大学教員、中等教育機関の英語教員、日本語教員など。国際交流基金、国際協力機構などの団体。サービス・製造・流通等の民間企業など。

先端総合学術研究科

研究者養成の研究科。博士号を取得、研究者として、あるいは現役研究者がさらにキャリアアップし、様々なフィールドで活躍しています。

進路・就職先/研究職: 大学教員(テニュア教員、任期制教員)、大学・研究機関の研究員、各種学校教員、公務員・団体職員、その他

経済学研究科

大学教員等の研究者の道を目指す大学院生のほか、企業や公務員、税理士事務所などに就職する大学院生も増えています。

進路・就職先/地方公務員など **民間:** 税理士法人・金融・サービスなど

スポーツ健康科学研究科

「スポーツ」と「健康」に関する高度な専門性を活かして、幅広いフィールドで活躍しています。

進路・就職先/国立の研究機関、スポーツ用品、食品メーカー、教員など。 **進路・就職実績**は35ページに記載しています。

理工学研究科

高度な専門知識・技術を活かして、多くの修了生が「研究・設計・開発職」に従事しています。

進路・就職先/民間: 製造・サービス・流通商事など **進路・就職実績**は36ページに記載しています。

情報理工学研究科

社会を支えるIT技術・サービスを開発する役割が期待されており、幅広い業種で技術専門職や研究開発職として高度な人材が求められています。

進路・就職先/IT関連企業をはじめ、情報通信、Webサービス、総合電機、電子機器、自動車関連、医療機器、流通、金融、ゲーム、公務など

生命科学研究科

化学、エネルギー、環境、食料、情報、医療、健康分野といった幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/民間: 製造・サービス・流通商事など **進路・就職実績**は38ページに記載しています。

薬学研究科

高度な知識や技能を持った薬剤師として医療の現場や行政機関で活躍する人材や、薬科学の専門知識および研究力を備え、研究機関、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を育成します。

進路・就職先/病院・大学病院・製薬企業・公務員・薬局・大学など

経営学研究科

大学教員・シンクタンクなどの研究者や、公認会計士などで活躍しています。

進路・就職先/民間: 監査法人・税理士法人・サービス・流通商事・製造など

政策科学研究科

行政や研究機関をはじめ、幅広い領域の専門性を活かし、多様な分野で活躍しています。

進路・就職先/国家公務員・地方公務員・教員 **民間:** サービス・金融 **研究職:** 私立大学・国公立大学、海外大学など

テクノロジー・マネジメント研究科

サービス・製造ほか職種を問わず、新規事業の立ち上げ、新技術の創造、技術を利用した収益向上など企業の持続的発展に欠かせない分野で活躍しています。

進路・就職先/新製品・サービス企画、工程管理、技術営業、一般営業コンサルティング他

経営管理研究科

社会人のキャリアアップが多いことが特徴です。就業経験の無い学生は、企業だけでなく多様な分野でリーダーとして活躍しています。

進路・就職先/製造・コンサルティング・サービス・監査法人・金融など

人間科学研究科

各領域のスペシャリストを養成しています。

進路・就職先/臨床心理学領域: 臨床心理士、産業・スクールカウンセラーなど **心理学領域:** 司法、警察官、教育など **対人援助学領域:** 看護師、保健師、高齢者介護、障害者援助など

法務研究科

司法試験合格を経て法曹(弁護士・裁判官・検察官)を目指します。それ以外に民間企業(法務部門)や公務員でも活躍の場があります。

進路・就職先/弁護士・裁判官・検察官・民間企業(法務部門)・裁判所事務官・国家公務員・地方公務員

教職研究科

学校現場の多様な課題に高度な実践力で対応できる教員へ。

進路・就職先/小学校・中学校・高等学校教員

データで見る立命館の研究力

民間企業からの受託研究実施件数

文部科学省では毎年、「大学等における産学連携等実施状況について」を発表しており、立命館大学は「民間企業からの受託研究実施件数」においてここ数年、常に上位に位置しています。

この発表は、文部科学省が産学連携等施策の企画・立案に反映させることを目的として毎年実施している「大学等における産学連携等の実施状況調査」に基づくもので、全国の大学等(2018年度においては1,069機関(国公私立大学(短期大学含む)、国公私立高等専門学校、大学共同利用機関))が対象となっています。

1995年に全国の大学に先駆けて産学連携の窓口「リエゾンオフィス」を設置した本大学では、研究成果による社会貢献として、立命館大学研究高度化中期計画*の策定元年となる2006年度から一貫して産学連携を重要な柱として掲げており、特に京都府・滋賀県・大阪府を中心とした地元企業との連携を重視しています。2018年度の同実施状況の発表では、「同一県内企業及び地方公共団体との共同・受託研究実施件数(地方別)」において、近畿地方の私立大学としては2017年度に1位、2018年度は2位となっています。

立命館大学研究高度化中期計画の各施策の推進などにより研究支援制度の充実を図り、外部資金獲得につながる成果の創出や研究拠点形成に取り組んできた結果、とりわけ民間企業からの受託研究実施件数に関しては、過年度からの高い実績につながっているとと言えます。

*研究を高いレベルで推進するために本大学が2006年度より独自に策定している5ヵ年計画。現在、第3期計画(2016-2020年度)を実施中。

受託研究とは：企業等からの研究テーマに基づき本大学の研究者が研究を実施し、成果を委託者に報告する制度。

共同研究とは：企業等と本大学の研究者が共通の研究テーマを持ち、研究業務を分担し、あるいは本大学に企業等の研究員を受入れて実施する制度。

民間企業からの受託研究実施件数

〈過年度の実績と全国順位〉			〈2018年度〉		
年度	件数	順位	機関名	件数	区分*
2018年度	236	3位	1. 近畿大学	353	私
2017年度	248	2位	2. 慶應義塾大学	247	私
2016年度	248	2位	3. 立命館大学	236	私
2015年度 287	1位		4. 日本大学	207	私
2014年度 247	1位		5. 早稲田大学	199	私
			6. 大阪大学	164	国
			7. 拓殖大学	160	私
			8. 山形大学	160	国
			9. 東京大学	149	国
			10. 東京都市大学	149	私

〈2017年度〉		
機関名	件数	区分*
1. 近畿大学	325	私
2. 立命館大学	248	私
3. 慶應義塾大学	226	私
4. 日本大学	204	私
5. 早稲田大学	162	私
6. 拓殖大学	157	私
7. 大阪大学	148	国
8. 東京大学	144	国
9. 山形大学	140	国
10. 東京都市大学	127	私

〈2016年度〉		
機関名	件数	区分*
1. 近畿大学	257	私
2. 立命館大学	248	私
3. 慶應義塾大学	198	私
3. 日本大学	198	私
5. 東京大学	161	国
6. 早稲田大学	155	私
7. 拓殖大学	140	私
8. 東京都市大学	135	私
9. 九州大学	130	国
10. 大阪大学	126	国

*区分 私：私立大学、公：公立大学、国：国立大学
※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」より作成

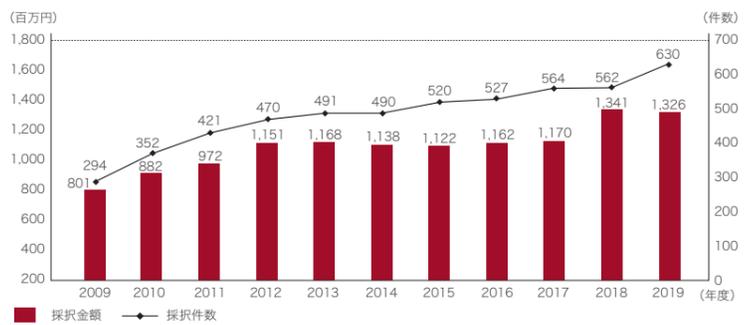
科学研究費助成事業 — 科研費 —

立命館大学は、2019年10月に発表された「令和元年度科学研究費助成事業—科研費—の配分」において、採択金額が全国23位・私大3位(西日本私大1位)、採択件数が全国23位・私大4位(西日本私大1位)にランクインしました。とりわけ、6年連続11億円台であった採択金額も2年連続13億円を突破しています。

審査区分別の状況(中区分別採択件数上位10機関 ※過去2年間の新規採択の累計数)は65区分のうち9区分が全国10位内にランクインし「社会学およびその関連分野」が最高位の全国2位、「地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野」で私立大1位となり、多様な分野で本学の強みを活かした独創的・先駆的な研究を進めています。また、採択件数に占める女性研究者のシェア(女性比率)も5年連続増で21.9%になり、女性研究者の採択実績の伸びが顕著であることも本学の特徴です。

科学研究費助成事業(科研費)とは：科学研究費助成事業とは、文部科学省の競争的研究資金のひとつであり、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる研究を助成する制度で、年間予算は2000億円を超え、我が国の科学技術の発展には欠かせない重要な研究費です。

〈本学の採択金額・採択件数の推移〉



研究・産学官連携についての詳細は [立命館 研究](#) [検索](#)

〈科研費ランキング〉

■採択金額

1位 慶應義塾大学
2位 早稲田大学
3位 立命館大学
4位 東京理科大学
5位 順天堂大学
6位 日本大学
7位 同志社大学
8位 近畿大学
9位 東海大学
10位 明治大学

※2019年度採択金額・件数(いずれも新規+継続)私立大学のみ

■審査区分別の状況(中区分別採択件数上位10機関※過去2年間の新規採択の累計数)においてランクインした中区分

「思想、芸術およびその関連分野」、「文学、言語学およびその関連分野」、「地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野」、「法学およびその関連分野」、「政治学およびその関連分野」、「経済学、経営学およびその関連分野」、「社会学およびその関連分野」、「機械力学、ロボティクスおよびその関連分野」、「人間情報学およびその関連分野」

※文部科学省発表「令和元年度科学研究費助成事業の配分について」(2019年10月23日)より抜粋

column

科研費受給者の声

神崎 真実
立命館グローバル・イノベーション研究機構
専門研究員



私は、学校での居場所づくりについて研究しています。学校には、障害をもっている、外国にルーツがある、他者の視線が気になるなど、様々なニーズをもつ児童生徒が集まっています。近年、学校においてそうした子どもたちの居場所づくりが進められています。しかし、学校では1人ひとりの子どもに寄り添うリソースや方法論が十分に整備されていないため、居場所づくりの徹底は難しいのが現状です。そこで、様々な学校に足を運びながら、学校における居場所づくりの実践と論理について検討しています。

私は、自分の問いや考えが変わっていくことが面白くて研究を続けていますが、研究を学問的・実践的にも意義のある形にするには、積極的なデータ収集や学会発表と、その資金が必要不可欠です。立命館大学では、科研費の申請にあたって、若手研究者を対象とした計画書添削支援があります。この制度を利用すると、科研費の審査経験をお持ちの先生に的確なアドバイスをいただくことができます。その他にも様々な支援制度がありますので、ぜひ、フル活用することをお勧めします。

topics

立命館大学の研究活動をより詳しく知りたい方は…



研究活動報 RADIANT



立命館大学における研究活動を広く紹介しています。

<http://www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/>

Twitter

立命館大学_研究部
@Rits_ResearchPR



立命館大学研究部公式Twitter。立命館の「研究」をもっと身近に感じてもらえるよう、多様な研究者の研究活動やイベントを紹介しています。

研究機構・研究所・研究センター

立命館大学では、研究機構による最先端の取り組みが展開されています。その成果は社会貢献のために活用されるとともに、大学院の研究・教育に還元され、高度な研究につながっています。人文・社会・自然科学各領域の研究を推進するために多彩な研究機構を設置し、基礎から応用まで幅広い活動を展開しています。また、国や地方公共団体、産業界との研究交流にも積極的に取り組み、成果を社会に還元しています。

※以下は、2020年2月1日現在の研究機構・研究所・研究センター

立命館グローバル・イノベーション研究機構[R-GIRO]

R-GIROは、学長直轄の研究組織で、「政策的重点課題に特化した研究拠点の形成」および「次世代を担う若手研究者の育成の強化」を目的に2008年に設立されました。自然共生型社会の実現に向け、自然科学分野と人文・社会科学分野との融合を図り、学際的研究活動を促進することで、価値ある研究成果を創出し、その成果の積極的発信により、次世代社会への貢献を果たすことを目的としています。

立命館アジア・日本研究機構

立命館アジア・日本研究機構は学長直轄の研究組織で、「『アジア・日本研究』をリードする研究者の育成および未来のアジア・日本についての共通ビジョンの形成」をミッションとし、「アジアの時代」に資する立命館らしいコンセプトと戦略性を兼ね備えた研究を推進しています。国内外の研究機関と連携し、多様な研究ネットワークの中核としての機能を発揮しながらグローバルな視点でのアジア・日本研究を推進していくことを目的としています。直下のアジア・日本研究所では、「共生」「共創」「和解」をキーワードとした総合的実践研究を重点的な取り組みとし、プロジェクトごとに研究活動と成果発信を進めています。

■アジア・日本研究所

衣笠総合研究機構

衣笠総合研究機構は、1998年に設置され、研究所・研究センターをマネジメントする研究機構として研究活動を支援しています。「自主」「民主」「公開」「平和利用」といった4つの原則のもと、人類の福祉と社会の進歩に貢献し、社会の要請に応えることを目的としています。

■人文科学研究所 ■国際地域研究所 ■国際言語文化研究所 ■人間科学研究所 ■アート・リサーチセンター ■歴史都市防災研究所 ■白川静記念東洋文字文化研究所 ■生存学研究所 ■研究センター コリア研究センター/間文化現象学研究センター/ゲーム研究センター/環太平洋文明研究センター/加藤周一現代思想研究センター/金融ジェトロロジー/金融・法教育研究センター/地域健康社会学研究センター/クリエイティブ・メディア研究センター/中東・イスラーム研究センター/東アジア平和協力研究センター

BKC 社系研究機構

BKC社系研究機構は1つの研究所と2つのセンターで構成されています。社会的ネットワーク、国際性、公開性および学際性を研究の基本的視点に置いた社会科学および学際領域の基礎的および応用的研究を行なうことで学術文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的としています。

■社会システム研究所 ■研究センター ファイナンス研究センター/食総合研究センター

総合科学技術研究機構

総合科学技術研究機構は、科学技術の発展と地域社会に貢献するために1994年に「総合理工学研究機構」として設置されました(2012年度より、現名称に改称)。産学官の共同研究の推進を通して、科学技術の発展と地域社会に貢献することを目的としています。

■理工学研究所 ■SRセンター ■VLSIセンター ■研究センター 防災フロンティア研究センター/バイオメディカルデバイス研究センター/琵琶湖2研究センター/創薬科学研究センター/スポーツ健康科学研究センター/ロボティクス研究センター/エネルギーイノベーション材料研究センター/古気候学研究センター/先端CTメディカル・ヘルスケア研究センター/システム視覚科学研究センター/生物資源研究センター/環境テクノロジー・マネジメント研究センター

OIC 総合研究機構

大阪いばらきキャンパス(OIC)の教学コンセプト「アジアのゲートウェイ」「地域・社会連携」「都市共創」をふまえ、グローバルに通用する人材の育成、新たなイノベーションの創出、地域コミュニティの中核的存在としてその機能を果たす研究機構を目指し、活動することを目的としています。

■地域情報研究所 ■研究センター イノベーション・マネジメント研究センター/医療介護経営研究センター/デザイン科学研究センター/グローバルMOT研究センター/稲盛経営哲学研究センター/サステイナビリティ学研究センター/認知科学研究センター/ものづくり質的研究センター

国際交流・留学生サポート

外国人留学生(大学院)国・地域別一覧

国・地域	人数	国・地域	人数	国・地域	人数	国・地域	人数
中国	669	ウズベキスタン	4	シンガポール	2	マラウイ	1
インドネシア	66	エジプト	4	ドイツ	2	スロバキア	1
ベトナム	25	パキスタン	3	カンボジア	2	南スーダン	1
台湾	24	アフガニスタン	3	カナダ	2	カメルーン	1
韓国	21	イタリア	3	ソマリア	2	ギニア	1
タイ	20	南アフリカ	3	香港	2	ブルガリア	1
バングラデシュ	18	セネガル	3	サモア	1	アルゼンチン	1
ミャンマー	14	ケニア	2	スイス	1	ウクライナ	1
キルギス	11	チリ	2	ロシア	1	イギリス	1
インド	10	メキシコ	2	スウェーデン	1	ポーランド	1
アメリカ	9	ザンビア	2	マルタ	1	ジンバブエ	1
ネパール	7	サウジアラビア	2	パナマ	1	ホンジュラス	1
マレーシア	6	シリア	2	チュニジア	1	マカオ	1
フィリピン	5	チェコ	2	パラオ	1	ソロモン諸島	1
ラオス	5	ハンガリー	2	トルコ	1		
ナイジェリア	5	モンゴル	2	スペイン	1		
				総計	992		

外国人留学生とは、在留資格「留学」を取得できるもので外国籍を持つものを言う。 2019年5月1日現在

大学院在籍のうち、外国人留学生の割合 **28.2%** **992名**

外国人留学生受入数の多い大学 **第1位** **関西私大中***

※平成30年度外国人留学生調査について
【独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO)】

世界各国の大学院生と学ぶ

60以上の
国・地域から集まる留学生

立命館大学の特徴は「多様性」という言葉に集約されます。立命館大学には世界の多様な国・地域から大学院生が集まり、日々勉学や研究に励んでいます。異なる文化や価値観の人とともに学び、グローバル人材に必要な素養をさらに磨くことのできる環境があります。

DMDP(共同修士学位プログラム)

共同修士学位プログラム(DMDP: Dual Master's Degree Program)とは、立命館大学大学院に所属しながら提携する海外の大学院に1年間留学することにより、最短2年間で国を越えた2つの大学院の修士号を同時に取得できる制度です。グローバル化する国際社会で活躍する人材を育てる仕組みを持った画期的なプログラムです。

派遣プログラム実施研究科

- 国際関係研究科
- 社会学研究科
- 文学研究科

※対象研究科は変わることがあります。

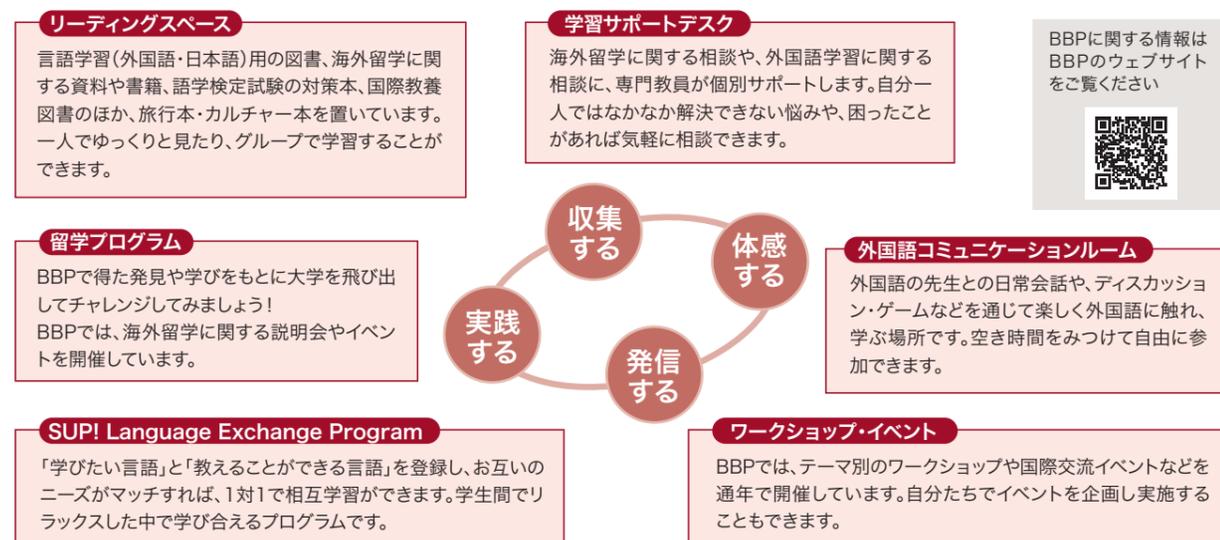


Beyond Borders Plaza (BBP)

2018年4月、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスにBeyond Borders Plaza (BBP)を開設しました。BBPは、国境の壁、文化の壁、言葉の壁、価値観の壁など、様々なBorderを超えてつながりを生み出し、共に学ぶ、国際交流や言語学習をコンセプトにした空間です。様々な言語学習用図書や、国際教養図書、雑誌などを通じて、楽しみながらグローバルな素養を高めたり、様々な国際交流イベントにも参加することができます。



BBPでは何ができるの？



Interview

大学院の魅力や大学院生への期待について
本学教員と企業の方にお聞きしました。

教授からのメッセージ



言語教育情報研究科
佐々木 冠 教授

研究を通じ、世界は広がる

日本語の方言の文法記述を中心に研究しています。方言は標準語と音や単語が違っただけでなく、文法が違ふこともあります。そんな方言を記述してその文法特徴が人間の言語を理解する上でどんな意味があるか考察するのが僕の研究活動です。

専門的知識を深めて新しい知見を求めることによって、視野を広げ、さらには人脈も広げられることが大学院に進学することの魅力です。専門的知識を深めるといって狭い世界に閉じこもるようなイメージがあるかもしれませんが、実際には逆です。学部では自分の大学や近隣の大学の学生との交流がほとんどですが、大学院に入ると学会を通して全国の同じ分野の若手研究者と交流できます。また、大学院にはいろいろな国からの留学生がいます。日本とは違う若者の時間の過ごし方(兵役が義務だったり)があることを肌で認識できます。

大学院でできることは、研究だけではない

大学院進学者の強みは、わかりやすい文章が書いて組織の中で活躍できる人間であることです。自分より一世代前の人(指導教員たち)にわかってもらえなければ修士や博士の学位はとれません。学会運営にかりだされて組織運営に携わり、ワーキングペーパーの編集を行うといった実践的な活動は、社会に出てからも役立ちます。

また、どの分野でも時代によって研究の枠組みが変わります。僕が大学院生の頃、最適性理論が出現して言語学のパラダイムが大きく変わりました。そんなときは対応に苦労しますが、このような大変革は学問の世界だけでなく社会でも生じます。日々刻々変化する学問の動向に対応していくことを通して、院生たちは変動する社会と向き合う方法を学んでいきます。

研究に打ち込むことは、素晴らしいことです。深く考えた上で、視野を広げ、人間関係を広げたい人は大学院進学を検討してみてください。大学院選びのポイントは「どんな教員がいるか」です。大学院で教えている教員の研究業績をチェックしましょう。

誰もがイノベーションを起こせることを目指して

自然科学分野で起きるブレークスルー(画期的な科学的発見、成功)は、イノベーションの典型例です。それがどのような過程で生じ、産業にいかなる影響を与えるのかを研究しています。これまでの研究で、ノーベル賞を受賞するような研究者とイノベティブな事業を起こすビジネスパーソンの発想は、その過程がとてもよく似ていることがわかってきました。また、「イノベーションを起こすことができるのは、先天的に素質のある人だ」と考えられがちでしたが、そうではなく、不断の努力による観察から成されるものであることもわかってきました。経済成長や社会発展につながるイノベーションを起こせる仕組みの構築を目指しています。

一人で閉じこもらず、多くの仲間とともに進む経験を

大学院の研究というのは、答えのないことを解かなければならないものです。粘り強く何回もトライするような地道な努力の積み重ねが必要ですが、その過程で今まで誰も気づかなかったことに気づく瞬間が必ずあります。それが研究の面白さであり、成長する瞬間です。

研究を進めるためには、仲間やいろいろな人の意見を聞くことが大切です。大学院にはそれぞれの専門をもつ教員がいますが、どの教員も研究を続ける皆さんに的確なヒントを与え、力を惜しむことなく、皆さんの成長の支えになってくれるでしょう。教員だけでなく、同級生、先輩などの多くの人に支えられ、応援されながら自主的に研究を進めていく経験は、修了後、研究以外の道に進んでも自らを支える力になってくれるはずですよ。

大学院では、誰にも新たな発見ができる可能性があります。その発見によって未来を拓くこと、新しい価値を創造することも可能です。研究を通じて、社会の課題に向き合い、新しい価値を創造すること、社会貢献することに興味のある方を歓迎します。



テクノロジー・
マネジメント研究科
品川 啓介 教授

企業からのメッセージ



株式会社LITALICO
人材開発部 マネージャー
金井 敦司 氏

COMPANY PROFILE

2005年創業、「障害のない社会をつくる」をビジョンに掲げ、就労支援、教育事業、メディア事業、アプリ開発など多岐にわたる事業領域から社会課題の解決に取り組んでいる。

いま、深く追求する力が求められている

物事を深く追求することは、戦略立案、また対人支援の専門性を深めることの強みになります。情報が溢れている社会において、知識や知見を得ることは容易になってきています。その中で、一つの事象や自分自身の関心の高い分野について、深く追求をし、自分なりの分析や視座、考察を深める力が必要であると感じています。

そして、未来のあたりまえをつくる。なぜできないかではなく、どうしたらできるかを考えること、それが強く求められていると思います。

大学院での学びは、社会を変える原動力になる

大学院での学びを通して養える、「問題の特定」、「その問題や事象の分析・考察を深め」、「その問題や事象に対しての行動につなげていく力」が、いままさに、この社会で求められている力だと捉えています。また、物事を深めるために、フラットな学生同士の立場で、自分らしさを大切にしながら、自分とは違った価値観や意見について、対話を通じて深めていく経験も非常に大切だと認識しています。

私自身も大学院出身ですが、今の社会にどのような課題があるだろう、自分たちに何ができるだろうと考えるとき、大学院で得た知識や経験、身につけた力が生きていて実感する場面は少なくありません。

大学院に進学する方へ

大学院では、自分自身の関心事、深く研究をしたいことに没頭し、その中で得られる深い視座や考察、また大学院での学びの中で得られる強みに確信をもっていただけると嬉しいです。

大学院で得た強みを自分自身の強みとして、社会に還元する、また役に立つ力に研ぎ澄ましていただくために、大学院での学びを存分に楽しんでいただければと思います。

COMPANY PROFILE

寛酒造(株)【現 宝ホールディングス(株)】のバイオ事業としてスタート。革新的なバイオテクノロジーの開発を通じて人々の健康に貢献するべく、医療分野へも事業領域を拡大し、世界中の大学・企業のバイオ研究・産業を支える。本学「超創人財育成プログラム」協力企業。

様々なことに興味を持ち、専門分野や得意分野を広げてほしい

当社は、研究用試薬、遺伝子解析、遺伝子治療など最先端のバイオテクノロジーを活用して事業活動しています。大学院では、研究テーマを持ち、専門分野の知識や技術を深く身につけることができ、当社ではこれらの専門知識・技術をそのまま仕事に役立てることができます。また、当社が事業領域としているバイオ分野は変化のスピードが速く、新しい製品や技術を次々と創出し続けなければ競争に勝てません。このような環境で活躍できるのは、専門知識を持ちつつ、専門以外の事にも興味を持ち、得意分野にできる方です。専門分野だけでと、専門分野から離れた技術へ変化したときに適応できません。様々なことに興味を持っていくつかの得意分野をもち、先を見据えて新しい事にチャレンジできる方が変化に適応できると思います。

考える力を醸成したいのであれば、大学院進学を

最先端の技術を活用して仕事をするにあたっては、情報を収集して目的を理解し、計画の立案や課題発見、改善方法などを自ら考える力が必要です。これらは研究者としての基本の力であり、この力が醸成されるのは大学院であると考えています。大学院は、研究を遂行する中で、論文など情報を収集し、どのような実験計画を立てると課題が解決できるのか、どのような手法を用いれば信頼できるデータを得られるのかについて考え、それを実行するといった、仕事に直結するトレーニングができる場になるのではないかと思います。また、研究プロジェクトを進める際には、他の人とコミュニケーションを図りながら、チーム一丸となって目標に向かい取り組みます。様々な人の意見を取り入れながら、時には周りを巻き込みながら、進めていく作業になるため、相手の意見を尊重し、同時に「自分の意見を持っている」点が重要になります。学生のうちから科学に興味を持ち、論理的思考力を鍛え、自分の意見を表現できるようになっておくことは、将来に役立つのではないのでしょうか。

同時に、研究の面白さを知ることができる時期でもあります。企業では携わることが難しい、アカデミアならではの研究を経験することも良いですね。



タカラバイオ株式会社
取締役
峰野 純一 氏





法学・政治学の研究者、高度専門職業人・公務員を養成。

博士課程前期課程における履修の概要

希望の進路にあわせてコース・プログラム展開できめ細かく、丁寧な研究指導を行います。

研究コース 法学・政治学分野の研究者を養成する

研究者養成を目的としたコースです。博士課程前期課程2年、後期課程3年の「ゆるやかな5年一貫制」とっています。論文作成に向けた個別指導が行われるほか、専門分野ごとの研究会での討論を通じた少人数のグループ指導も行われます。また、司法試験に合格した方を受け入れる後期課程入試も実施しています。

公務行政コース 法学・政治学の知識を生かせる公務行政のスペシャリストを養成する

国家公務員や国税専門官、裁判所事務官など法学・政治学の知識を必要とする公務員志望者のためのコースです。公務行政のスペシャリストとしての法律職・行政職公務員志望者を想定しています。

リーガル・スペシャリスト・コース 企業法務、不動産法務、税務のスペシャリストを養成する

- ビジネス法プログラム**
民間企業や金融機関で法律専門職として活躍する人を養成するプログラムです。金融・証券関係の法制や証券化などの金融実務を学修します。
- 不動産法プログラム**
司法書士や民間企業の不動産関係の専門職養成を想定したプログラムです。司法書士事務所での法務実習を通じて理論と実務の架橋を図ります。
- 税務プログラム**
税理士や公認会計士など税務のプロフェッショナルを養成するプログラムです。税理士法人・事務所での法務実習を通じて実務感覚も涵養します。

法政リサーチ・コース 多様な興味・関心を学問的に深める

学部段階で抱いた問題意識や学問的関心、究明しきれなかったテーマなどを、より専門的に深めるためのコースです。特定の進路に対応した科目群をあえて設定せず、各人の興味・関心にあわせて、他コース向けに開設された諸科目も含めて比較的自由に履修することができます。また、社会人が、職業体験を通じて抱いた興味や関心を研究テーマとして探究することも可能です。

法学研究科

※本学法学研究科は、税理士試験の科目免除に対応したカリキュラムです。

博士課程前期課程 履修モデル

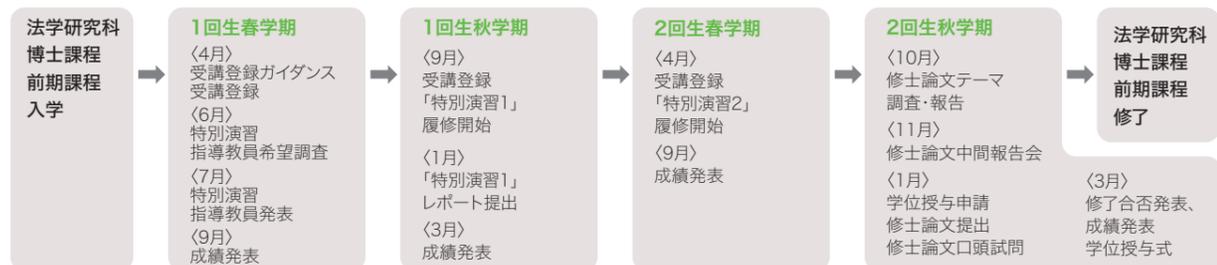
研究コース	-	憲法研究(講義/演習)/民法研究(講義/演習)/刑法研究(講義/演習)/政治学研究(講義/演習)/法哲学研究(講義/演習)/比較法研究(講義/演習)/外国語講読 など	企業活動	民法I/消費者法/商取引法/会社法/著作権法/工業所有権法/独占禁止法
リーガル・スペシャリスト・コース	ビジネス法プログラム	保険法/金融・証券法/商取引法/会社法I・II/国際経済法/国際取引法/企業・金融法務 など	公務政治分野	憲法/行政法I/社会保障法/行政学I/政治学/現代政治分析/国際政治論/政治思想史
	不動産法務プログラム	不動産取引法/不動産登記法/商業登記法・供託法/民事訴訟法/民事執行・保全法 など	国際関係	国際法/国際人権法/国際私法/国際環境法/国際政治論/アジア法/英米法/西洋法史
	税務プログラム	税法総論/所得税法/法人税法/消費税法/租税手続・争訟法/国際税法 など	医療生命倫理関係	憲法/刑法I/家族法/法哲学/法社会学
公務行政コース	-	民法I・II/憲法/家族法/政治学/行政法I・II/行政学I・II/政策法務論/地方自治法/労働法 など	法学の基礎研究	法哲学/法社会学/西洋法史/日本法史/アジア法

博士課程前期課程 法学研究科所属教員紹介(2020年4月現在)

- 平野 仁彦 教授/法哲学
- 菊地 諒 准教授/法哲学
- 渡辺 千原 教授/法社会学
- 河野 恵一 教授/日本法史
- 高橋 直人 教授/西洋法史
- 小田 美佐子 准教授/アジア法
- WOLF MICHAEL L. 教授/英米法
- 植松 健一 教授/憲法
- 大西 祥世 教授/憲法
- 倉田 原志 教授/憲法
- 駒林 良則 教授/行政法
- 小松 浩 教授/憲法
- 多田 一路 教授/憲法
- 須藤 陽子 教授/行政法
- 正木 宏長 教授/行政法
- 望月 爾 教授/税法
- 安井 栄二 教授/税法
- 徳川 信治 教授/国際法
- 湯山 智之 教授/国際法
- 安達 光治 教授/刑法
- 嘉門 優 教授/刑法
- 本田 稔 教授/刑法
- 森久 智江 教授/刑事訴訟法
- 石橋 秀起 教授/民法
- 白井 豊 教授/民法
- 木村 和成 教授/民法
- 谷本 圭子 教授/民法
- 二宮 周平 教授/民法(家族法)
- 本山 敦 教授/民法(家族法)
- 山田 希 教授/民法
- 谷江 陽介 教授/民法
- 中谷 崇 教授/民法
- 品谷 篤哉 教授/商法
- 竹瀨 修 教授/商法
- 山田 泰弘 教授/商法
- 清水 円香 准教授/商法
- 出口 雅久 教授/民事訴訟法
- 川中 啓由 准教授/民事訴訟法
- 宮脇 正晴 教授/知的財産法
- 樋爪 誠 教授/国際私法
- 宮井 雅明 教授/経済法
- 岸本 雄次郎 教授/信託法
- 佐藤 敬二 教授/社会学
- 山本 忠 教授/社会保障法
- 吉田 美喜夫 教授/労働法
- 畑中 麻子 准教授/知的財産法
- 小堀 真裕 教授/政治過程論
- 徳久 恭子 教授/政策形成論
- 山本 圭 准教授/政治思想史
- 堀 雅晴 教授/現代日本政治論
- 村上 剛 准教授/政治心理・行動学
- 村上 弘 教授/行政学・地方自治論
- 柳 至 准教授/行政学
- 西村 めぐみ 教授/国際政治学
- 吉次 公介 教授/日本政治史
- 石原 浩澄 教授/英語
- 藏藤 健雄 教授/英語
- 佐藤 渉 教授/英語
- 吉岡 公美子 教授/英語
- JACKSON LACHLAN 教授/英語
- 松尾 剛 教授/フランス語
- 田原 憲和 教授/ドイツ語
- 安保 寛尚 准教授/スペイン語
- 中西 千香 准教授/中国語

※教員の研究内容は「立命館大学法学研究科ウェブサイト」>「研究科紹介」>「教員一覧」で閲覧できます。

博士課程前期課程 研究指導フローチャート(リーガル・スペシャリスト・コース、公務行政コース、法政リサーチ・コース共通)



国内外の諸課題を学際的・創造的に解明する力を養う。

社会学研究科の特徴

- ・専門性: 研究領域ごとの「必修科目」「研究領域基幹科目」を設定し、専門性の基盤を築くカリキュラムを編成しています。
- ・学際性: 100名近い教員が集い、多様な知に触れることで学際的な研究を実践できます。
- ・国際性: 世界的な研究者によるサテライト授業や、留学生もまじえた共同研究を通じて国際性を高めます。
- ・研究・教育環境: さまざまな機会を通じて院生同士のコミュニティ作りを促進しています。また、研究や学びの質を高めるために院生との研究科懇談会を定期的実施しています。

「国際化」・「プロジェクト系科目」・「資格取得」

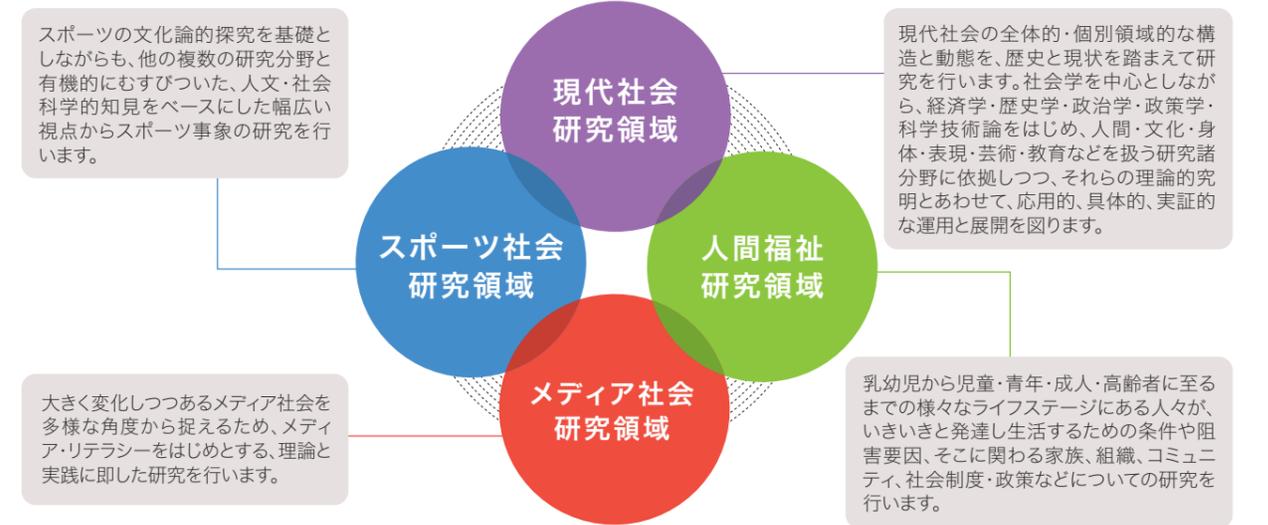
一部科目を基本的に英語で開講しており、また英国・ランカスター大学、韓国・中央大学校など海外の大学院との合同研究、報告会の開催やDMDP(修士課程共同学位プログラム)などを通じて院生の国際交流にも力を入れています。

また、領域横断的・実践的な教育を提供するため、複数の教員による集団指導を行う横断型の「研究プロジェクト」をはじめ、「キャリア形成プロジェクト」「国際プロジェクト」などのプロジェクト系科目を設けています。

資格取得の面では、社会調査の専門的知識と技能の修得を目的とした「社会調査士・専門社会調査士課程」を設置し、キャリアアップを支援しています。また教育職員免許の一種免許状を取得している場合は、より高度な知見を教壇で活かすために専修免許状の取得が可能です。

4つの「研究領域」

社会学研究科のカリキュラムは、広範囲な社会問題を対象としつつ社会学の応用的展開を目指すために、4つの「研究領域」からなり、多様なアプローチを通じて、国内外での諸課題を学際的・創造的に解明する力を養成します。



博士課程前期課程カリキュラム紹介 [2020年度] (シラバスは社会学研究科ウェブサイトからご覧いただけます)

	M1		M2	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
研究指導科目	特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV
国際関連科目		外国語発信型科目(アカデミックライティング・アカデミックプレゼンテーション・英語リサーチスキル入門)	外国語論文講読科目(資料文献研究I(英語)・II(仏語)・III(独語))	国際社会研究科目(国際社会研究・比較社会研究・日本社会研究)
応用科目		研究領域専門科目(産業社会研究・福祉社会研究・スポーツ社会研究・メディア社会研究など)	実習系科目(応用社会学実習A(インターンシップ型))	プロジェクト系科目(研究プロジェクト・国際プロジェクト・キャリア形成プロジェクト)
基幹科目	社会学研究法I(スタンダード)	社会学研究法II(アドバンスト)	社会学研究法I(スタンダード)	社会学研究法II(アドバンスト)
	研究領域基幹科目I(領域ごと)	研究領域基幹科目II(領域ごと)		
	社会学理論	社会学史研究		
	社会調査研究I	社会調査研究II		
	多変量解析法I	多変量解析法II		
	社会統計研究			



世界と日本を架橋する人材を育成。

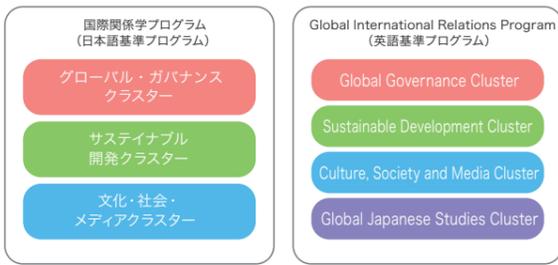
2021年度より新カリキュラムをスタート

本研究科の博士課程前期課程は、日本語と英語という学修言語で分かれる2つのプログラムで構成されています。本研究科の特徴の一つは、ディシプリンに関して、緩やかな研究領域(科目群)を示す役割として、クラスターという概念を用いていることにあります。各クラスターには特徴があります。「サステイナブル開発クラスター/Sustainable Development Cluster」は、先進国、途上国における持続可能な繁栄を追求するために、経済理論、経済学というディシプリンと、政策評価や立案に関わる実践系科目をバランスよく学びます。「グローバル・ガバナンスクラスター/Global Governance Cluster」は、平和と民主主義に関する様々な問題を、グローバルな視点とローカルな視点を重視しつつ、理論と実践を学びます。「文化・社会・メディアクラスター/Culture, Society and Media Cluster」は、グローバル化という文脈に即しながら、文化理論と社会理論の基礎を学び、メディア・文化研究の主要なアプローチを学びます。「Global Japanese Studies Cluster」は、英語で日本について研究できるという特徴を最大限に生かし、日本研究の基礎から発展まで全て英語で学修し、日本から見た世界を、世界から見た日本を視点にした研究を学びます。

国際関係学プログラム (日本語で学修するプログラム)

狭義の国際関係学という枠組みを越え、政治、経済、文化・社会・メディアという縦軸に、地域研究という横軸が走り、多様な領域を横断する極めて学際的な研究と教育を指向している点に大きな特徴があります。この学問体系を可視化するものとしてクラスターを用いています。先端的な地域研究の醍醐味と、政治・経済・文化社会メディアの各ディシプリンを横断する学びの魅力に触れてほしいと思います。

日本語基準プログラム/英語基準プログラム



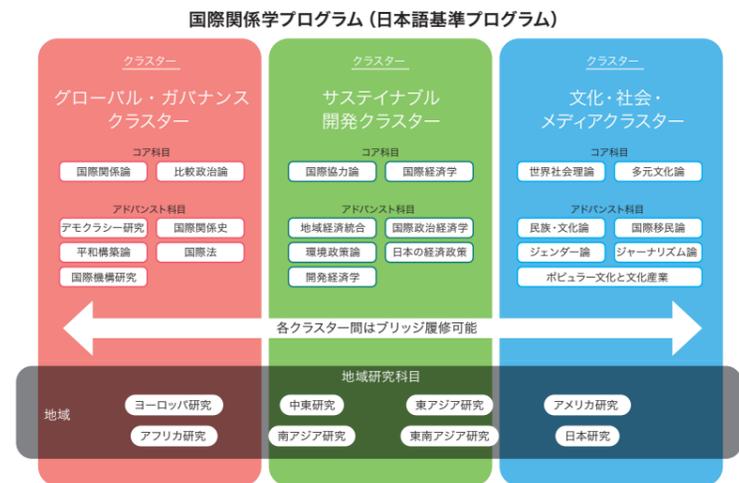
Global International Relations Program (英語で学修するプログラム)

Global Governance Cluster, Sustainable Development Cluster, Culture, Society and Media Cluster, Global Japanese Studies Cluster という4つのクラスターで構成された幅広いテーマを提供します。これらの科目とともに、東アジア研究、東南アジア研究、欧州研究、アフリカ研究、中東研究を含むさまざまな地域研究を提供します。学生は、21世紀のグローバルな課題を理解するために、専門分野と地域研究の視点をうまく組み合わせる学修を経て、成長することが期待されます。

特徴

- 1992年開設で歴史ある大学院**
多くの国際系大学院がありますが、国際関係学を学ぶ大学院として、西日本で最初に開設されました。
- 日本語、英語で学位取得可能**
日本語、英語 それぞれの言語で構成されたカリキュラムのいずれかが選択可能です。
- 幅広く多様なディシプリンで形成された国際関係学のカリキュラム**
政治、経済/開発、文化・社会・メディアといった幅広いディシプリンで形成された国際関係学のカリキュラムを学ぶことができ、越境する国際諸問題の理解学習に必要な複数のディシプリンによる論文指導を複数指導教員体制の下、受けることができます。
- 世界各地を網羅した豊富な地域研究の提供 ▶ダイナミックな国際情勢を学ぶ**
北米、中南米、中東、アフリカ、日本、東アジア、東南アジア、南アジア、ヨーロッパまで網羅した科目の提供と論文指導が可能です。
- 国際的な大学院ネットワーク(APSIA)へ、日本唯一の正会員加盟**
ハーバード大学、イエール大学を始めとした世界の国際関係学をリードする大学院が集まる。国際的な大学院ネットワーク(APSIA)に日本の大学・大学院の中で唯一正会員として加盟し、国際関係学の教育・研究で日本をリードする存在として世界的に認められています。
- 将来、国際機関等で働く人材を育成するプログラム**
国際機関への進路就職を目指す方を対象に、講義から実務に至るまでの理論と実践の場を提供します。(国際機関セミナー(正課科目)ほか)

クラスターと主な開講科目一覧



※入学者の所属はプログラムのみで、いずれのクラスターで分類される科目も履修することが可能です。
※全ての科目が毎年開講されるものではありませんので、詳しくは入学後のオリエンテーション等で正確な情報をご確認ください。

- 世界で学ぶ ▶Dual Master's Degree Program (DMDP)**
約1年間、海外の大学に留学し、最短2年間で2つの修士号を取得できる画期的な制度です。
イースト・アングリア大学【イギリス】 アメリカン大学国際関係大学院【アメリカ】 エラスムス大学ロッテルダム・社会科学大学院大学(ISS)【オランダ】 国立政治大学【台湾】 ロンドン大学ロイヤルハロウェイ校【イギリス】 ヨーク大学【イギリス】 慶熙(キョンヒ)大【韓国】
- エキスパートから学ぶ ▶経験豊富な実務家教員**
元国連事務次長、元外務事務次官、株式会社 国際協力銀行、独立行政法人 国際協力機構(JICA)、独立行政法人 日本貿易振興機構(ジェトロ)
- 多様性から学ぶ ▶世界各国から集う留学生と高めあう**
世界各地から留学生が集い、その数は在院生の半数以上を占めています。留学生の出身国(2019年度 秋 semester 博士課程前期課程および後期課程在籍者)(順不同) 〈東アジア〉:中国、韓国、香港、台湾、日本 〈東南アジア〉:インドネシア、カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス 〈南アジア〉:インド、ネパール、ブータン 〈中央アジア〉:キルギス 〈大洋州〉:パプアニューギニア、フィジー、ニュージーランド、オーストラリア、台湾、香港、中国、韓国、日本、インドネシア、カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス、インド、ネパール、ブータン 〈中央アジア〉:キルギス 〈大洋州〉:パプアニューギニア、フィジー、ニュージーランド、オーストラリア、台湾、香港、中国、韓国、日本、インドネシア、カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス、イタリア、ウクライナ、チェコ、ドイツ、ハンガリー、ブルガリア 〈中東〉:サウジアラビア(アフリカ):エジプト、ギニア、チュニジア

グローバル・ガバナンスクラスター
国際政治、国際法、国際関係史、などを学問領域・理論と実践・実証からバランスよく学び、加えて西洋、非西洋での平和に関する諸課題を総合的かつ体系的に学ぶクラスターになります。

サステイナブル開発クラスター
国際協力論、経済理論、経済学というディシプリンと、政策評価や立案に関わる実践系科目をバランスよく配置し、先進国および途上国における持続可能な繁栄を追求することをテーマに、総合的かつ体系的に学ぶクラスターになります。

文化・社会・メディアクラスター
グローバル化という文脈に即しながら文化理論と社会理論の基礎を学び、メディア・文化研究の主要な概念を網羅します。人種や民族からメディア・ポピュラー文化と文化産業に至るまでの学習を総合的かつ体系的に学ぶクラスターになります。

左記以外の開講科目(一例)
※詳しくはウェブサイトをご覧ください。
リサーチメソッド・リサーチデザイン、国際機関セミナー、アカデミックライティング(日本語) Professional Training; International Cooperation, Professional Training; Diplomacy, Research Training

「人間とは何か」をはてしなく追い求める。

多様な教育・研究を生み出す2つの専攻、14の専修

文学研究科は人文学専攻と行動文化情報学専攻による、2専攻14専修の体制となっています。伝統的な人文学に加え、情報技術と人文学を融合させたこれまでにない新しい学問分野を展開しています。

人文学専攻 文学研究科	哲学専修	古代ギリシャ哲学から近代哲学、倫理学、社会哲学、現象学、フランス現代思想といった諸分野に専任スタッフを配置し、2600年以上前に始まる「人間とは何か」という課題に取り組みます。
	教育人間学専修	「こころ」の問題を媒介として、教育と人間のかかわりを多角的に考究します。その出発点は、生まれ、育ち、出会いや別れをへて、やがて老い、死にゆく人間の営みに対する驚きと慈しみです。
	日本文学専修	長い歴史に培われた日本の文学作品やことばを通じて、日本文化の特質を探索します。想像力溢れる作品群は、時代を超えて私たちの胸を打ちます。新たな視点で先端的な研究をめざします。
	中国文学・思想専修	悠久の歴史の中ではぐくまれ、東アジアの文化に大きな影響力をもつ中国の文学や思想に関する高い識見を養い、そこに存在する興味深い問題について清新な研究を展開します。
	英米文学専修	英米を中心とする英語文学・文化を広く深くカバーする専門分野の教員が指導に当たり、高度な英語力や分析力を養います。研究職はもとより、英語力が要求される多様な職場への就職が考えられます。
	日本史学専修	古代から現代に至る各時代のスペシャリストが、伝統ある「立命史学」に立脚した新たな歴史学を構築します。全国各地で教員・学芸員として活躍する先輩たちとのネットワークも充実しています。
	東洋史学専修	中国を中心とする東アジア世界を、その起源に遡って研究します。そのための方法としての原典読解は、昨今の東アジア諸地域におけるダイナミックな動きの原点を探る上で有益でしょう。
	西洋史学専修	古代～現代の西欧・東欧における政治史、文化史、社会史など広い領域にわたる教員スタッフが、専門の垣根を越えて研究を発展・深化できるように、協働しています。
	文化動態学専修 [博士課程前期課程のみの募集]	比較文化論、言語学、歴史学、美術史、現代芸術批評、音楽文化論、社会思想史、文化人類学等の専門領域を横断しながら文化のダイナミズムに取り組める専修です。
	現代東アジア言語・文化学専修	中国(台湾・香港などを含む)・朝鮮半島を領域とし、そこにおける言語・現代文化・現代史を教学分野として、中国語・朝鮮語の実践的なコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな東アジア人を育成します。
	英語圏文化専修	英語学・言語研究および英語圏文化の歴史、文化・文学を分野横断的に研究します。高度な専門性を磨きつつ学際的な思考力を身につけます。また、これらの研究を通して国際的に活躍できる英語運用能力を養います。
	地理学専修	地表上のさまざまな現象を空間的関連性の観点から解明するのが地理学です。専修には幅広い専門分野に多くの教員スタッフがいて、質の高い研究・教育を展開しています。
	文化情報学専修	人文学に情報技術を取り入れたデジタル・ヒューマニティーズの手法を応用し、世界に誇る日本文化・芸術・文化遺産をテーマに、研究手法の格段の効率化を図り、魅力的で豊富な専門知識をキュレーションできる人材を育成します。
	考古学・文化遺産専修	人類の残した遺跡や遺物から歴史を復原する考古学を学ぶと同時に、遺跡や遺物を中心とする文化遺産の保存と活用について学びます。日本列島の考古学と文化遺産が対象ですが、日本列島以外についても広く学ぶことが可能です。

大学院生の目的に応じた2つのコースを設置 [博士課程前期課程]

前期課程では、様々な目的を持つ人を受け入れるため、2つのコース(研究一貫コース、高度専門コース)を導入しています。コースは入学試験出願時に決定し、入学後はそれぞれの目標に沿って研究を進めていきます。

<h3>研究一貫コース</h3> <p>博士課程後期課程に進学して博士学位を取得することを旨とする。博士學位取得後は、高等教育・研究機関での教育・研究に従事することを目標とする人を対象とします。</p>	<h3>高度専門コース</h3> <p>博士課程前期課程修了後は、中学・高等学校教員、公務員、学芸員などの専門的知識が必要とされる職業を目指す人。また現役の有職者で、より専門的な能力を身に付けることを目指す人。その他、社会人として幅広い活動に応えられる教養を身に付けることを目的とする人を対象とします。</p>
---	---



プロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成。

プロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成

映像文化への横断的思考の涵養

近年の多様化する映像文化・映像産業をめぐる状況の中では、映像に関するジェネラリスト的な素養と領域・分野に応じた高い能力が求められます。そのため、映像研究科ではプロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成を目標とし、他には見られない特徴的な学びを展開しています。

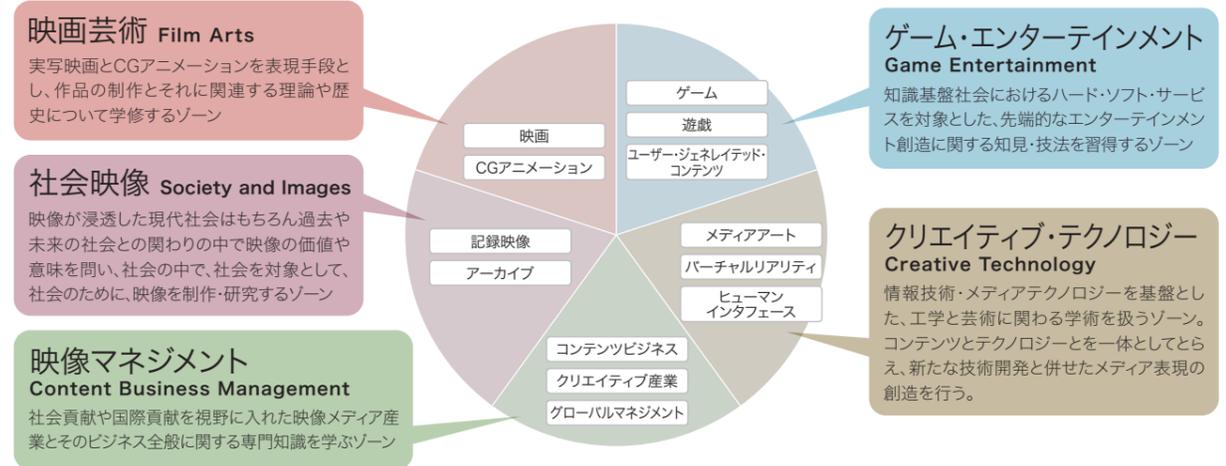
映像研究科の特徴

- ・立命館大学という総合大学において、多岐化・多様化を続ける映像世界を包括的・構造的に測定する能力、複眼的あるいは柔軟に考察する能力の涵養
- ・一分野に特化し狭い範囲で専門的技術修得者を養成するのではなく、多面的な視点を携え、専門性が高くかつ汎用性もある知識、技能、技術、方法論を持ち、変化の激しい映像文化に弾力的な対応ができる能力の育成
- ・社会の求める課題に対する発見や調査を踏まえた研究・制作・開発の実践
- ・5つのサブジェクト・ゾーンからなる分野横断的な学び
- ・1名の研究生に対して、2名以上の教員による丁寧な指導体制



サブジェクト・ゾーン

映像研究科では、5つのサブジェクト・ゾーンの学びの中で、学修経路を自覚しながら、複合的な映像の領域において幅広い視野と専門性の高い理解と技術を身につけることができます。



テーマ・プロジェクト型制作・研究とディシプリン・リサーチ型学修の融合

- ・映像学部にも素地のある学生が早期から研究活動の実質化に注力でき、基礎的な知識・教養の補強が必要な学生はその獲得を集中的な機会を得られる導入・基幹科目を配置
- ・授業科目群の複合的な結合が特徴

「テーマ・プロジェクト型」授業科目群 → 自ら課題を見出して制作あるいは研究に結実させていく
 → 「映像研究演習」「映像研究キャリア演習」など映像関連分野の制作・研究にとって背景となる知識を獲得する授業科目を配置し、「プロジェクト演習」で修士論文・制作に向けた準備を進める

「ディシプリン・リサーチ型」授業科目群 → 講義・実習形式により、映像に関わる諸分野の研究に必要な知識・分析法・技能・技術を修得



研究指導システム

修士論文もしくは修士制作・解説論文の完成にむけて院生1名に対し、教員2名以上による複数指導体制を確立しており、自らの研究テーマに合致した修士研究を行っています。

過去の修士論文・制作 タイトル一例

◇映画『カラオケ・アンサンブル』の制作と演出について ◇踏み台昇降運動に着目した高齢者用リハビリテーションゲームの開発 ◇デジタルアーカイブにおける記憶の可視化 - Photogrammetryの手法を例に ◇VR映像技術における物語表現に対するユーザー評価の実証型研究 ◇デジタルゲームと演劇を組み合わせた新メディアの提案とそのコンテンツの制作

主な進路・就職先

松竹(株)、(株)カプコン、(株)DeNA、(株)日経映像、(株)南日本放送、(株)ライゾマティクス、(株)デジタル・メディア・ラボ、(株)エスパ、(株)ウェルツアニメーションスタジオ、(株)セガ・インタラクティブ、東映トークン研究所、他大学大学院後期課程進学 ほか



言葉を探る、言葉を教える。

コース・プログラム

英語教育学 プログラム

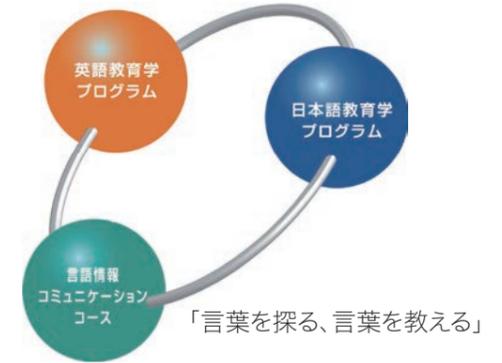
日本の英語教育は、従来の言語知識偏重の教育から、実践的コミュニケーション能力を養成する方向に大きく舵が切られました。これからの英語教員には、英語教育学に関する高いレベルの指導力、教師自身の英語運用能力、そして高い学習目標と動機づけによる意欲的な学習と、達成感から生まれる大きな喜びを、学生・生徒に与えることが求められています。本プログラムではこのような教育理念に基づき、国際通用性を獲得した英語教員を養成するために、外国語としての英語教育に関する深い専門知識を得る科目履修に加えて、海外でのTESOL資格の取得や日本の高等学校でのインターンシップを両輪としたカリキュラムを組んでいます。

日本語教育学 プログラム

日本語学習者数が国内外で増加し、学習者の多様化が進んでいます。社会・文化背景、そして学習目的の多様性に対応できるような高度な知識と実践力そして柔軟性を備えた日本語教育の専門家が必要とされています。本研究科の日本語教育学プログラムでは、そうした要請に応えられるよう、日本語言語学の高度な専門的知識と研究方法、そして最新の外国語教授理論を授業やゼミ指導で学び、国内外の多様な教育機関で実施される日本語教育実習で実践力をつけます。学部で日本語学や日本語教育学を専門として進学してくる人はもちろんのこと、現職の日本語教師、社会人、そして留学生など、多様な背景を持った大学院生が学べる環境が整っています。

言語情報コミュニケーションコース

本コースは、英語・日本語などを研究対象にして、言語情報科学的分析あるいは社会言語学的分析を行います。研究科が保有する大量の電子化された言語テキスト(コーパス)をコンピュータによって解析し、新たな言語事実を発掘し、それを言語の体系の中でどのように位置づけるべきか、またどのように説明するかを考えます。その前提として伝統文法、記述文法、言語理論を重視します。また、情報機器やネットワーク技術を活用したマルチメディア利用のCALL教材開発の研究を行うこともできます。社会言語学的視点からは、ポライトネスストラテジー、バイリンガリズム、言語変化、地域方言・社会方言の研究などを行います。



研究指導の流れ

4月入学の場合(9月入学の場合概ね時期が6ヶ月ずれます)

1 年次		2 年次	
第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
「研究基礎論1」(研究指導科目/講義形式)	「研究基礎論2」(研究指導科目/講義形式)	「課題研究演習I」(研究指導科目/ゼミ形式)	「課題研究演習II」(研究指導科目/ゼミ形式)
アドバイザー決定(4月初)	構想発表会(12月)	2年次研究指導計画書提出(4月末)	中間報告会(10月)
1年次研究指導計画書提出(4月末)	指導教員希望申請(1月)		修士論文または特定課題研究の成果物と報告論文提出(1月)
	コース選択(「修士論文」または「特定課題研究の成果物と報告論文」)(1月)		口頭試問(1月~2月)
	指導教員決定(1月)		学位授与・修了(3月)

科目紹介

*一部の科目(演習など)を除いて、どのコース・プログラムに所属していても、各コース・プログラムの科目を履修することが可能です。

英語教育学 プログラム

- 英語教授法論
- 第二言語習得論
- 英語学(音声学・音韻論)
- 英語学(文法論)
- 早期英語教育論
- 言語教育における測定と評価
- 英語教育における語彙習得論

日本語教育学 プログラム

- 英語教育学の諸問題
- 英語教材開発演習
- 英語教育インターンシップ
- 英語授業研究演習
- 電子教材開発演習
- TESOL 教授法と実習
- TESOL リサーチスキルズ

英語アカデミックライティング

- 応用言語学のための統計解析
- 基礎言語情報処理
- 英語文献講読

英語アカデミックプレゼンテーション

- 英語アカデミックライティング

特殊講義

- 研究基礎論1
- 研究基礎論2

言語情報コミュニケーションコース

- 言語記述方法論
- 意味論・語用論
- 形態論・統語論
- 英語語法文法研究

コース共通科目

- 英語アカデミックライティング
- 英語アカデミックプレゼンテーション
- 日本語アカデミックライティング

英語語法文法分析演習

- コーパスによる言語分析演習(日・英)
- Perlプログラミング
- 社会言語学

多言語社会論

- コミュニケーション論
- 言語コミュニケーション学の諸問題
- 言語調査法演習



人類の課題に新たな「知」をもって挑む、知の探究者へ。

研究科・領域概要と教員研究テーマ

先端的なテーマを総合的に研究し、研究者を養成するために、2003年4月に開設された一貫制博士課程の独立研究科。「核心としての倫理」を軸として、「公共」「生命」「共生」「表象」という4つのテーマ領域のもとで、本学の研究所・センターと連携し、学内外の研究者とネットワークを構築して、ディシプリンを横断するプロジェクト研究を行い、大学院院生を共同研究者として参画させることによって、研究者養成を進めています。

《生命》争点としての生命

生命科学・医療・福祉をめぐる科学的知識、技術の歴史的検討、倫理的諸問題の整理を通じて、生命・生殖・病・死を総合的に探究し、新しい生命の理解と倫理の構築可能性を開く。

- 生命論の理論的争点 小泉 義之(哲学・倫理学)
- 生命と技術の倫理 松原 洋子(科学史・科学技術論)
- 医療・身体性・グローバル化・思想 美馬 達哉(医療社会学)

《表象》文化と芸術の表象論的分析

文化と芸術の諸事象を表象論的観点から読解・分析します。技術、歴史、思想、実践への理解を主軸とし、創造と受容の場、諸々の文脈、メディアといった問題系へとアプローチ。

- 社会におけるアートの作用機序 竹中 悠美(芸術学)
- 現代哲学と批評のあいだで思考する 千葉 雅也(哲学・表象文化論)
- ゲーム・デジタルメディア表現論 M・ロート(メディア・日本地域研究)

《共生》共生の可能性と限界

多大な犠牲をとまなう不完全な共生実験であった人間の歴史を批判的に遡りつつ、未来に向けて、そうした犠牲を伴わない生命と生活の可能性を構築する方途を探る。

- 狭知と生き方・働き方の人類学的研究 小川 さやか(文化人類学・アフリカ地域研究)
- 市民社会は共生のモデルとなりうるか? P・デュムシエル(政治哲学)
- カタストロフィと文学 西 成彦(比較文学)
- 技術と人間のエコロジー 山本 貴光(学術史)

《公共》21世紀における公共性

身体をめぐる言説・運動・政策の変容過程を検討しつつ、断片的な生のあり方を拾いあげながら、デモクラシーと生存のための社会システムの公共性を探る。

- 生活史 岸 政彦(社会学・生活史)
- 身体の現代・他 立岩 真也(社会学・障害学)
- 精神医療史・医療社会学 後藤 基行(歴史社会学・医療社会学)

Core Ethics
核心としての倫理

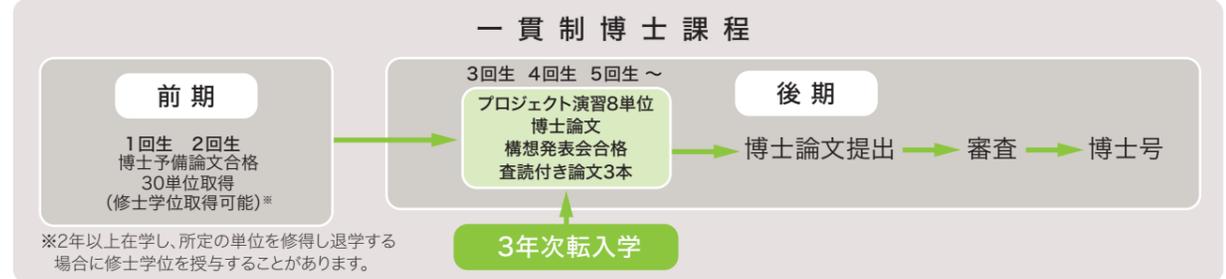
カリキュラム表

分野	科目名	
基礎共通科目	基礎講読演習	基礎講読演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
	応用講読演習	応用講読演習Ⅰ～Ⅷ
基礎専門科目	主題別講義	公共論史、公共論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
		生命論史、生命論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
		共生論史、共生論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
	表象論史、表象論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	
特殊講義	特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
サポート科目	デジタルデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ	
	アカデミックライティングⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
	リサーチマネジメントⅠ・Ⅱ・Ⅲ	
プロジェクト予備演習	プロジェクト予備演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	
プロジェクト演習	プロジェクト演習A	



★学位授与数【博士(学術)】
2003年4月の研究科設置以来、129名の博士学位取得者を輩出。(2020年3月31日現在)

←★刊行物
●先端総合学術研究科紀要「コアエシックス」(外部査読員による査読付き雑誌)
●修士生、教員多数の著作物あり。くわしくは先端研ウェブサイトをご覧ください。



最近の博士論文テーマ

- 日本における新生児マス・スクリーニングの歴史的検討ー「遺伝」をめぐる問題に着目して
- 恵那地方の障害児者地域生活運動ー生活綴方と人々が織り成す現代史ー
- 障害基礎年金制度の成立プロセスを探るー当事者運動と年金改革の接点ー
- 精神分析草創期における共感に関する心理歴史学的研究ーフロイト、アブラハム、フェレンツイの人生とプラクティスー
- 日本の代理懐胎是非論的分析ー出産の倫理ー
- 「発話困難な重度身体障がい者」が「生産する主体」になるためにはー天畠大輔のコミュニケーションの拡張とジレンマを通してー
- 野球視覚文化論
- 狂言師善竹彌五郎の芸と生ー近代狂言のアドの太夫としてー
- 病者に「なること」と「やめること」のはざまー米軍統治下(1945～72年)の沖縄愛楽園入所者の戸籍再製ー
- 刑事手続に関する法教育基礎理論序説

経済学をベースとした「知のプロフェッショナル」を養成。

博士課程前期課程

前期課程では、「経済理論・政策コース」「地域経済・地域マネジメントコース」「税理・財務コース」「Master's Program in Economic Development(MPED)」の4コース制とし、それぞれの人材育成目的の下、少人数による研究指導やカリキュラムの充実を図っています。外国人留学生を積極的に受け入れ、特にMPEDは留学生を中心としてすべて英語による授業を行っています。世界的に高まっている高度なスキルを持つ人材へのニーズにこたえるため、国際通用力の高い論理的思考力と構想力および創造性を持った人材を養成しています。

経済理論・政策コース

さまざまな経済問題を深く研究し、高度な論理的思考力、調査分析能力、問題解決能力、政策提言能力を育成します。経済学のスペシャリストとして、民間企業や官庁で中心となって活躍できる人材を養成します。

地域経済・地域マネジメントコース

経済理論を基礎に、地域経済の分析と政策立案、そして地域をマネジメントできる能力を涵養する教育を行います。困難に直面する地域経済の持続可能な発展のための政策提案ができる、現場に通じた官民の高度専門職業人を養成します。 ※2019年4月新設

知のプロフェッショナルになる

税理・財務コース

経済学を基礎としながら、法学や経営学との境界領域を含む教育を行い、公認会計士、税理士、企業における税務・企業財務・会計のスペシャリストを養成します。税理士の資格取得を支援し、時代のニーズに合った高度専門職業人を育成します。

Master's Program in Economic Development (MPED)

すべて英語による国際標準の経済学教育を行い、経済学を基礎とする問題解決能力、政策提言能力を身につけ、世界を舞台に活躍する国際的・高度専門職業人を養成します。途上国を中心に多くの国から多数の留学生を受け入れ、国際色豊かな教育を行っています。

博士課程後期課程

後期課程では、広い視野と深い専門性および優れた独創性を持ち、新たな領域の研究分野を自ら切り開いてゆくことができる高い研究力量を備えた研究者を養成しています。この結果さまざまな大学や研究機関に多くの人材を輩出しています。

コース・カリキュラム紹介

	経済理論・政策コース	地域経済・地域マネジメントコース	税理・財務コース	MPED
1. 博士課程前期課程 (主な科目)	社会科学概論 ミクロ経済理論 マクロ経済理論 計量経済学 経済史 経済政策 経済理論 社会政策論	地域政策 地域マネジメント論 経済統計 社会科学概論 ミクロ経済理論 マクロ経済理論 地域ブランド論 観光経済論 アグリビジネス論	税法 租税制度論 国際課税 租税各論 商法・会社法 税務会計 インターンシップ	Microeconomics Macroeconomics Econometrics Japanese Economy Frontiers of International Project Development Infrastructure Development Policy Development Economics International Economics Financial Economics Applied Economics Elementary Seminar Research Seminar Special Seminar
	財政学 国際金融 経済発展論 経済学特別演習		金融論 国際経済論 応用経済研究 経済学研究演習	
2. 博士課程後期課程 (主な科目)	研究演習			特別講義

過去の修士論文タイトル一例

- 日本のETFのパフォーマンスーETFのトラッキングエラーの実証分析ー
- 移転価格税制における費用分担契約の研究
- Monetary Policy Effectiveness and Financial Development : An Empirical Examination.
- When is a Country Ready to Export Manufactured Goods?
- いじめ問題への経済学への応用
- 消費税法における課税仕入れの制限に関する一考察



スポーツ健康科学分野のプロフェッショナルを養成。

「ヒト・ひと・人を科学する」ための学び



文理融合を奏でるカリキュラム

基礎科目	共通基礎科目	科学研究特論	研究調査特論	リーダーシップ特論
	専門基礎科目	身体運動科学特論	スポーツ人文社会科学特論	
展開科目	身体運動科学領域	スポーツトレーニング特論 バイオメカニクス特論	運動生理・生化学特論 スポーツ工学特論	健康増進科学特論 運動処方特論
	スポーツ人文社会科学領域	スポーツ教育学特論 スポーツマーケティング特論	スポーツ栄養教育学特論 スポーツマネジメント特論	コーチング行動学特論 スポーツビジネス特論
	特殊講義	スポーツ健康科学特論		
	キャリア形成科目	スポーツ健康科学キャリアプロジェクト	インターンシップ	外国留学科目
演習科目	演習	身体運動科学演習Ⅲ	スポーツ人文社会科学演習Ⅲ	
	研究指導	研究指導Ⅰ	研究指導Ⅱ	
自由科目	単位互換履修科目	大学院コーオプ演習		
後期課程	講義科目	先端スポーツ健康科学特論Ⅱ		
	実習科目	学外実習1・2		
	演習科目	先端スポーツ健康科学特別研究Ⅰ～Ⅵ		

●：必修 ●：身体運動科学領域は必修 ●：スポーツ人文社会科学領域は必修

本研究科修了生 修士論文・博士論文テーマ(一部)

- レジスタンス運動による筋内の性ステロイドホルモン分泌が2型糖尿病の筋量低下・高血糖改善効果に関連する機序の解明
- 高校生女子陸上競技選手への栄養支援による疲労骨折のリスク低下および予防に関する検討
- Motion analysis considering the deformation of the trunk (体幹部の変形を考慮した動作解析)
- 心電図計測可能なスマートウェアの開発
- 大学アスリートの自己調整学習を促すリーダーシップ行動と目標志向性に関する研究
- スポーツNPOにおけるタスク・コンフリクトが組織市民行動に与える影響－目標の受容に着目して－
- 低酸素環境下におけるスプリントトレーニングの効果
- 体育における社会的スキルの指導モデルに関する研究：転移に着目して
- 腸腰筋を含めた股関節屈曲筋群の機能的役割の再考－歩行速度、ステップ長を変化させた歩行中の腸腰筋を含めた股関節屈曲筋群の活動－
- 運動・栄養処方による認知機能への効用とその作用機序解明に向けたアプローチ

本研究科修了生 就職先一覧(一部)

- **トップアスリートを支える**
国立スポーツ科学センター (JISS)
- **医薬品で人々の健康を守る**
大塚製薬(株) クラシエ製薬(株) ミナト医科学(株)
- **健康的なライフスタイルをプロデュースする**
(株)東急スポーツオアシス (株)ルネサンス
- **人々の暮らしに役立つ製品を生み出す**
オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)
(株)パナソニック (株)ニューバランスジャパン
- **人々の質の高い生活をサポートする**
アサヒビール(株) キューピー(株)
KDDI(株) ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
(株)ソフトウェア・サービス
- **ビジネス・パフォーマンスの向上を提案する**
アクセンチュア(株)
- **企業と人々を結びつける**
(株)リクルートホールディングス
(株)インテリジェンス (株)ウィルグループ
- **地元経済の発展に寄与する**
(株)西日本シティ銀行
- **人々の暮らしの仕組みと豊かなまちを創る**
地方公務員(上級職)
- **未来を生み出す人を育てる**
教員(学)立命館
- **世の中起こる様々な事象を伝える**
関西テレビ放送(株)

日本学術振興会特別研究員採用率

「日本学術振興会特別研究員」とは、国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度。本研究科院生は【2016年度～2018年度の平均採用率：46.0%】と、他大学大学院同分野と比較しても極めて高い採用率を堅持しています！

創造的でグローバルな研究者・高度専門技術者の育成を目指す。

研究科の特徴

今、めまぐるしいスピードで科学技術が変化・進展し、社会や産業も変わり続けています。理工学研究科は、理学と工学の伝統的な高度な理論・技術だけでなく、IoTやAIまで、あるいはハードウェアからソフトウェア、高齢化社会対応問題、地球規模の環境問題などまで、幅広く取り組みます。そして、新しい価値を創造できる研究者や高度専門技術者の育成を目指します。海外科学技術実習を支援するプログラムによってグローバルに活躍できる研究者や高度専門技術者の育成も目指しています。

4つの専攻

- 基礎理工学専攻**
 - 【数理科学コース】
 - 【物理科学コース】

ファイナンスや情報セキュリティ分野における数理科学、エネルギー問題やナノテクノロジーにおける物理学と工学の融合など、多分野とも関連を持って発展する学問分野を研究します。
- 電子システム専攻**
 - 【電子システムコース】

毎日の生活を支えるエレクトロニクスや光工学、高性能かつ大規模な電子・情報システムなど、多岐にわたる電気電子工学領域を研究します。
- 機械システム専攻**
 - 【機械工学コース】
 - 【ロボティクスコース】
 - 【マイクロ機械コース】

機械工学・ロボティクス・マイクロ機械工学に基礎を置き、これらの融合分野をも包括した教育・研究を行います。
- 環境都市専攻**
 - 【歴史都市防災コース】
 - 【環境社会工学コース】
 - 【建築都市デザインコース】

都市の社会基盤の整備、地球環境問題やバリアフリーへの配慮など、安全な社会生活を送るために解決すべき課題について教育・研究を行います。

博士課程前期課程 → 博士課程後期課程



教育・研究の世界展開

実践的英語力を身につけ、海外での武者修行に挑む

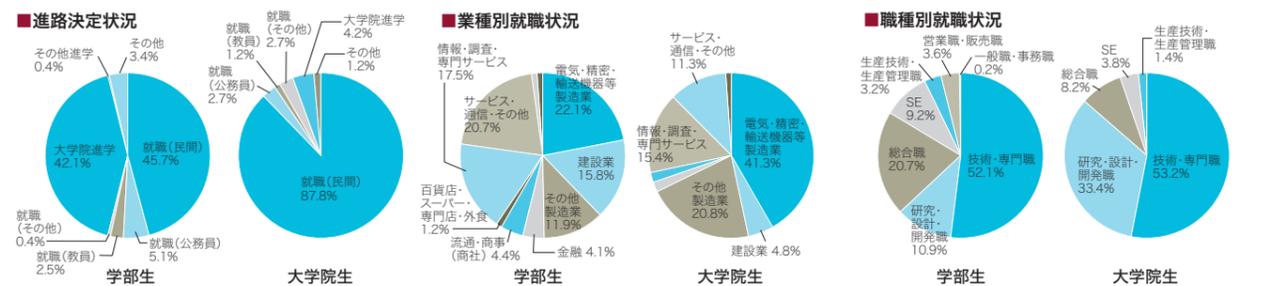
理工学研究科では、世界各国から留学生を受入れるとともに、多くの日本人学生を海外に派遣しています。「国際的なフィールドで活躍するための意欲や素養・経験を身につけたリーダーとなり得る理工系技術者・研究者の養成」を目標に、Global-ready Graduate Program (GRGP)はその前身となるプログラムを2007年度にスタートさせました。正課で理工系学生の研究推進に必要な実践的英語コミュニケーション能力を集中的に身につけさせるとともに、学生を世界各国の大学・研究機関・企業での留学に送り出しています。

インドのトップクラス理工系大学との教育・研究交流

立命館大学理工系3学部・3研究科は、以前からインド工科大学ハイデラバード校(以下、IITH)やニッテ大学NMAMIT、シンピオス国際大学など、インドの理工系大学と様々な学生・研究交流等を進めています。「インド工科大学ハイデラバード校PBLプログラム」では、インドが直面している様々な課題について、事前講義で調査・解決方法を提案し、IITHでの現地研修(7日間程度)において、企業訪問や施設見学、IITH学生とのPBL(Problem/Project Based Learning)を行います。PBLを進める中で課題を発見し、その解決策を見つけ出すプロセスの重要性を学び、思考力・推進力・チームワーク・英語でのコミュニケーション力等を身につけます。

大学院修了者の就職実績(2019年3月卒)

理工学の専門性を活かすためには、大学院修了が大変優位です。特に製造業ではその差は顕著です。また、「研究・設計・開発職」へ従事する割合についても、学部卒を大きく上回っています。



12年間で
363名の
大学院生を
海外に派遣





ITの最先端領域における教育と研究を展開。

課程とコース

MASTER 博士課程前期課程

情報理工学専攻

計算機科学コース

計算機科学コースでは、計算機アーキテクチャやソフトウェア技術、情報ネットワーク技術を中心にヒューマンインタフェースや認知工学といった分野の教育研究を行います。

人間情報科学コース

人間情報科学コースでは、言語・音声・画像などのメディア処理技術やバーチャルリアリティ、知能システムや人間工学、知能ロボティクスといった分野の教育研究を行います。

博士課程前期課程
情報理工学専攻
計算機科学コース
人間情報科学コース

博士課程後期課程
情報理工学専攻

DOCTOR 博士課程後期課程

情報理工学専攻

情報理工学専攻では、研究科に相応しい高度な専門的実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携や国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。



修了要件とカリキュラム

前期課程

科目分野	必要単位数
共通科目	4単位以上
固有専門科目	10単位以上
特殊研究科目	16単位
自由科目	—
合計	30単位以上

「グローバル科目」を2単位以上修得すること

後期課程

科目分野	必要単位数
特別研究科目	8単位以上
実習・演習科目	—
自由科目	—
合計	8単位以上

固有専門科目・特殊研究科目(前期課程)

科目区分	計算機科学コース	人間情報科学コース
固有専門科目	Webインテリジェンス特論 言語メディア特論 システムプログラム特論 情報セキュリティ特論 ソフトウェア工学特論 知能機械特論 分散システム特論 マルチエージェントシステム特論 ワイヤレスネットワーク特論 組込みシステム特論 Advanced Topics in Communication Science ★ Advanced Topics in Global Software Engineering ★ Advanced Topics in Computer Science ★ Advanced Topics in Human Factors for System Engineering ★ Special Topics ★ 特殊講義 データサイエンス特論 データサイエンス特論演習 ヘルスケアシステム開発 ヘルスケアシステム開発演習 機械学習特論 機械学習特論演習	Webインテリジェンス特論 音声音響メディア特論 言語メディア特論 システム制御特論 生体情報処理特論 知能機械特論 脳機能情報処理特論 ビジュアルコンピューティング特論 ヒューマンインタフェース特論 Advanced Topics in Computational Intelligence in Games ★ Advanced Topics in Image Processing ★ Advanced Topics in Knowledge-based Systems ★ Advanced Topics in Human Factors for System Engineering ★ Special Topics ★ 特殊講義 データサイエンス特論 データサイエンス特論演習 ヘルスケアシステム開発 ヘルスケアシステム開発演習 機械学習特論 機械学習特論演習
特殊研究科目	情報理工学特殊研究1~4	情報理工学特殊研究1~4
自由科目	技術者実践英語特論	技術者実践英語特論

特別研究科目(後期課程)

情報理工学特別研究1~6

★印は英語で開講する科目です。



2019年4月開設 超創人財育成プログラム

2019年4月より、博士課程前期課程・後期課程の5年に対応した一貫制プログラム「超創人財育成プログラム」を新設しました。このプログラムでは、国内外の企業や機関と連携し、社会で専門性を活かしてイノベーションを起こす人材の育成を目指します。情報理工学研究科における研究分野を軸に、持続社会の課題の一つであるアクティブライフ分野の視点も身につけ、産業界・異分野等と連携した授業を展開する中で、多様性と柔軟性をもった思考力、新たな価値を生み出すことのできる実行力を養います。将来的には、企業・行政・医療機関・研究機関産官地の様々な機関の中核を担うイノベーター人材として活躍することを期待しています。

情報理工学研究科での研究活動



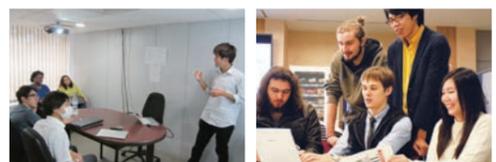
グローバル人材の育成

海外IT研修プログラム

国際社会を舞台に活躍できる人材育成を目標に掲げている当研究科では、一定の英語運用能力を有する学生を対象に、長期休暇期間を利用した海外IT研修プログラム(インド)を展開。日常生活から学びに至るまですべてを英語で行うトータル・イマージョン・スタイルを採用し、より高いレベルの英語運用能力・異文化適応能力を養います。

海外インターンシップ・プログラム

海外でのインターンシップ(ベトナム・インド・中国・アメリカ)を通じて自らの専門分野を深め、実践的な能力を修得するとともに、自己理解を深め、職業の実像をつかみながら、将来の進路選択として確かな職業観を身につけることを目的としています。日系IT企業や現地IT企業でIT知識を活用することによって専門性を深めることができます。



融合・連携型ライフサイエンス教育による人材育成。

課程とコース

MASTER 博士課程前期課程

生命科学専攻

応用化学コース

応用化学コースでは、物理化学・無機化学・分析化学・有機化学・生化学などを基盤として、物質の機能を解明するための、また、新物質の創製を実践するための化学的理論と技術を幅広く学びます。材料化学からエネルギー、生体関連物質まで、幅広い分野で研究を展開します。

[キーワード]

- 新物質 ●ナノテクノロジー ●環境分析 ●エネルギー変換 ●機能材料

生物工学コース

生物工学コースでは、生化学、分子生物学、微生物学などを基盤とし、環境、食料、資源、エネルギーに関連する生物工学理論や技術を幅広く学びます。また、生物機能、生態系の構造・機能の解析や生物由来生理活性物質の解明などの基礎研究や、これらを基盤とした環境、食料、資源、エネルギーに関する応用研究を展開します。

[キーワード]

- 微生物 ●バイオエネルギー ●分子生物学 ●環境浄化 ●生物資源 ●植物

生命情報学コース

生命情報学コースでは、コンピューター(情報科学)を利用して、生命活動の仕組みを解明するため、その基礎となる生命科学、情報科学、生物機能の解析技術に関する専門知識を幅広く学びます。その上で、遺伝情報、タンパク分子構造—機能相関、生体機能などの数理解析に関する研究を行い、生命科学、医学薬学、食品、情報技術に関連した研究を展開します。

[キーワード]

- システムバイオロジー ●ゲノム解析 ●情報科学 ●バイオインフォマティクス

生命医科学コース

生命医科学コースでは、多岐にわたる基礎医学の先端領域とその融合領域を学び、未知の生命現象や様々な疾病の発症機構を解明します。更に、先端技術で開発された医薬品などの新規医療技術の適切な評価と社会への応用方法も学び、広く生命医科学研究を展開します。

[キーワード]

- 再生医学 ●癌 ●脳科学 ●生活習慣病 ●生薬 ●稀少疾患 ●医用材料 ●医療政策

博士課程後期課程

DOCTOR 博士課程後期課程

生命科学専攻

生命科学専攻では、博士課程後期課程に相応しい高度な専門的実験・実習設備、および機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携、国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。

教員の研究内容については、生命科学研究科ウェブサイトでご確認ください。

修了要件とカリキュラム

前期課程

科目区分	必要単位数	合計
共通科目	4単位以上	30単位以上
コア科目	10単位以上*	
選択科目		
研究科目	16単位	

*コア科目は3科目6単位以上修得する必要があります。

後期課程

科目区分	必要単位数	合計
専門科目	—	8単位以上
研究科目	8単位以上	

専門科目(コア科目)(前期課程)

【応用化学コース】

構造物理化学特論
反応物理化学特論
物性・反応化学特論
無機構造物性化学特論
無機機能材料化学特論
X線分析化学特論
有機分子化学特論
有機機能材料化学特論
有機反応・構造化学特論
応用生物化学特論

【生物工学コース】

環境バイオテクノロジー特論
エネルギー・資源バイオテクノロジー特論
食料バイオテクノロジー特論
生物工学研究特論

研究科目(前期課程)

【生命情報学コース】

ゲノム情報学特論
分子構造・機能学特論
数理生体機能学特論
分子設計学特論
生体分子ネットワーク特論
植物生理学特論

【生命医科学コース】

基礎生命医科学特論
応用生命医科学特論
先端生命医科学特論
生命医科学研究法概論

研究科目(後期課程)

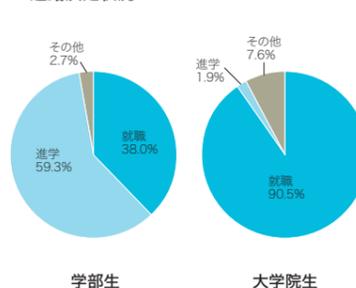
生命科学特殊研究1~4

研究科目(後期課程)

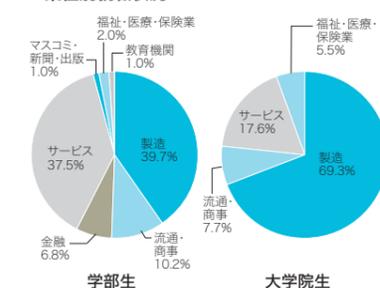
生命科学特別研究1~6

就職実績(2019年3月卒)

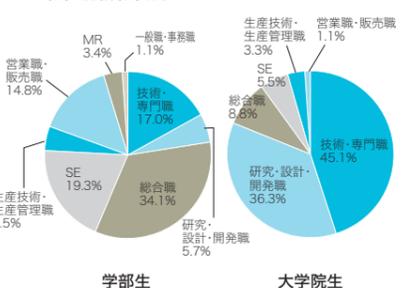
■進路決定状況



■業種別就職状況



■職種別就職状況





薬学に関する高度な専門知識と研究力を持ち、地域や社会に貢献できる有為な人材を育成。

専攻と課程

薬学専攻博士課程

医療薬学分野と病態生理解析分野の2つの分野を設けて教育・研究を行います。それぞれの専門分野にとどまらず、基礎薬学から臨床薬学に至る幅広い領域の最先端の知識取得が可能となるような、科目配置と研究体制を整備しています。

薬学専攻博士課程の人材育成目的

薬学の専門知識と研究力を備え、使命感、倫理観を有する高度な薬剤師、医療人、研究者として、地域や社会に貢献できる有為な人材を養成することを目的とします。



薬科学専攻修士課程

多岐にわたる医薬品創製のプロセスを5つの分野(薬品分子創製化学、生体分子解析学、薬物動態解析学、生体機能薬学、薬物作用解析学)に分類し、専門分野に応じた基盤的な知識および先端的な研究技術が取得できる教育・研究体制を整備しています。

薬科学専攻修士課程の人材育成目的

薬科学の専門知識および研究力を備え、研究機関、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を育成します。

薬科学専攻博士課程※

高度な専門知識と研究に必要な一連の能力を取得できる教育・研究体制を整備するべく、検討を進めております。

※設置構想中。設置計画は予定であり、内容は変更される場合があります。



カリキュラム

薬学専攻博士課程

薬学専攻博士課程を修了するためには、4年間(標準修了年限)以上在籍するとともに、専門科目で14単位以上(医療薬学分野と病態生理解析分野の2つの分野のうち、選択した分野科目から10単位以上、選択しなかった分野科目から4単位以上)、特別研究科目から16単位修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

薬科学専攻修士課程

薬学研究科薬科学専攻修士課程を修了するためには、2年間(標準修業年限)以上在籍するとともに、専門科目(コア)より、8単位以上(うち、履修する専門分野の特論2単位および履修する分野以外の特論2単位以上)、専門科目(コア)および専門科目(選択)からあわせて14単位以上、「演習(8単位)」および「特別実験(8単位)」を必ず履修する必要があります。

過去の博士論文

「立命館学術成果リポジトリ」で閲覧できます。



実践的な企業経営教育で、新時代のビジネスリーダーを養成。

経営学研究科の力

立命館大学大学院 経営学研究科では、これまでの経営学の体系的な学びを深めることに加え、「これからの経営学の可能性」を追究しています。そのために、世界・日本の学術・研究をリードする教授陣と実践的なプログラムを用意しています。あなたの将来の可能性をさらにここで伸ばしてみませんか?



博士課程前期課程

前期課程では、「技術経営・戦略」「組織・人事」「マーケティング」「国際ビジネス」「会計学」「ファイナンス」「デザイン・マネジメント」などの分野で、これからの企業経営の展開を視野に先進的で多面的な教育を行っています。経営学に関する高度な専門知識および、会計や統計的処理、語学などに関する高度な技能をもち、組織の中で適切に知識と技能を活用できる人材を育成します。併せて、社会の要請に応え、正義と倫理をもち、グローバル化する社会の中で組織のリーダーシップを発揮しうる人間を育成します。

時代は未来の「あるべき社会」を創造し、それらを実現する力を持ったマネジメント人材を求めています。経営学研究科は、経営学の専門知識修得を中心にしつつ、幅広い学際的素養を身につける多様な学びと能動的な研究姿勢を支援する大学院教学を展開しています。



前期課程での学修の進め方

前期課程での学修は修士論文の作成が集大成となりますが、経営学研究科では2回生から修士論文指導が始まるカリキュラムとなっています。1回生時は「基幹科目」「展開科目」の履修により経営学に関する理論の修得や、「研究方法科目」の履修による情報収集・分析手法の獲得など総合的な学力を身につけることが重要です。併せて、外国文献研究または英語開講科目を受講することにより、英語文献レビューと英語での学修を進めます。研究指導教員は各自の研究テーマにもとづく調整によって、1回生春学期中に決定します。「研究展開科目」を研究指導教員の指導のもと各自の研究テーマに沿って、1回生秋学期に履修します。2回生では、1回生時に修得した専門知識をもとに、修士論文の執筆が本格化します。春学期には中間報告会にて研究経過を報告し、2回生秋学期に研究成果を修士論文として仕上げます。

博士課程後期課程

後期課程では、指導教員のもと、前期課程における研究を継続して研究論文を執筆し、学会誌への掲載や、学会での報告などによって深化させ、高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を継続できる自立した研究者を育成します。

主な開講科目一覧 前期課程

科目群	科目名	単位数	科目群	科目名	単位数
基幹科目	経営史I(アジア・日本)	2	研究方法科目	統計学1	2
	競争戦略	2		統計学2	2
	マーケティング	2		研究方法論	2
	生産マネジメント	2		外国文献研究I~IV	各1
	組織科学	2	アカデミックライティング	2	
	経営財務	2	英語開講科目	International Business I	2
	会計学	2		International Business II	2
	ビジネス・エコノミクス	2		Finance	2
展開科目	アントレプレナーシップ	2		Marketing	2
	金融・証券	2		International HRM	2
	経営史II(欧米)	2	Environmental Management	2	
	ビジネス倫理	2	Business Economics	2	
	人的資源管理	2	Special Lecture *1	2	
	財務会計	2	キャリア開発科目	大学院コーポ演習	2
企業会計	2	インターンシップ演習		2	
		海外インターンシップ		2	
研究展開科目	技術経営・戦略研究	2	特殊講義	特殊講義I~X *2	各2
	マーケティング研究	2		研究指導科目	特別演習1
	組織・人事研究	2	特別演習2		2
	国際ビジネス研究	2			
	会計学研究	2			
ファイナンス研究	2				
デザイン・マネジメント研究	2				

*1「Introduction to International Management」、「Merger and Acquisitions in the frame of International Business」など種々な内容で開講

*2「計量経済学入門」、「質的調査法」、「量的調査法」など種々な内容で開講

過去の論文タイトル一例

- 博士課程前期課程 「集約会計情報を用いた実質GDP成長率における予測可能性の検討」
- 「ダイナミック・ケイパビリティからみる中小企業の経営者のデザインマネジメント能力」
- 「マーケティングコミュニケーションにおけるSNSの活用一価値共創とファンベースビジネスを中心に」
- 博士課程後期課程 「デスティネーション・マネジメントの理論的再検討ー地域再生の核となるツーリズムの展開を巡ってー」
- 「プロフェッショナルとしてのデザイナーの持つデザイン態度(Design Attitude)の探索的研究」



政策の実践力を鍛え上げる。

政策科学研究科目

公共政策関連科目

政策形成過程への視野を修得する科目が配置されています。政策過程は合意の形成過程であり、政策・施策の「社会的合理性」がこの科目群の主題となります。政治過程論、行政学、公共哲学、法政学を中心とする科目が配置されています。

環境開発関連科目

政策・施策の「科学的合理性」がとりわけ重要な意味をもつのは、環境・開発・都市の領域です。この科目群には、環境科学・都市工学・計画理論を中心とする科目が配置されています。

社会マネジメント関連科目

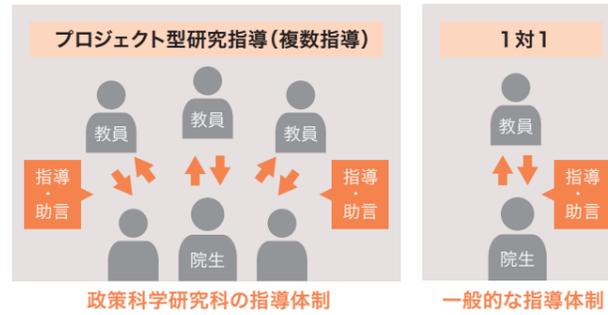
「市場的合理性」(効率性と組織マネジメント)は、営利企業はもちろんのこと、公共機関・非営利組織の課題を解決するための重要な視点です。この科目群には、経済学・経営学・社会学の知見を広く社会の諸部門の問題解決に連接させるための科目が配置されています。

共通科目

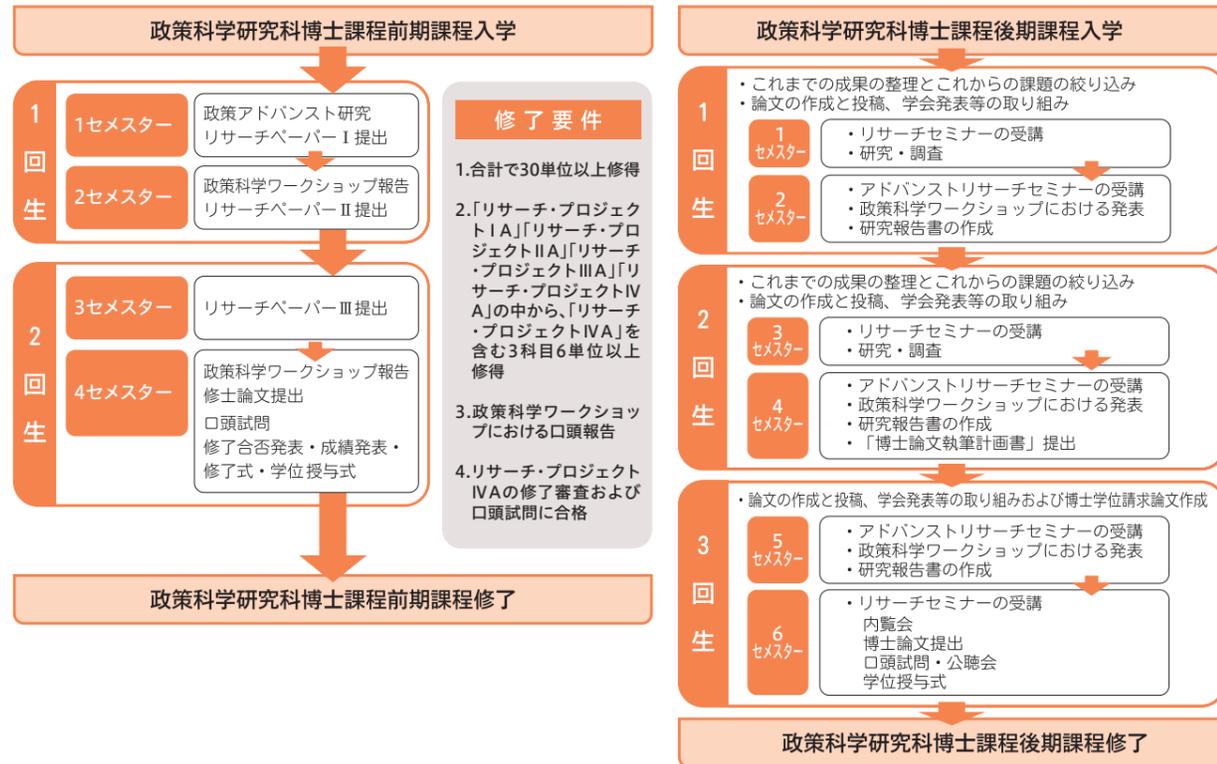
学知の総合としての政策科学の基礎を修得する科目、研究領域や研究課題を問わず必要とされるスキルを修得するための科目が配置されています。新しい学問分野である政策科学の基礎理論、基本的な分析手法を修得することができます。

政策課題に応じたプロジェクト型の研究指導体制

政策科学研究科は、領域横断的な教員の共同研究チームを組織し、それぞれのチームによる共同研究プロセスに院生が参加するプロジェクト型研究指導(PBL)の方法を採用しています。リサーチ・プロジェクトでは、一人の指導教員が一つの専門領域に特化した研究指導を行うのではなく、領域・テーマに共通の関心を持ちながらも、それぞれ異なる学問的背景を持つ複数の教員が院生の研究指導を行う集団的指導の方法を取り入れています。



研究指導フローチャート



過去の修士論文タイトル一例

◁博士課程前期課程▷
◊Silver democracy in Osaka Metropolis Plan Referendum - An Examination of the Theory ◊冷戦後のトランスナショナル・ネットワークと民族紛争 - コソボ紛争を事例として - ◊公的資金の地域経済への影響に関する研究 - 長野県飯田下伊那地区を事例として - ◊二酸化炭素吸収促進に寄与する森林施策の評価 ◊アニメ作品の「聖地巡礼」を通じた中国人観光客の誘致策に関する研究 ◊Conflict Resolution over Coastal Resources : A Case Study of Mining, Fisheries, and Tourism in Bangka Belitung Province, Indonesia
◁博士課程後期課程▷
◊A Study on Conventional Motorcycle Taxi's Demand in the Urban Fringes of Outer Metropolitan Area: Case Study in West Java, Indonesia (大都市圏外縁部における在来型バイクタクシー需要に関する研究: インドネシア・西ジャワ州を事例として) ◊The Analysis of Government Spending on Education: Theory and Empirical Evidence from the Districts in Indonesia (政府の教育支出に関する分析: 理論とインドネシアの県レベルデータから見る実証的証拠) ◊韓国政府による在日コリアンの包摂と排除 - 李承晩政権期を中心に - ◊大震災を想定した集中型観光客への公助対応フレームワーク(PSDRフレームワーク)による避難帰宅政策に関する研究 - 世界遺産姫路城を事例として -

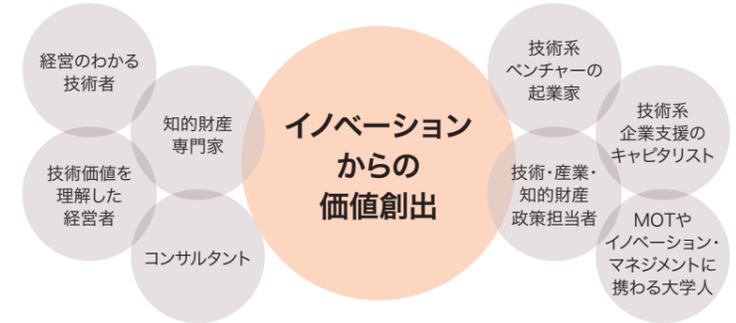
技術とビジネスを結び、イノベーションから価値を創出。

技術経営(MOT:Management of Technology)について

技術経営(MOT:Management of Technology)とは技術を基盤とするとともにこれを活用する企業の経営のことです。したがって、技術経営学の対象は自動車産業やエレクトロニクス産業などの製造業はもとより、電気通信・電力・ガス・水道事業などに及んでいます。

MOTの実践事例

- 不確実性のマネジメント ●イノベーション・マネジメント
- 技術投資に関する事業評価 ●研究開発戦略の立案
- 技術を核とした新事業の創出 ●MOT人材開発
- 技術マーケティング
- 技術戦略、事業戦略および知財戦略の総合



テクノロジー・マネジメント研究科の特長

1. 専門職大学院ではなく研究型大学院である
2. 理論と実践を修得できる
3. 多彩なバックグラウンドを持つ学生

技術基盤企業の組織やマーケティング、戦略経営、知的財産などに加えて技術戦略、製品開発戦略など技術経営にかかわる主要な分野を網羅したカリキュラム。専門職大学院ではなく一般の大学院として、研究を重視しながらも高度の専門知識を持つ人材の輩出を目指しています。さらに、グローバルな活躍を目指す専門的研究者を育成するために博士課程後期課程を設置しています。

専任教員のほとんどが博士學位取得者かつ実務経験者なので、理論と実務の両方を高いレベルで修得できます。また、多くの企業と提携し、それぞれの企業が抱える課題を学生が解決する課題解決型長期企業実習「プラクティカム」や、企業からの受託研究・共同研究などを通して、現実のビジネス現場で発生している課題を検討し、実践的に解決できる人材の育成に努めています。

学部からの進学者、留学生、現役の社会人、企業等の出身者など、学生のバックグラウンドは多様。理学や工学系の学生は科学技術の知識をさらに生かすべく、文理の枠を超えて、イノベーションからの価値創出とあわせて、技術にかかわる事業経営についての理論や手法などを学ぶことができます。多彩なバックグラウンドを持つ学生同士の交流が多くの気づきをもたらします。

カリキュラム紹介 [2019年度]

〈博士課程前期課程〉		〈博士課程後期課程〉	
基礎科目	技術経営論Ⅰ 技術経営論Ⅱ 技術経営論Ⅲ	展開科目	研究開発戦略 技術・事業評価論 技術倫理 技術経営史 サービスイノベーション 技術基盤企業の戦略経営 国際的財産 企業リスク・マネジメント 意思決定論 バリューチェーンマネジメント イノベーション戦略論 起業家戦略 ITマネジメント 管理会計概論 特殊講義(イノベーション・ダイナミクス) 先端科学技術とビジネス MOTキャリアデザイン 生産プロセスマネジメント 特殊講義(意思決定のためのデータ分析) 特殊講義(知財情報工学) 特殊講義(交渉戦略と実践) 技術系ベンチャー論 ヘルスケア・マネジメント 特殊講義
コア科目	戦略的技術開発論 技術経営組織論 技術基盤企業のマーケティング 会計・財務 ファイナンス戦略 技術基盤企業のヒューマンリソースマネジメント 技術・知財関連法 知財戦略論 価値創出マネジメント 技術基盤企業のプロジェクトマネジメント 技術経営研究方法論 新技術および新事業の提案・企画・評価演習	研究指導科目	技術経営演習Ⅰ 技術経営演習Ⅱ 技術経営研究Ⅰ 技術経営研究Ⅱ
プログラム科目	特殊講義(外書講読・英語ディスカッション) Technology ManagementⅠ Technology ManagementⅡ Technology ManagementⅢ Special Lecture プラクティカムⅠ プラクティカムⅡ	選択科目	特殊研究(統計データ解析・英文ジャーナル) 特殊研究(定性分析) 特殊研究(定量分析) 特殊研究(研究方法の実践) 特殊研究(統計特論) 特殊研究(Literature Review) 特殊研究(Research Methods) 特殊研究(Empirical Methods) 特殊研究(Independent Study) 特殊研究(Structural Analysis of Research Papers) 特殊研究
		研究指導科目	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ 特別研究Ⅴ 特別研究Ⅵ

理論と実践の橋渡し

■実務経験を持たない学生

「プラクティカム(課題解決型長期企業実習)」企業の現場の課題(事業計画、マーケティング、知的財産など)について、学生が指導教員と共に課題解決を行います。概ね3~6ヶ月間で研究成果を出し、実習先に報告と提案を行います。
<協力先>アビームコンサルティングなど約30社

■社会人学生

勤務先の業務課題を論文のテーマにできます。博士課程前期課程については、業務情報を開示することに問題がある場合は、学位論文の内容を非公表にすることも可能です。

多様な研究分野と学位論文テーマ —過去の修士論文・博士論文テーマ例—

◊技術の期待度を用いた製品普及モデルの構築—ウェアラブルデバイスの市場規模予測— ◊360度全方位動画向けバーチャルリアリティシステムのコンセプト設計と評価 ◊医療機関におけるトヨタ生産方式導入の促進・阻害要因の調査 ◊医薬品市場における付加価値と売上との相関—利便性と売上との相関 ◊宇宙技術スピノフによる製品開発の成功要因 ◊民間航空機開発プロジェクトにおける遅延メカニズムの研究 ◊サポートベクター回帰を用いた特許分析 ◊電子デバイス事業における後発優位のメカニズム—イノベーションダイナミクスの与える影響— ◊バイオ医薬の創世期における組織間連携の時系列分析—連携の目的とタイミングにおける日本と海外の違い— ◊ノウハウ保護のための特許制度と方法の発明の保護戦略—先使用権の法的解釈と方法の発明の保護戦略マトリクスの提案—



ビジネスを創造する力を身につけるためのMBA。

ビジネスを創造するリーダーを育成

Feature 01 経営を基本から学ぶ

MBAのグローバルスタンダードに準拠した基礎科目で経営について1から学び、より応用的な展開科目、そして多彩な特殊講義を受講していきます。入学後に履修アドバイザーから履修方針について個別アドバイスを受けます。初めて経営を学ぶ人も不安なく学修を進められます。

Feature 03 問題関心を掘り下げる

「課題研究」(ゼミ)では、担当教員による集団指導・個人指導の下、自らのキャリアに関わるテーマについて研究を行います。研究の課題と内容が重要であり、最終レポートは必ずしも学術的な形式に沿う必要はありません。

Feature 02 実践力を養う授業

知識を身につけるだけでなく、実践のために必要なスキルやマインドセットを修得します。多彩な実務家教員からは多くの刺激が得られます。授業ではグループワークやプレゼンテーションの機会が多く、常に真剣勝負が求められます。

Feature 04 生涯にわたるネットワーク

共に学んだ仲間との関係は一生の財産となります。修了生の交流組織によるイベントやゼミ同窓会の活動も盛んに企画されています。研修生として登録すれば、図書館、学内データベース、電子メールを修了後も使用できます。

対象者別の2つのプログラム

キャリア形成プログラム

(学部卒業生(留学生含む)対象)

大阪いばらきキャンパス/平日昼間開講

- 4年制大学卒業後、勤続2年未満の方を対象とするプログラム
- ビジネスを創造するリーダーを将来目指し、ビジネスパーソンとして活躍するための知識と能力の向上を目標とする

マネジメントプログラム

(社会人対象)

大阪梅田キャンパス/平日夜間・土日開講

※一部朱雀キャンパス/平日夜間開講

- 4年制大学卒業後、勤続2年以上の方を対象とするプログラム
- 経営者や経営幹部を志向するビジネスパーソンはもちろん、起業を検討している方、自分らしいキャリアを構築したい方にも対応
- ビジネスを創造する際に求められるリーダーシップやマネジメント力の向上を目標とする

※朱雀キャンパスにおける授業科目の開講については、2021年度をもって終了します。



カリキュラム [2020年度]

	基礎科目 (14単位以上必修)		展開科目 (特殊講義科目を除くプログラム指定の科目群から16単位以上必修)		演習科目 (4単位必修)	実習科目
	A群 (10単位以上必修)	B群	企業経営の各分野の専門的な力量を形成する科目群			
マネジメントプログラム	競争戦略	国際政治経済	【ビジネス科目群】		特殊講義科目	課題研究I 課題研究II インターンシップ フィールドワーク
			戦略ユニット			
	マーケティング	国際政治経済	経営政策	国際経営戦略	オーナーシップ	
			アントレプレナーシップ	事業創造		
	組織行動	論理的思考とプレゼンテーション	組織ユニット		戦略コンサルティング	
			人的資源管理	キャリア開発		
	ファイナンス	企業倫理	マーケティングユニット		都市と観光のマネジメント	
			マーケティングリサーチ	消費者行動		
	アカウントニング	企業倫理	商品開発	サービスマネジメント	内外金融機関のビジネス戦略	
			ファイナンスユニット			
企業分析	統計学	M&A戦略	ストラクチャードファイナンス	ICTによる未来創発		
		コーポレートファイナンス	投資戦略			
技術経営	統計学	会計ユニット		介護経営		
		財務諸表	管理会計			
		コーポレートガバナンス	租税法	医療経営		
キャリア形成プログラム	競争戦略	国際政治経済	【ビジネス科目群】		医療経営	
			産業動態分析	キャリア開発		
	マーケティング	論理的思考とプレゼンテーション	マーケティングリサーチ	商品開発	フードマーケティング	
			アントレプレナーシップ	ビジネスプラン		
	組織行動	企業倫理	異文化マネジメント		ファッションマーチャンダイジング	
			異文化マネジメント	イノベーション戦略		
	ファイナンス	企業倫理	サービスマネジメント		ほか	
			【会計ファイナンス科目群】			
	アカウントニング	統計学	財務諸表	管理会計		
			コーポレートファイナンス	M&A戦略と企業価値評価		
企業分析	経営リテラシー	投資戦略	コーポレートガバナンス			
		会計リテラシー				
技術経営	会計リテラシー					

修了に必要な修得単位：46単位以上

出身学部 (立命館大学 / 立命館アジア太平洋大学から進学した者)

立命館大学：経営学部、経済学部、産業社会学部、政策科学部、文学部、法学部、理工学部
 立命館アジア太平洋大学：国際経営学部

学びの融合は、心理学を超える。

3つの領域での多様なプログラム

博士課程前期課程

心理学領域

基礎心理学特論 認知心理学特論
 教育心理学特論 発達心理学特論
 社会心理学特論 健康心理学特論
 司法・犯罪心理学特論
 産業・組織心理学特論
 教育評価・心理査定研究
 家族心理学特論 老年心理学特論
 心理学統計法 心理学研究法
 心理学演習 I II III IV

臨床心理学領域

臨床心理学特論 I II 心理療法特論
 臨床心理査定演習 II 社会病理学特論
 臨床心理面接特論 II
 学校臨床心理学特論 臨床心理地域援助特論
 グループアプローチ 精神医学特論
 臨床心理学基礎実習 臨床心理学実習
 臨床心理学演習 I II III IV

対人援助学領域

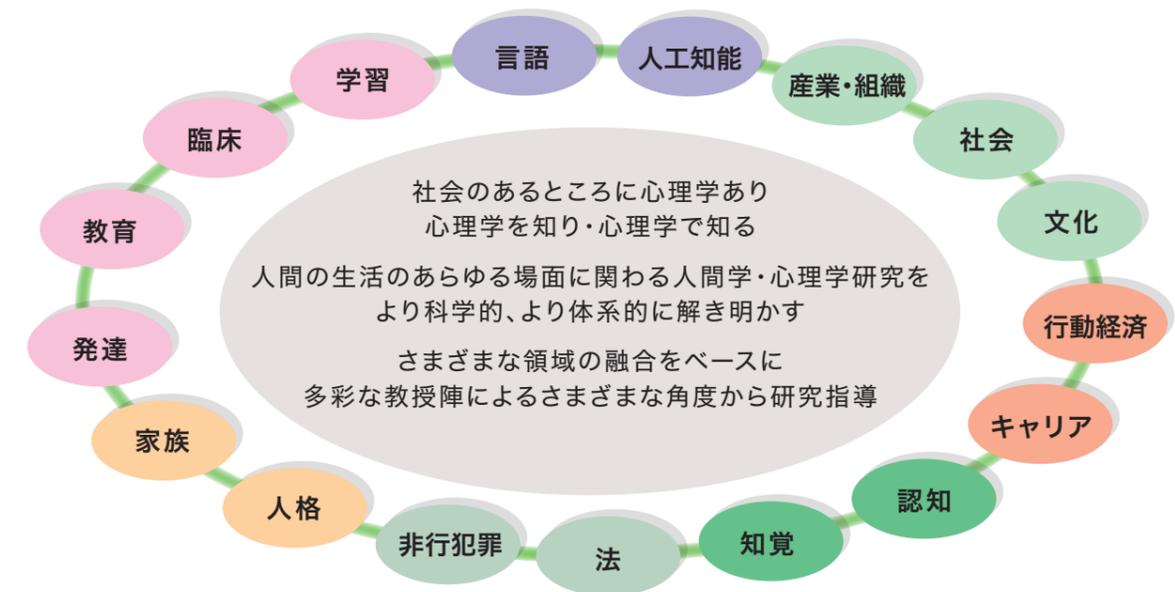
対人援助学研究法 I II 臨床心理学研究
 教授・学習学研究 学校カウンセリング研究
 対人援助学特論 ソーシャルワーク研究
 ユースワーク実践研究 司法臨床研究
 対人援助技術研究 臨床倫理研究
 生徒指導・進路指導研究 障害児教育研究
 認知行動療法特論
 対人援助学実習 インターンシップ
 心理実践実習
 対人援助学演習 I II III IV

共通科目 社会のなかの人間科学 人間科学特論

博士課程後期課程

人間科学シンポジオン I II III 人間科学プロジェクト演習 I II III IV V VI

特色ある多彩な研究領域



研究指導方法

学部からのストレート進学院生や留学生、社会人院生などの幅広い院生受け入れを行うため、研究指導の現場においても相互に係わり合いを持ちながら、研究を推進していきます。それによって、より具体的な現場の実践とアカデミックな領域での理論との融合が期待できます。社会人院生のために夜間や土曜日の開講も一部取り入れております。

施設紹介



動物行動実験室

シールドルーム

脳機能画像分析装置

プレイルーム



「21世紀地球市民法曹」を養成。

コースの紹介

法学未修者コース(3年制)

法学既修者コース(2年制)

※各コースは入学試験時の入試方式(受験科目)で判断されます。出身学部・学科とは関係ありません。

カリキュラムの特徴

基本的な力を確実に身につけ、国際舞台でも地域社会でも活躍できる法曹を育成する充実のカリキュラム。

1 司法試験突破へ専念できるカリキュラム構成

法科大学院修了直前の3年次秋学期(既修者コースは2年次秋学期)は、最後の総仕上げで一番大切な時期。必修科目は配置されていないため、「民法展開演習」「刑事法展開演習」などの選択科目を受講し、自らの学習の進み具合に応じた学習ができます。

2 密度の高いカリキュラム

法曹となるための基本的な力を身につける「法律基本科目」では、主要3科目(憲法・民法・刑法)が1年次春学期から3年次春学期まで全セメスターに配置されています(未修者コースの場合)。更に選択科目を新たに設け、民法・刑法は3年次秋学期まで継続して受講できます。本研究科のカリキュラムは、既修者コース・未修者コースとも着実に実力をつけることができる構成になっています。



3 多様なニーズに応える潤沢な選択科目

司法試験選択科目に備えるだけでなく、法曹として将来の専門性を高めるため、特に重要な8分野で各8単位分の授業を用意しています。断片的で自学自習に頼りがちなこれらの分野で、手厚いサポートを受けて学習することが可能です。

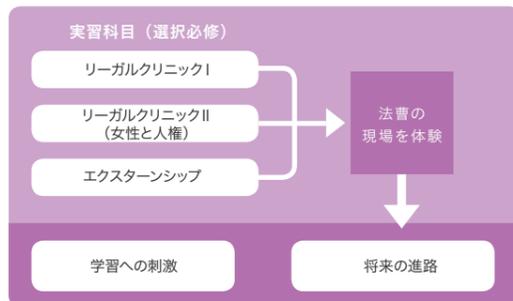


原則、講義4単位と演習4単位で構成、いずれの科目も8単位分の授業を確保

4 法実務の現場を必ず体験(実習科目)

法曹として実際に活躍する現場を早い段階で体験することは、学習を進める上で大きな刺激になるばかりか、将来の進路希望を考える際にも非常に参考になります。また、実習を通じて実務家との人脈づくりにもつながります。

教員(弁護士)と共同で実際の法律相談を受付ける「リーガルクリニックI」、女性や人権問題を専門に扱う「リーガルクリニックII(女性と人権)」、弁護士事務所・企業法務部・地方公共団体での研修「エクスターンシップ」を用意しています。このうち一つを必ず履修します。



5 苦手意識をもつ方が多い「訴訟法」分野を大幅強化

2020年4月入学者からの新カリキュラムでは、苦手な方も多い「民事訴訟法」「刑事訴訟法」の学習を一層強化します。「民事訴訟実務の基礎」「刑事訴訟実務の基礎」を新たに開設し、それぞれ裁判官教員と検察官教員・弁護士教員が担当します。現職の実務家が担当することで、リアルな実務の流れに触れながら理解を深めることができます。また、学習が進んでいる方を対象に入学前に「履修免除試験(民事訴訟法・刑事訴訟法)」を実施します。

そのほか、新カリキュラムでは、「行政法」についても、「行政法演習I」「行政法演習II」を新設し、法科大学院入学後に確実に力がつくようにします。これに併せて入学試験では「行政法」試験を廃止しています。

充実した給付奨学金

法学未修者コース合格者にもS奨学金あり!

金額	S奨学金	A奨学金	B奨学金
	年間授業料×2年連続給付* (1,307,400円)	年間授業料×1年間 (1,307,400円)	60万円×1年間
期間	未修:最長3年間 既修:最長2年間		

*原級留置(前年)等にならない限り、2年目の給付が約束されています。

S奨学金・A奨学金・B奨学金給付後は、全学生を対象に前年度の成績により毎年成績優秀者に奨学金を給付します。

2019年度入学者には全員に奨学金が給付されました

グローバルな時代に対応できる教員になる!

教職研究科とは

学校現場は、いじめや不登校などの複雑化・深刻化する教育課題への対応、「主体的、対話的で深い学び」を実現する新しい発想での授業の実施、グローバル化課題への対応など急速な変化の中にあります。このような状況で教員にはより一層の高い指導力、実践力が求められており、その力を高めていくのが今後の教員養成・現職研修の中核を担うとされている教職研究科(教職大学院)です。

教職研究科(教職大学院)は、急速に変化する社会の中で、新しく求められる高度な教育実践を行い、学校現場の課題に柔軟に対応できるよう、教員としての総合的な力を身につけるための専門職大学院です。これまでに法学部、産業社会学部、文学部、映像学部、経済学部、理工学部、情報理工学部、生命科学部、スポーツ健康科学部と様々な学部から教職研究科に進学しています。他大学出身者、公立学校や本学附属校の現職教員なども進学しており、多様なバックグラウンドをもつ院生同士の学び合いによって、教員としての力を高めていくことができます。

立命館大学大学院教職研究科の特長

教職研究科では、「理論と実践の融合・往還」をキーワードにしています。長期実習や授業内でのフィールドワークを通して、理論の実践化と実践の理論化をはかる学修が展開されます。本学教職研究科は京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市の5教育委員会と連携しており、多彩な学校での実習やフィールドワークを経験することができます。また、小学校、中学校、高等学校のどの学校種にも対応するカリキュラムを用意しています。さらに、「臨床教育」「教育方法・学習科学」「国際教育」の3コースを設定しており、入学後にいずれかのコースを選択し分野ごとの専門性を深めることができます。

立命館大学大学院教職研究科の科目例

科目区分		科目名	
共通基本科目		カリキュラムデザインの理論と方法 教育方法・学習科学の理論と実践 生徒指導・教育相談実践演習 学校マネジメントの理論と実践 現代の学校と教育実践 国際教育の理論と方法 など	
専門実習科目		教職専門研修1~4	
コース科目	コース共通科目	学校内外の連携による児童生徒支援 など	
	コース必修科目	臨床教育	学校教育相談・学校カウンセリングの理論と方法 など
		教育方法・学習科学	授業におけるICT活用 など
	国際教育	世界の子どもと教育支援 など	

教職研究科で取得可能な専修免許状

- 小学校教諭専修免許状
 - 中学校教諭専修免許状
(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語、宗教)
 - 高等学校教諭専修免許状
(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、家庭、情報、工業、商業、福祉、英語、宗教)
- *専修免許状の取得には、一種免許状を取得していることが条件となります。



大学院入試 出願の流れ

STEP 1 入学したい研究科を決める

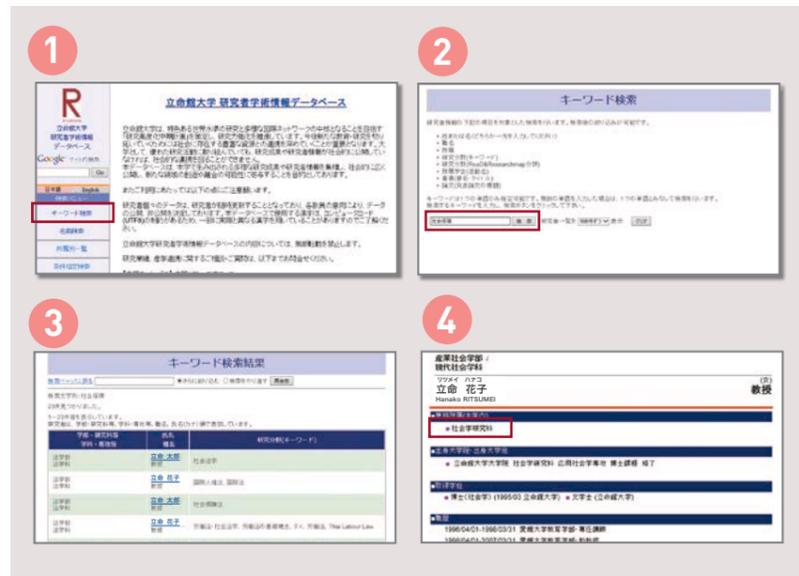
立命館大学大学院には、幅広い研究分野に対応する多数の研究科があります。あなたが希望する研究分野を扱う研究科は、一つとは限りません。まずは自身の研究分野の<キーワード>に関連する指導教員を【立命館大学研究者学術情報データベース】で検索し、教員の所属する研究科の中から検討することをお勧めします。

POINT ・立命館大学研究者学術情報データベースで検索
<http://research-db.ritsumei.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>
 出願前に希望する指導教員を決める研究科もあります。入学試験要項で、各研究科の出願方法を確認してください。



検索方法

- 1 各種検索メニューから、<キーワード検索>を選択
- 2 興味を持っている研究内容や分野について、キーワードを入力して検索
- 3 検索したキーワードに関連する研究を行っている教員の一覧が表示されます。キーワードがマッチしている教員の名前をクリックしてください。
- 4 所属している研究科など、教員情報の詳細が表示されます。各研究科のウェブサイトには、カリキュラムの特徴や教員などの情報が詳しく紹介されています。候補の研究科が決まったら、研究科ウェブサイトにもアクセスしてください。



立命館大学 ○○研究科 検索

STEP 2 入学試験要項を確認する

研究科別の「入学試験要項」と、各研究科共通の注意事項を記載した「入学試験要項(別冊)」があります。入学試験要項ダウンロードサイト <http://www.ritsumei.ac.jp/gr/exam/point.html/>

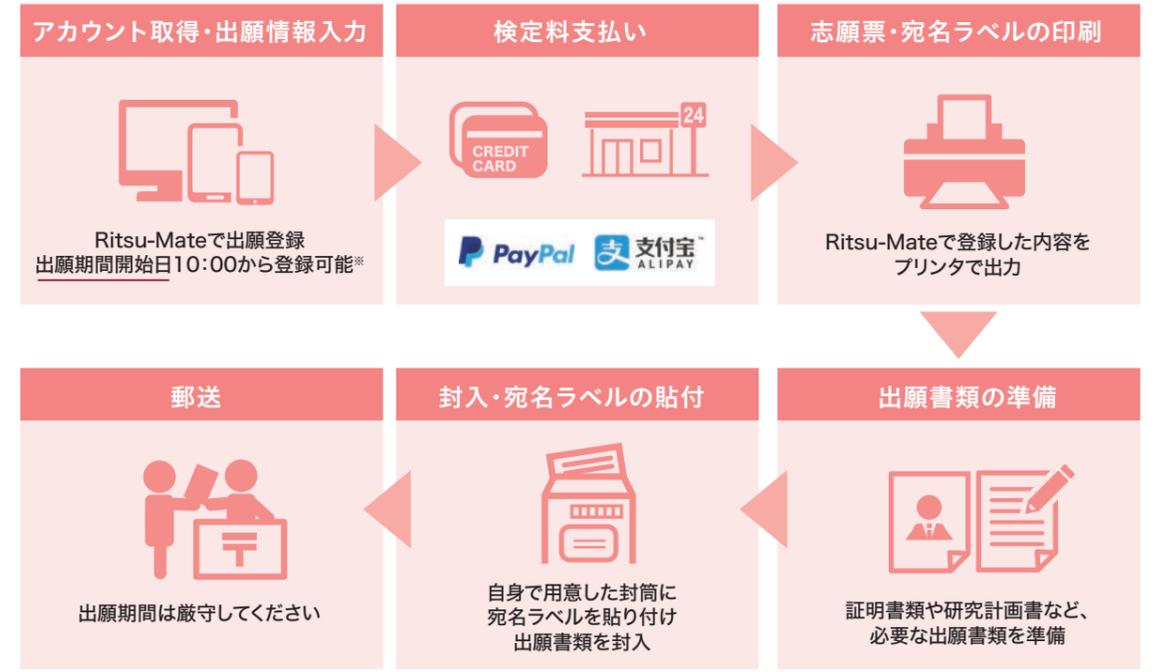
POINT ・入学時期をチェック
 「4月入学」「9月入学」があり、研究科や入試方式などによって異なります。
 ・入学試験方式を検討
 各研究科に、様々な入学試験方式があります。自身の条件にあった方式を検討してください。
 ・出願資格・出願書類の確認
 出願資格を満たさない場合、事前の個別審査によって出願を認める場合があります。出願資格をよく確認して、必要な場合は個別審査申出期限までに申出を行ってください。



よくある質問 Q. 事前に指導を希望する教員と連絡をとる必要がありますか?
 A. 研究分野のミスマッチを避けるため、教員への事前相談を求めている研究科や入試方式がありますが、事前相談を必要とする場合は入学試験要項に記載しています。希望する研究科の入学試験要項を確認してください。
 Q. 指導を希望する教員と連絡をとりたいのですが。
 A. 「立命館大学研究者学術情報データベース」や各種ウェブサイト上にメールアドレスを公開している教員については、相談事項を明確にしたうえで、連絡をとっていただくことができます。公開されていない場合は、志望している研究科の事務室にお問い合わせください。なお、個別の問い合わせに依拠していない教員や研究科もありますので、あらかじめご了承ください。

STEP 3 出願する

立命館大学大学院インターネット入学システム「Ritsu-Mate」(リツメイト)を使用します。 ※一部入試方式を除く



POINT ※アカウントは出願期間前でも取得できます。事前に取得しておくことをおすすめします。
 ・Ritsu-Mateの入力だけでは、出願手続は完了しません。

STEP 4 受験準備～受験

「Ritsu-Mate」を使用して出願した場合、受験票は「Ritsu-Mate」からダウンロードできます。書類選考など、試験日設定の無い試験の場合も、受験票をダウンロードして受験番号を確認することができます。

POINT ・「Ritsu-Mate」を通じてお知らせが送信される場合があります。
 ・災害等により、「試験予備日」に入学試験を延期することがあります。

よくある質問 Q. 入学試験の過去問題は公開していますか?
 A. 「立命館大学大学院 入試情報サイト」で、過去2年度分の入学試験問題を公開しています(一部、著作権等の理由により閲覧できない問題があります)。また、以下の窓口でも閲覧できます。
【窓口】
 大学院課(衣笠・BKC)、OIC学びステーション、立命館プラザ名古屋、東京キャンパス、大阪梅田キャンパス、各研究科事務室
 *各研究科事務室では、当該研究科の過去問題のみ閲覧できます。
 *持ち出し・複写はできません。

STEP 5 合格発表

合格発表の10:00(日本時間)に、「立命館大学大学院 入試情報サイト」に合格者受験番号一覧を掲示します。また、「Ritsu-Mate」にログインして、可否結果を確認することもできます。
 *受験生の便宜を考慮したものであり、正式な可否の発表は可否結果通知の郵送により行います。

入学試験方式によって、上記と異なることがあります。

アクセス

(2020年3月現在)

各キャンパスへの
交通機関



衣笠CAMPUS	交通機関	路線	所要時間	立命館大学
JR・近鉄・地下鉄 京都駅 (烏丸中央口)	市バス (京都駅前)	50	42分	立命館大学前(終点)
		快速立命館	36分	立命館大学前(終点)
	JRバス (京都駅)	205	38分	衣笠駅前 徒歩10分
		高雄・京北線	30分	立命館大学前
	市バス (西大路四角)	205	13分	衣笠駅前 徒歩10分
		快速立命館	15分	立命館大学前(終点)
	京福 (西院駅)	福山本線・北野線 (稚子ノ辻乗換)	22分	立命館大学前(終点)
			22分	龍安寺駅 徒歩6分
	市バス (四条大宮)	52 55	25分	立命館大学前(終点)
		JRバス (西大路四角)		18分
京阪 三条駅 地下鉄 三条京阪駅	市バス (三条京阪前)	12	53分	立命館大学前(終点)
		15	34分	立命館大学前(終点)
	市バス (二条駅前)	51	36分	立命館大学前(終点)
		59	40分	立命館大学前
JR・地下鉄 二条駅	市バス (二条駅前)	15 52 55	約20分	立命館大学前(終点)
	JRバス (二条駅前)		14分	立命館大学前
J R 円町駅	市バス (西ノ京円町)	15	10分	立命館大学前(終点)
		204 205	5分	衣笠駅前 徒歩10分
	JRバス (円町)		8分	立命館大学前
		快速立命館	8分	立命館大学前(終点)

びわこ・くさつ CAMPUS (BKC)	交通機関	所要時間	立命館大学	
京阪 中書島駅	京阪バス (京阪中書島)	直行便	35分	立命館大学
	J R 大阪駅	JR 新快速 50分	立命館大学行き 立命館大学経由 飛鳥グリーンヒル行き	20分
	J R 京都駅	JR 新快速 20分		
	JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄(京都駅経由)	70分	
	J R 三ノ宮駅	JR 新快速 70分		

大阪いばらき CAMPUS (OIC)	交通機関	所要時間	立命館大学
J R 大阪駅	JR 快速	11分	J R 茨木駅 徒歩5分
	阪急 準急	18分	阪急 南茨木駅 徒歩10分
モノレール 門真市駅		14分	モノレール 宇野辺駅 徒歩7分
モノレール 大阪空港駅		21分	モノレール 宇野辺駅 徒歩7分
J R 京都駅	JR 新快速	12分	J R 高槻駅 徒歩5分
	JR 快速	5分	J R 茨木駅 徒歩5分
J R 三ノ宮駅	JR 快速	41分	J R 茨木駅 徒歩5分
京阪 枚方市駅	京阪バス (枚方市駅北口)	45分	立命館大学(岩倉公園前)
阪急 茨木市駅	京阪バス (阪急茨木)	7分	立命館大学(岩倉公園前)

大阪梅田 CAMPUS (大阪富国生命 ビル5F・14F)	交通機関	所要時間	立命館大学
J R 大阪駅	JR南口	徒歩5分	立命館大学
	阪急・阪神 大阪梅田駅	徒歩5分 / 徒歩3分	立命館大学
地下鉄御堂筋線 梅田駅	南改札口	徒歩3分	立命館大学
地下鉄谷町線 東梅田駅	北東改札口	徒歩1分	立命館大学

朱雀CAMPUS	交通機関	所要時間	立命館大学
JR・近鉄・地下鉄 京都駅	JRまたは地下鉄(烏丸御池乗換)	約10分	J R・地下鉄 二条駅 徒歩2分
	阪急	40分	阪急 大宮駅 徒歩10分

キャンパスを結ぶシャトルバスも運行中
正課、また課外活動に参加する本学学生のために、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス(BKC)、大阪いばらきキャンパス(OIC)を結ぶシャトルバスを運行しています。

アクセス方法の詳細は、上記QRコードを読み込みウェブサイトを確認してください。

立命館大学大学院に関する情報の入手方法

まずはウェブサイト、各種イベントで
立命館大学大学院のことを知ってください。



イベント 情報

立命館大学大学院への進学をお考えの方に向けて、
各種イベントを実施しています。是非ご参加ください。

●研究科合同進学説明会

申込・参加費不要 / 過去問題閲覧可 / 個別相談可

本説明会は研究科合同のイベントとして、春季と秋季に開催します。

- ◆全体説明会・大学院の概要や特徴、学費・奨学金、進路・就職、キャリア支援等の説明。
- ◆研究科個別相談会・研究科紹介、研究指導体制、カリキュラム、入試等の説明。
直接研究科の教職員に相談ができる機会です。
また、現役の大学院生と懇談できる場合もあります。

(上記は予定であり、日程によって参加研究科や実施内容は異なります。詳細はウェブサイトを確認してください。)

●研究科別入試説明会

研究科主催で個別説明会を実施します。
開催日程については、ウェブサイトを確認してください。

●大学院ウィーク

各キャンパスにて「大学院」に関わる企画を集中した期間に実施します(大学院授業・施設見学、教員・修了生・大学院生との懇談や相談会、大学院に関わるセミナーなど)。低回生にも大学院のことを知ってもらえる機会ですので、お気軽にご参加ください。日程や企画内容はウェブサイトを確認してください(一部の企画は学内生に限る場合があります。2019年度は11月に実施)。

ウェブ サイト

立命館大学大学院に関する情報について、「立命館大学大学院 入試情報サイト」から確認することができます。入学試験要項のダウンロードやインターネット入学システム「Ritsu-Mate」へのリンクの他、イベント情報、過去問題、教員情報等についても掲載しています。



入学試験要項
(出願書類)
過去の入試結果
過去問題

インターネット入学システム
「Ritsu-Mate」へのアクセス

研究科合同進学説明会
研究科別入試説明会
大学院ウィーク

研究科ウェブサイトへの
リンク

◆立命館大学
研究者学術情報データベース
こんな研究はどの研究科でできるの？
この先生はどの研究科？
などが調べられます。
・キーワード検索
・名前検索
・所属別一覧
・研究分野別一覧 など...

教員情報の検索

ウェブサイトの情報・構成は
変更されることがあります。
○2021年4月入学の入学試験要項は
2020年4月下旬公開予定です。
○2021年9月入学の入学試験要項は
2020年10月下旬公開予定です。

立命館大学 大学院 入試情報サイト

検索

URL : <http://www.ritsumei.ac.jp/gr/>

